

SD-01 屋根 屋上パラペット 共通事項

- 1. 適用範囲  この共通事項は寒冷地には適用しない。
- 2. パラペット
  - 立上りコンクリート厚さ 180mm以上とし、ダブル配筋とする。
  - あごの厚さ 180mm以上とし、ダブル配筋とする。
  - あごの水切りを設ける。
  - 防水層立上り寸法 水上床仕上面より200mm以上とする。
  - 防水層端部押え れんが、又は金物で押える。
  - 天端の水勾配 1/10以上とする。
  - 種類及び仕様 当社標準仕様による。
- 3. 防水層  原則として普通コンクリートとする。  $t=60\text{mm}$ 以上直押えとする。  
(モルタル仕上不可)
- 4. 防水押えコンクリート
  - 配筋の要否、範囲を検討する。 車路、自走式ゴンドラ、ゴンドラ及び機械基礎まわり、鉄骨造で大スパン等の場合、配筋(溶接金網2,6φ100×100)をする。
  - アスファルト防水(押えあり) 1/100以上(スラブで勾配を取る)
  - 露出防水(アスファルト、又はシート) 1/50以上(スラブで勾配を取る)
  - 溝勾配 1/200以上
  - 各部伸縮目地の仕様

6. 伸縮目地

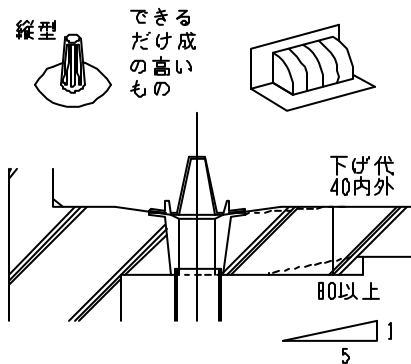
部 位	目 地 幅	目 地 位 置
一 般 部	200mm	3.0m内外 4.0m以下
パラペット際 基礎まわり	200mm以上	溝のある場合 溝端より 300m以内
		溝のない場合 立上り面より600mm以内
防水立上り部 (モルタル塗り)	こて目地(V型)	1.5m以上 2.0m以下
溝部及び一般 部のモルタル塗り 部分	伸縮目地20mm	3.0m以上 4.0m以下
	こて目地(V型)	1.5m以上 2.0m以下

- プラスチック既製目地材を使用する場合は、耐候性、熱伸縮を考慮し選定する。
- タイル仕上の場合、押えコンクリートの伸縮目地とタイルの伸縮目地とを合合わせる。
- 設備機器、手すり基礎などは伸縮目地にまたがらないように配置する。

7. ルーフドレン

ストレーナの形は右図による。  
下げ代40mm程度を確保できない場合は、ドレン周辺のスラブを下げる。

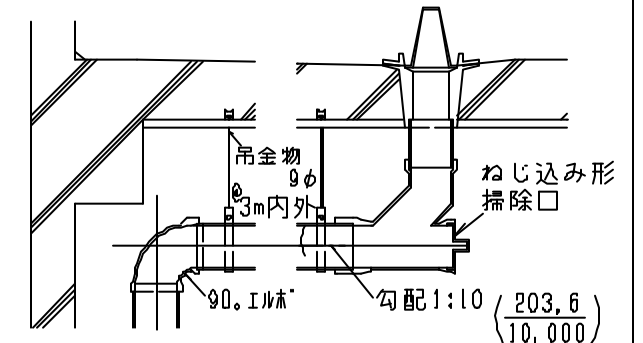
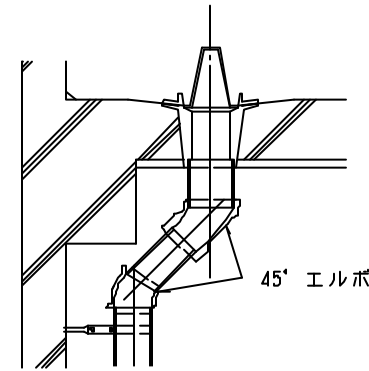
(スラブの薄い場合、断熱材の無い場合、ドレンの成が高い場合等)



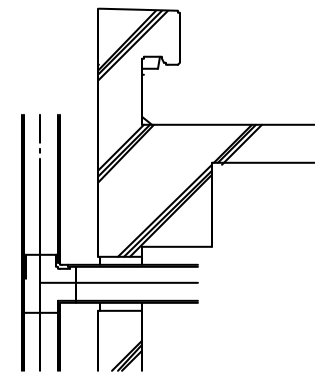
- 管径と受持ち得る最大屋根面積(最大降雨量 180mm/hrの場合)  
(建築工事標準詳細図(56年版建設大臣官房官庁営繕部)による)

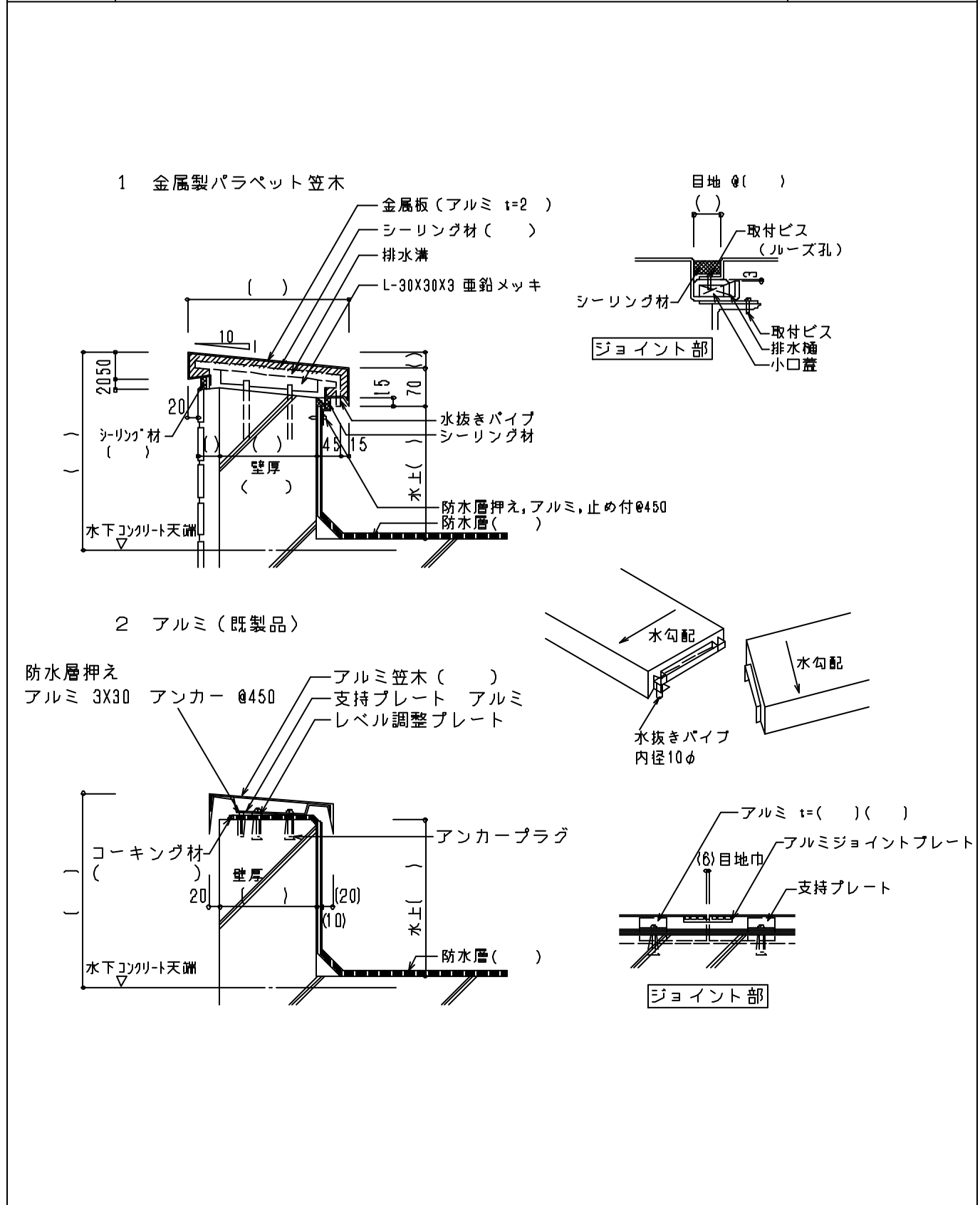
管 径 mm	屋根面積 m <sup>2</sup>	注意事項
75	78	噴型ドレン。又は横走り管の長い場合は受持ち得る屋根面積を1/2程度とする。
100	160	
125	280	
150	430	

- 屋根にはルーフドレンを2ヶ所以上設ける。但し小面積の場合は1ヶ所をオーバーフロー管に代えても良い。
- ドレン確認・メンテナンスのできる位置に設置する。
- 下屋、庇等の上部に壁がある場合は、壁面積の50%を屋根面積にに加える。
- 外部に設ける場合で、塩ビ管を使用する場合はVU管とする。
- 衝撃を受ける恐れのある部分には養生管を設ける。
- 屋内に設ける場合は原則として白ガス管とし、下図の納まりとする。

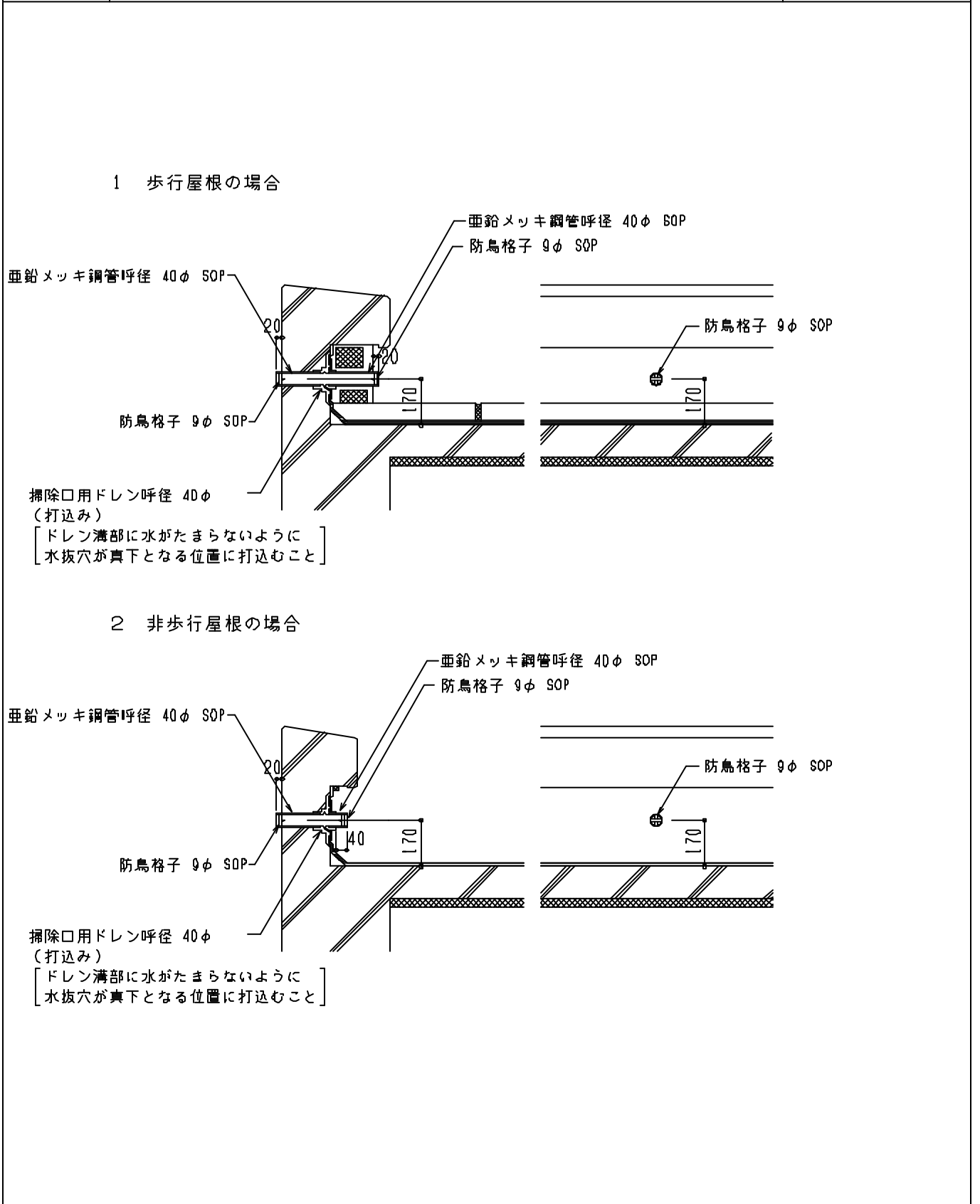


(天井がある場合点検口が必要)



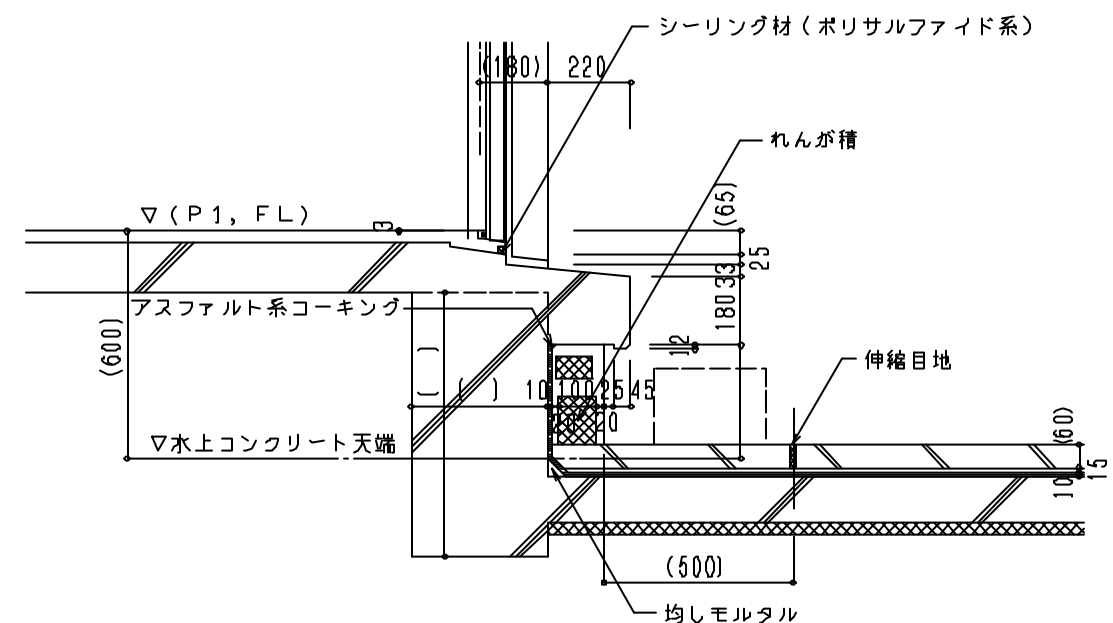


- 適用範囲  寒冷地には適用しない。  
 非歩行屋根の場合。  
 注意事項  防水層の立上り寸法は水上で200mm以上とする。  
 金属製パラペット笠木の目地幅は、シーリング材の長期許容伸縮率を考慮して決定する。  
 排水樋にはパネル取付用ビス孔をあけない。  
 合成高分子シート防水の場合は、立上り及び入隅下地を直角とする。

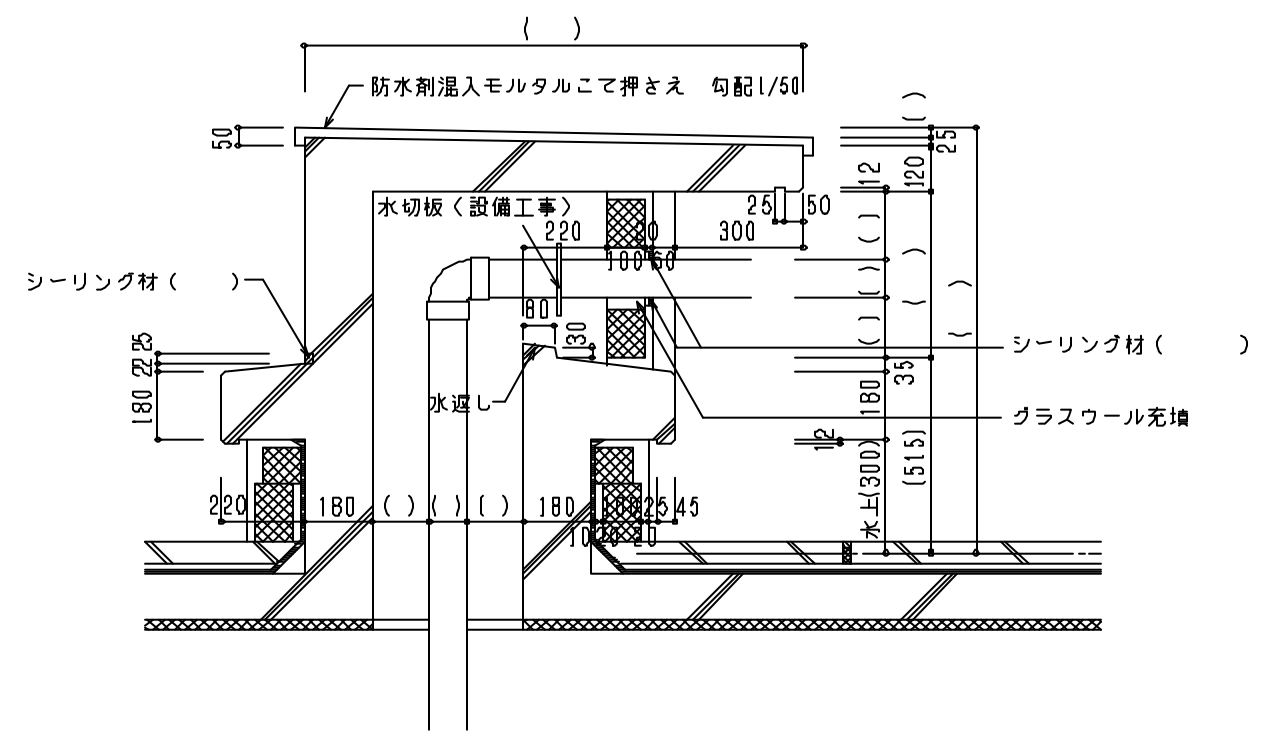
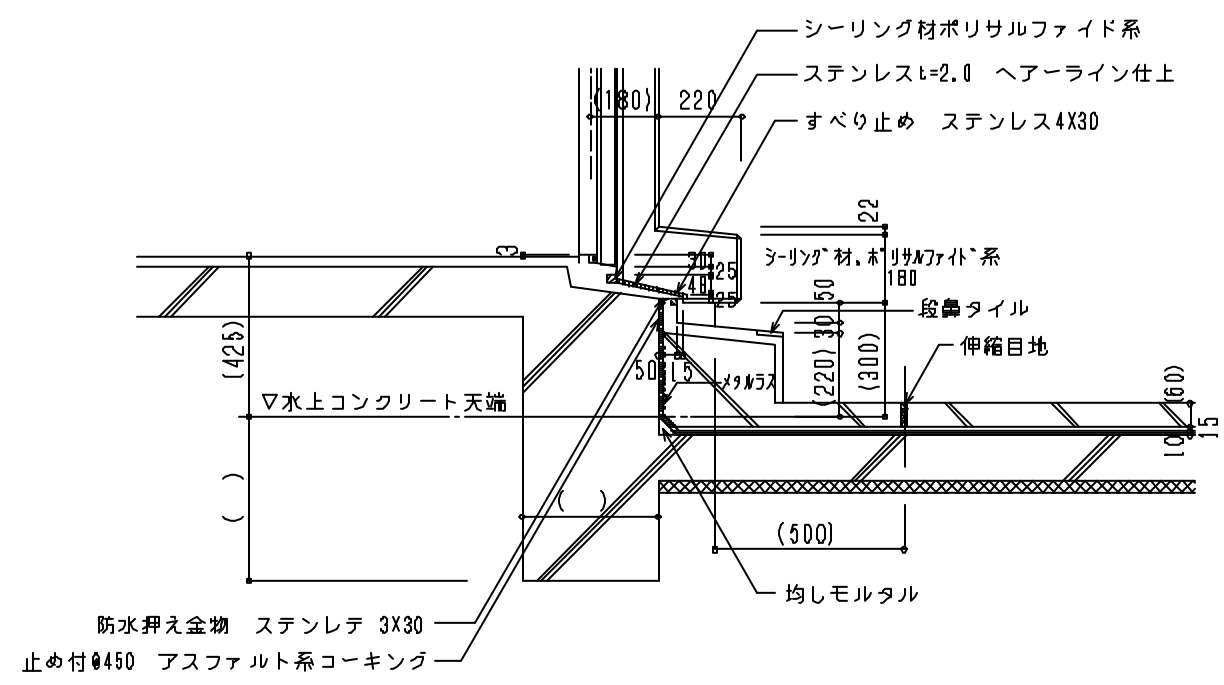


- 適用範囲  屋根面積が小さく、ルーフトレンを1か所とする場合に設ける。  
 注意事項  シート防水の場合は、立上り及び入隅下地を直角とする。

出入口をあこの上に設ける場合



出入口の段差を最小にする場合



パイプ取付方法は設備工事の仕様による

- 適用範囲  寒冷地には適用しない。  
 出入口をあこの上に設ける場合。(上図)  
 出入口の段差を最小にした場合。(下図)
- 注意事項  梁の関係をチェックする。  
 出入の頻度が多い場合には、出入口前に段を設ける。(段は防水立上り層より離しておくこと)

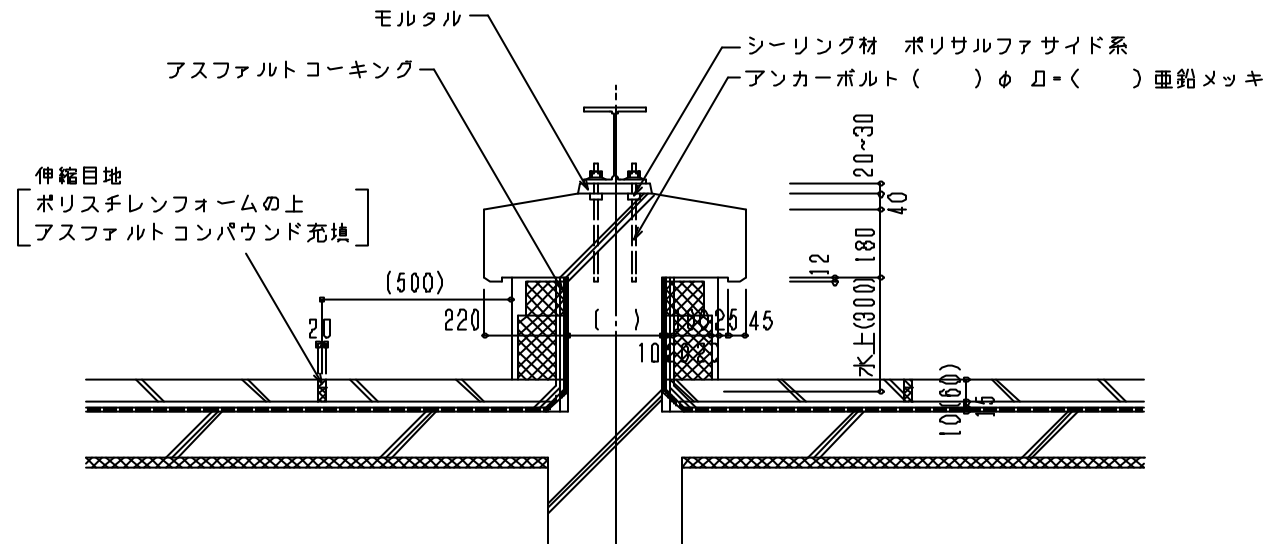
- 適用範囲  寒冷地には適用しない。  
 注意事項  長さが3mをこえる場合、壁厚及び屋根の防水層を検討する。  
 結露による実害の恐れのある場合は断熱材を使用する。  
 パイプとのクリアランスは、設備と打合せの上決定する。  
 大きさ、位置を決定し、小梁の要否、配筋の検討をする。

SD-12

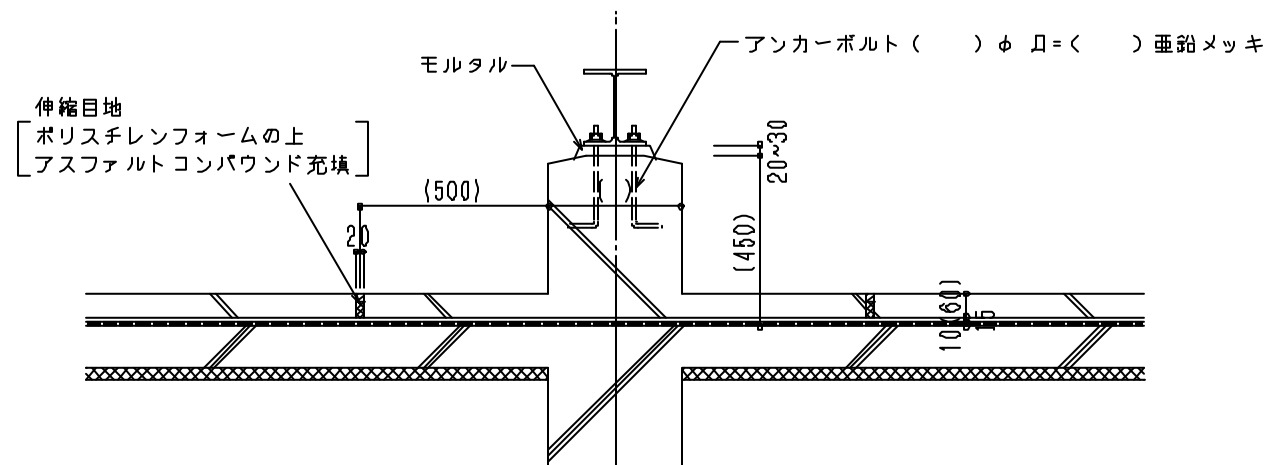
屋根 屋上機器類の基礎 ( 1 )

1:20

布基礎



( 機器が軽微で移動が可能な場合 )

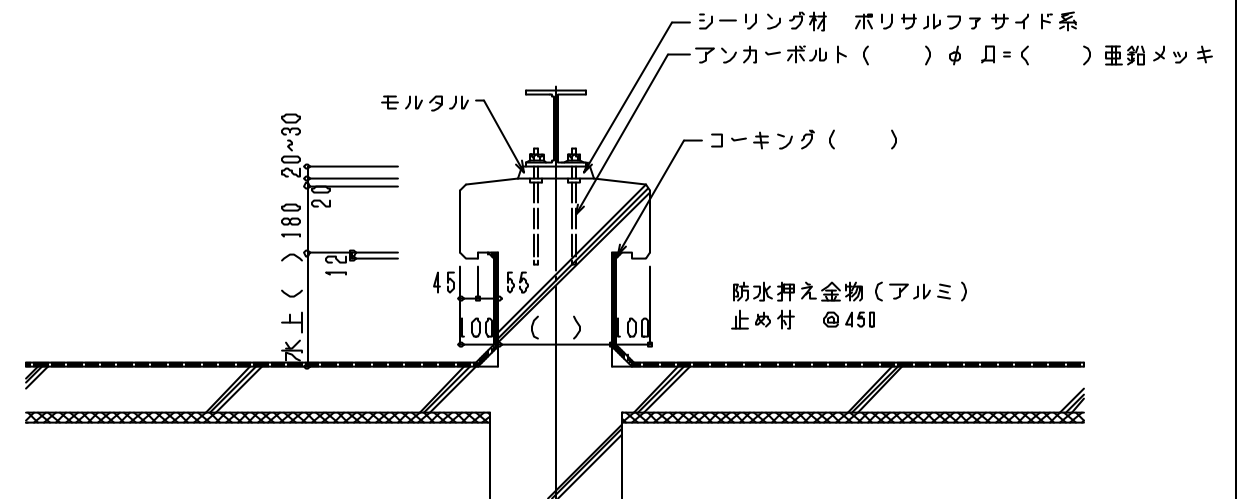


SD-13

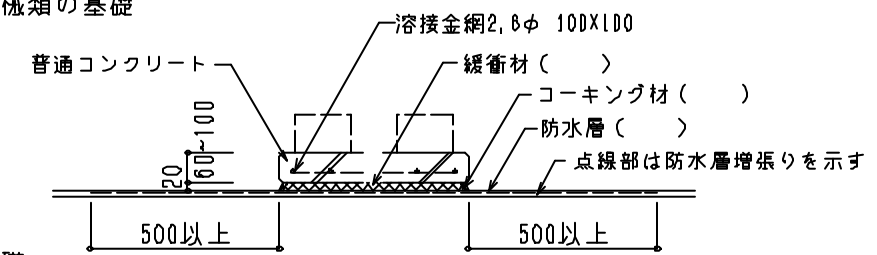
屋根 屋上機器類の基礎 ( 3 )

1:20

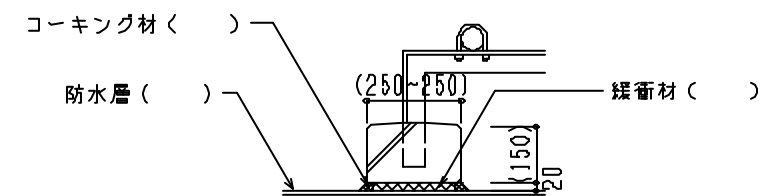
1. 布基礎



2. 軽微な機械類の基礎



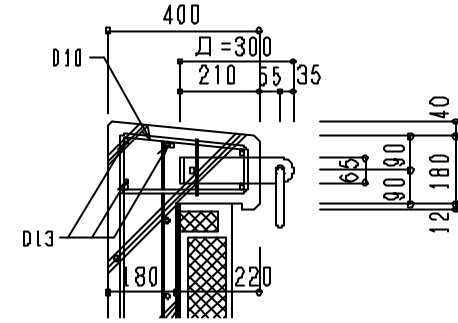
3. 配管用基礎



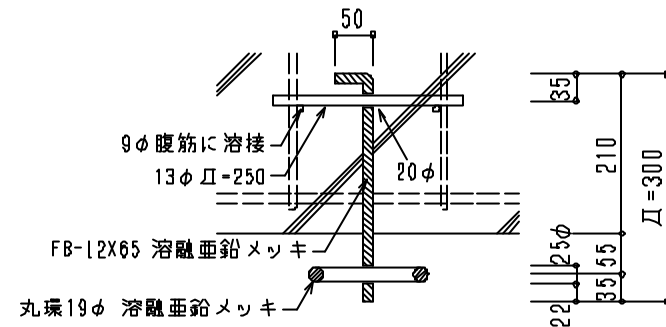
- 適用範囲
- 設備機器荷重を構造体に支持しなければならない場合。(上図)
  - 防水メンテナンス時に、設備機器が移動できない場合。(上図)
  - 防水メンテナンス時に、設備機器が移動できる場合。(下図)
- 注意事項
- 梁の位置、基礎寸法、配筋、アンカーボルト、防震対策の要・不要等を検討する。
  - 寒冷地では防水立上り寸法を水上+450mm以上とする。(上図)
  - 防水層に1t/m<sup>2</sup>以上の荷重がかからないように基礎寸法を検討する。(下図)
  - 屋上水勾配と基礎位置を検討する。(下図)

- 適用範囲
- 設備機器荷重を構造体に支持しなければならない場合。(上図)
  - 防水メンテナンス時に、設備機器が移動できない場合。(上図) 移動できる場合(中・下図)
  - 機械基礎等のコンクリート打設面積の合計が、屋根面積の1割以下かつ10m<sup>2</sup>以下であること。
  - 防水層にかかる荷重は500kg/m<sup>2</sup>以下であること。(中・下図)
- 注意事項
- 梁の位置、基礎寸法、配筋、アンカーボルト、防震対策の要・不要等を検討する。
  - メンテナンス通路部には保護層を考慮する。
  - シート防水の場合は、立上り及び入隅下地を直角とする。
  - 緩衝材は軟質ウレタン発泡シート、フォームポリスチレン等を使用する。

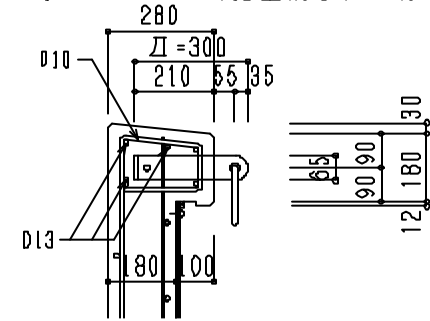
1. パラペット（防水押え有）に付く場合



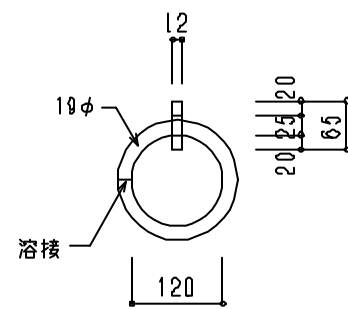
吊環詳細



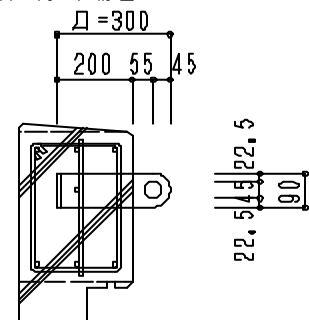
2. パラペット（露出防水）に付く場合



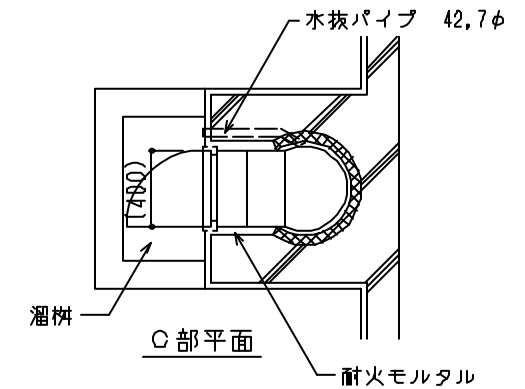
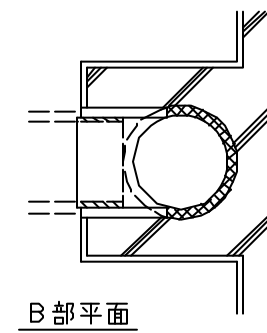
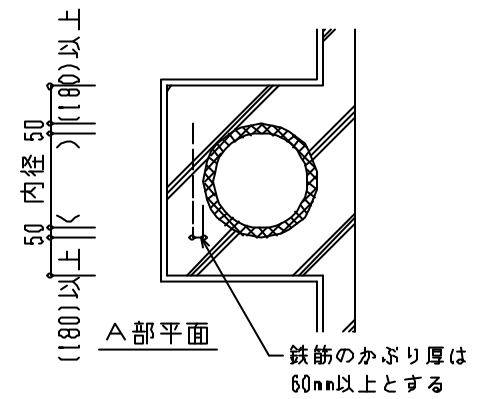
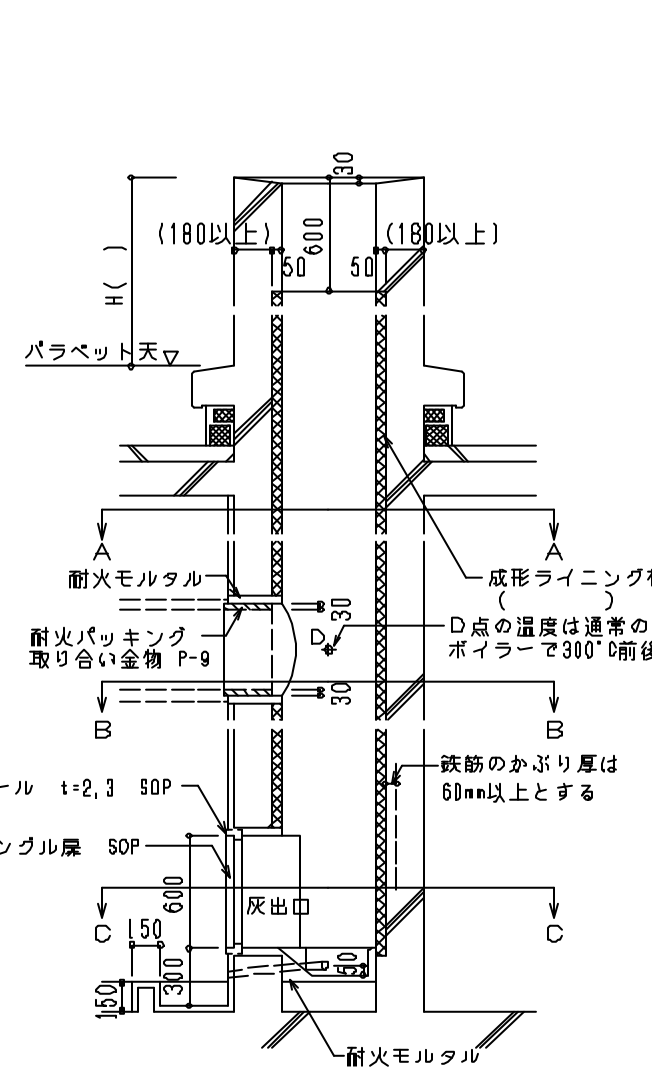
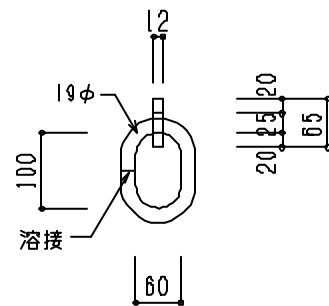
A型（許容荷重 500kg）



3. 梁に付く場合

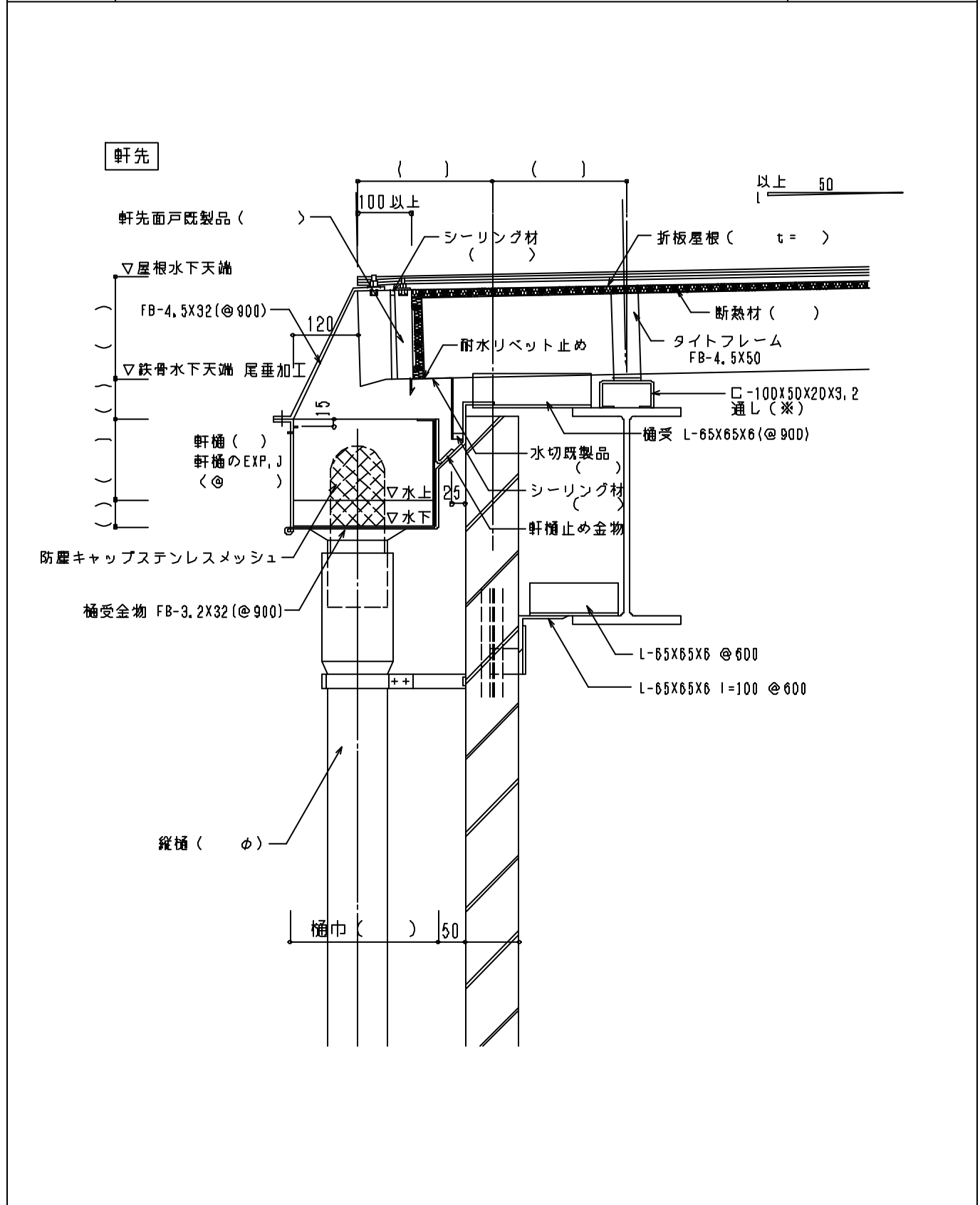


B型（許容荷重 1,000kg）

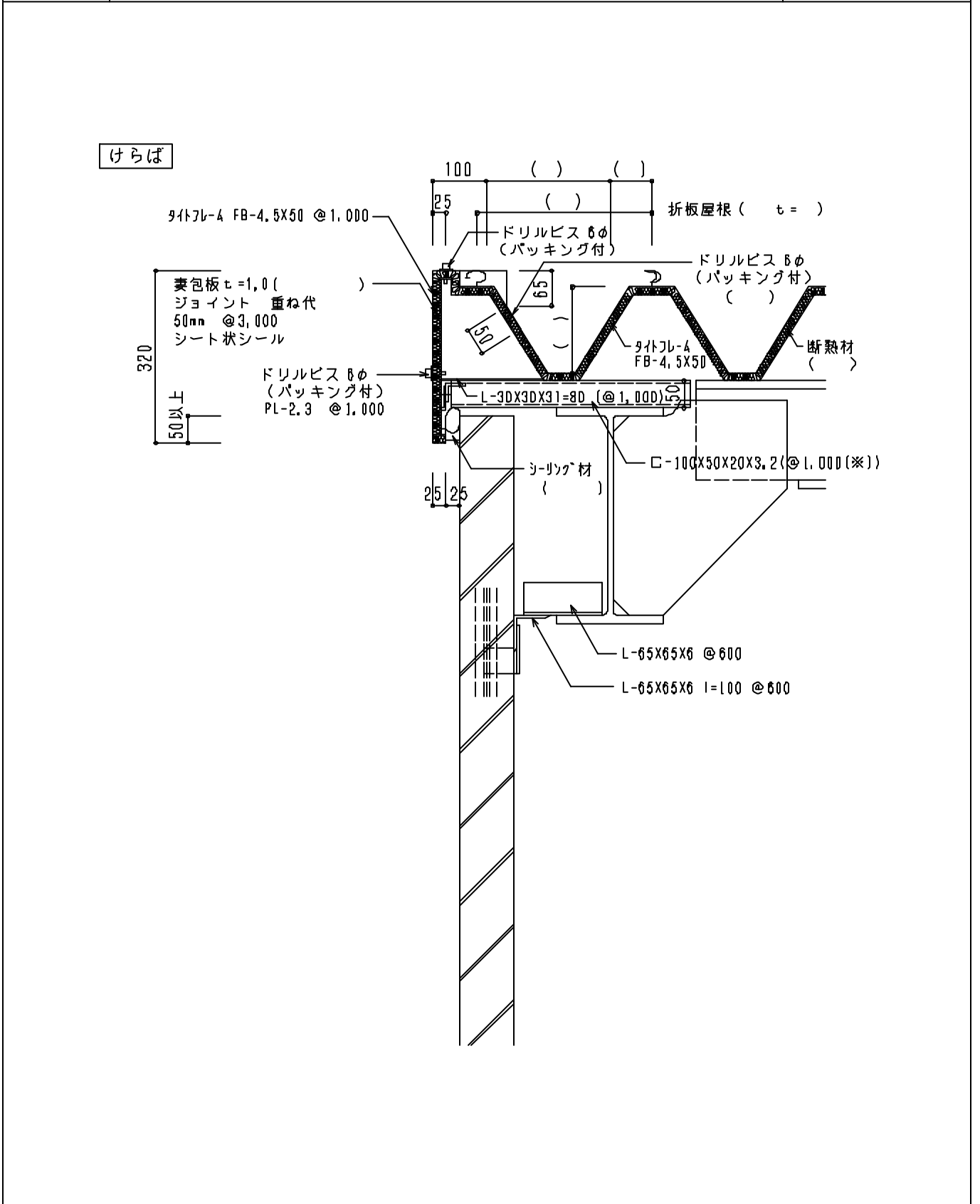


- 適用範囲  3. の吊環（リングなし）をパラペットあごに取付ける場合は、あご厚を200mmとする。  
 注意事項  取付間隔は6m内外とする。

- 適用範囲  排ガス温度が200°C~500°Cの場合。  
 橋引煙道と煙突頂部との距離が短い場合は陣笠付とする。  
 注意事項  ボイラーの容量、温度により成形ライニング材の内径、厚さを検討の上明記する。  
 耐火モルタル充填部はアルミセメントモルタル(1:3)程度とする。  
 プラスチック等の焼却に使用する場合は排ガス温度に注意する。(800°C以上となる)  
 居室に接する場合には、二重壁とする。



- 適用範囲  寒冷地には適用しない。  
 屋根勾配1/50以上、流れ長さ50m以内の場合。  
 注意事項  桶勾配は1/200以上確保する。  
 (※) 梁上の継手部に添板、ボルト等の突起物のない場合は、梁上の調整用チャンネルは省略できる。  
 桶のエキスパンションのピッチを明記する。



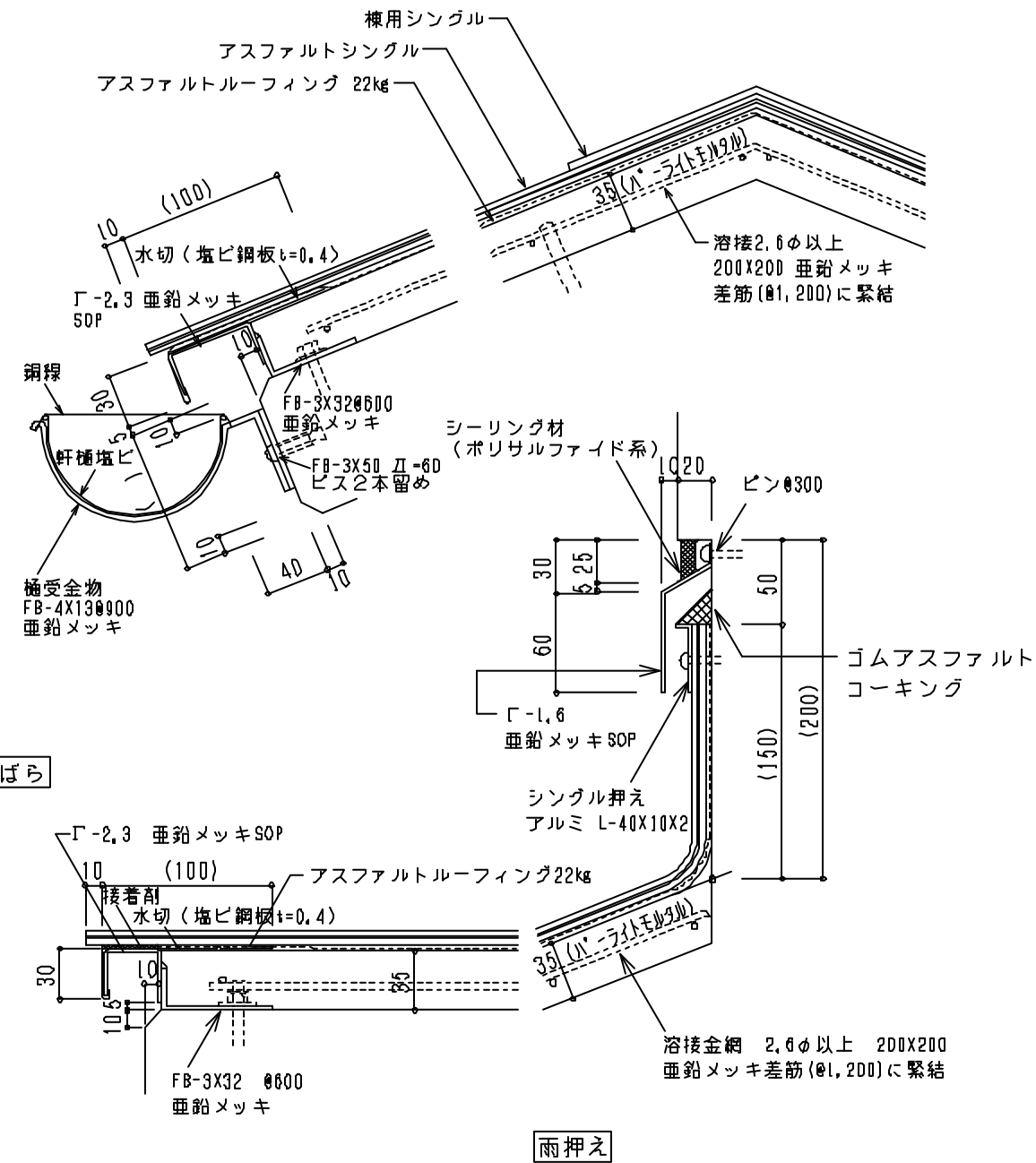
- 注意事項  折板の割付に注意し、けらばの納りは妻包板の天端の幅で調整する。  
 (続き)  妻包板のジョイントは流れ方向に重ねる。  
 50  
 シート状シール  
 30

SD-18

屋根 アスファルトシングル葺き

1:4

軒先・棟

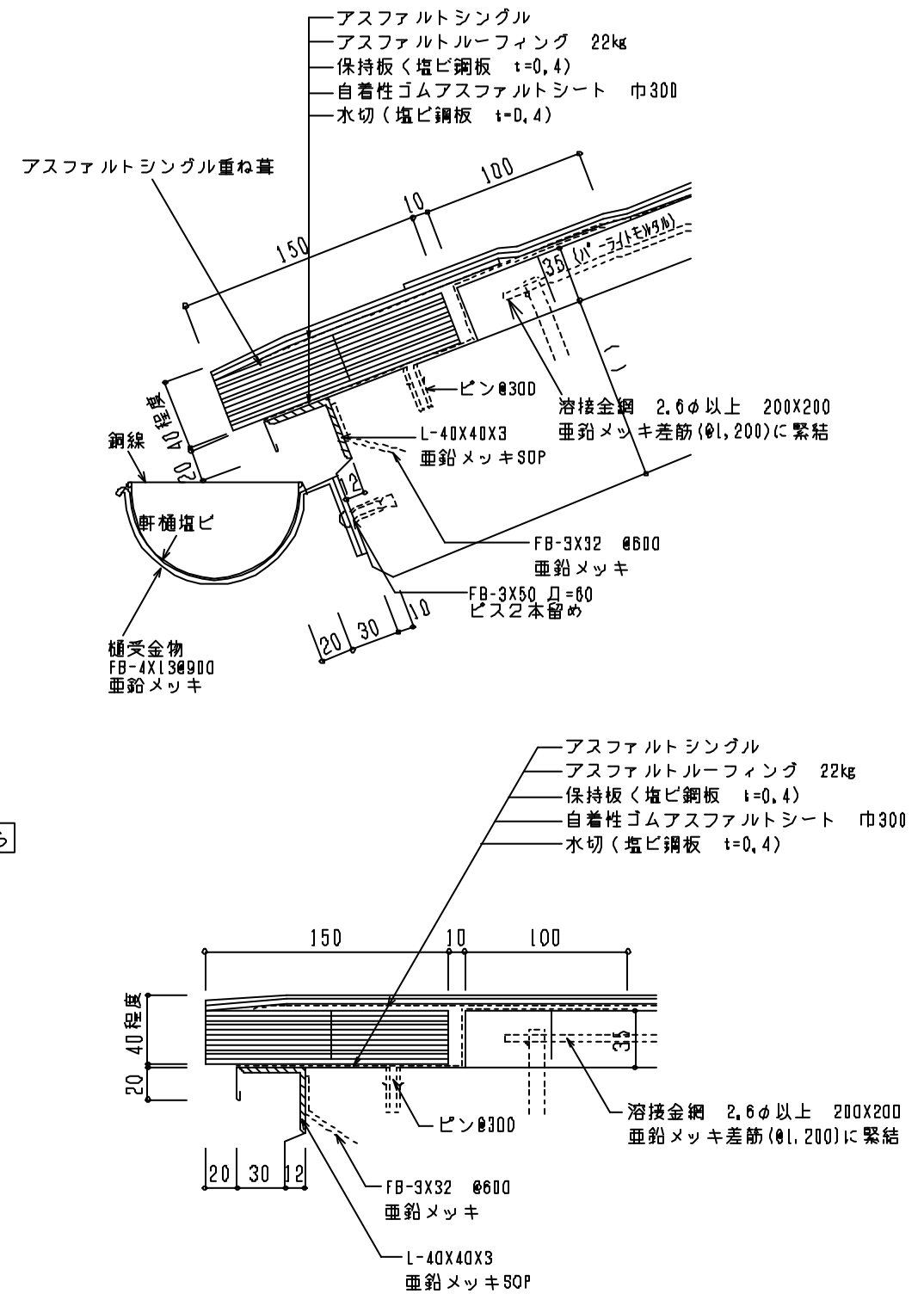


SD-19

屋根 アスファルトシングル葺き

1:4

軒先

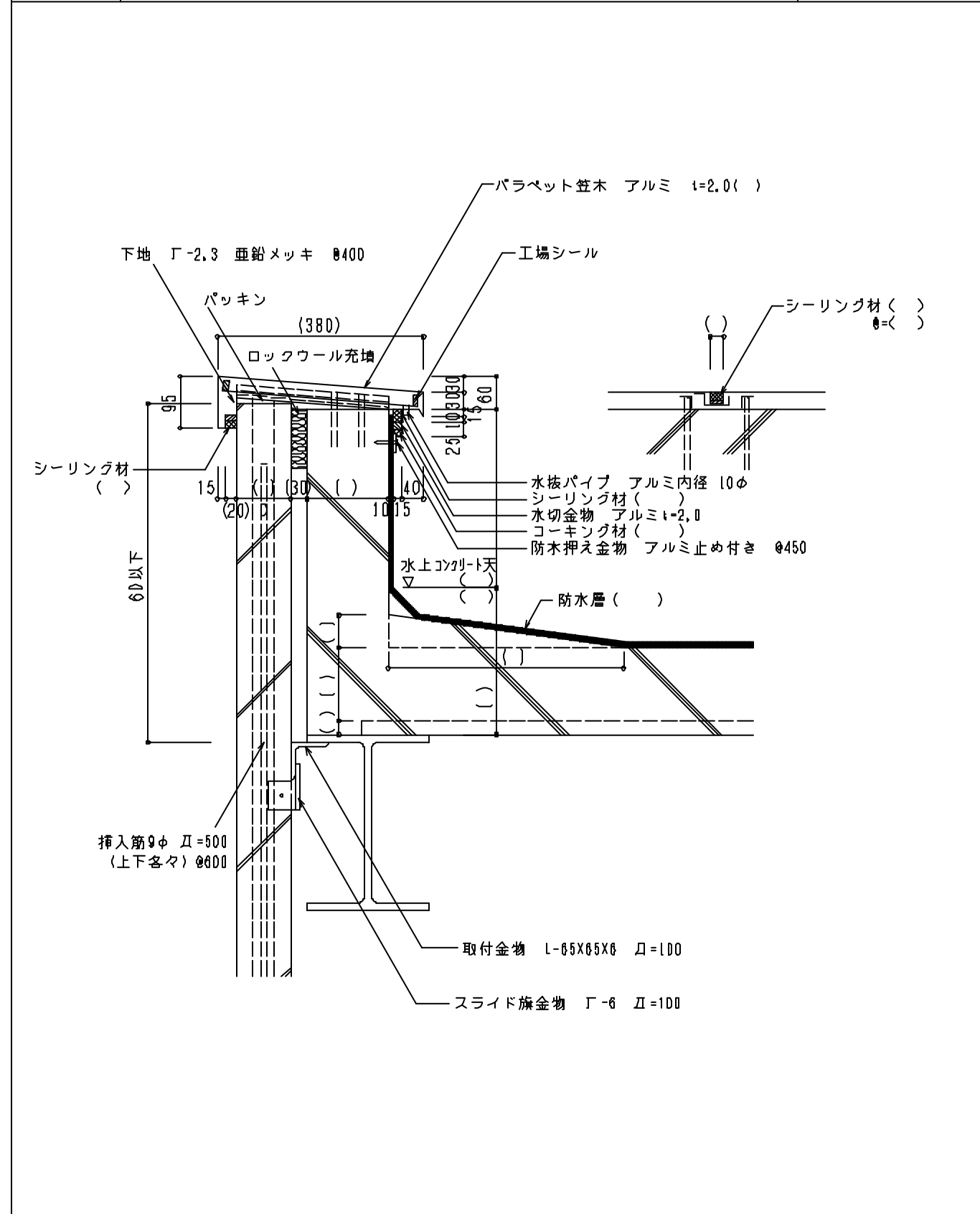


- 適用範囲  寒冷地には適用しない。  
 屋根勾配が3/10以上の場合。  
 外壁取合部で立上りの小口仕舞のない場合。  
 注意事項  パーライトは黒曜石系の左官用パーライトを用いる。

- 適用範囲  寒冷地には適用しない。  
 屋根勾配が3/10以上の場合。  
 注意事項  パーライトは黒曜石系の左官用パーライトを用いる。

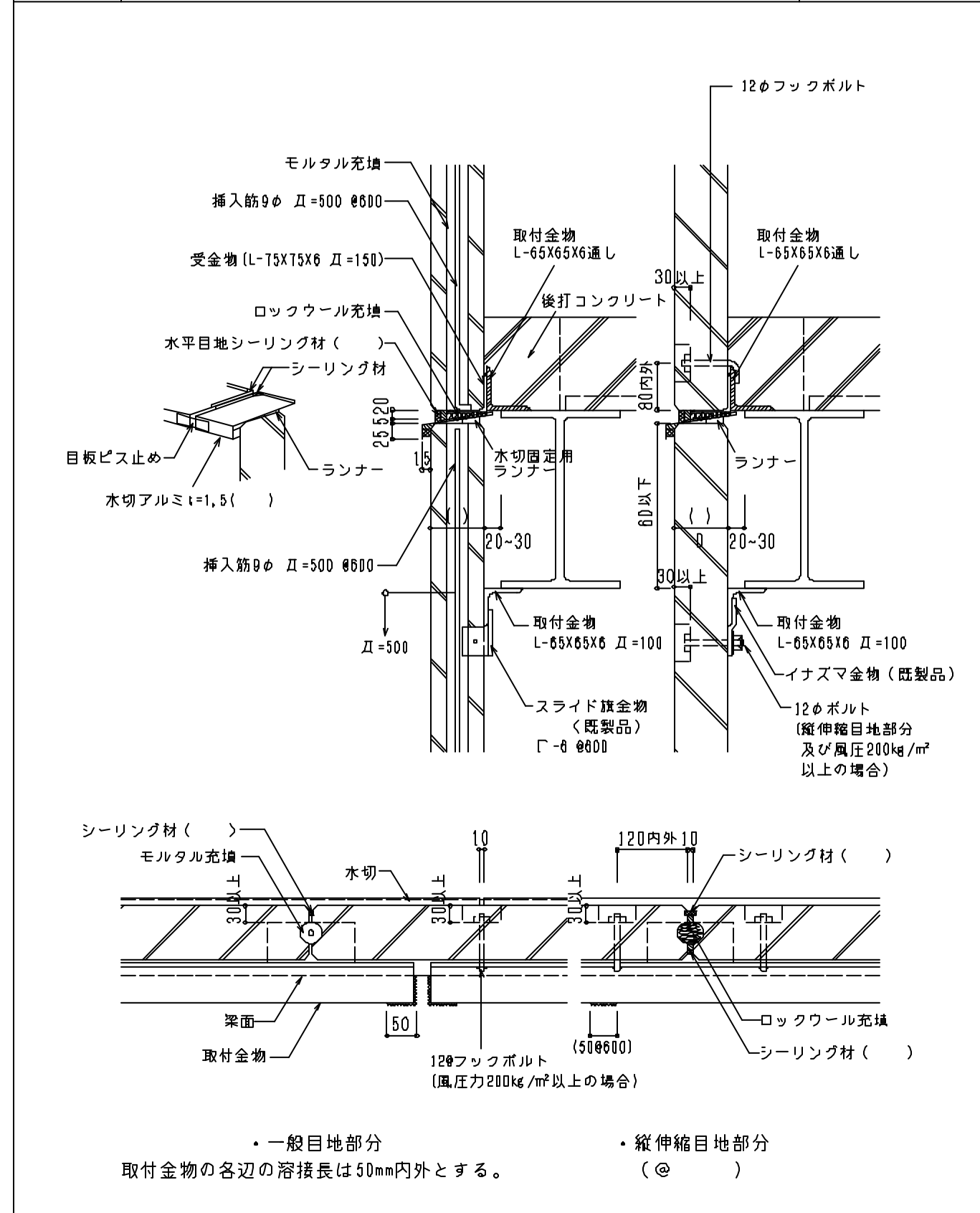
外壁 (ALC)

SD-20	外壁 ALCパネル縦積みスライド工法・パラペット	1:10
-------	--------------------------	------



- 適用範囲  層間変位量が1/400をこえる建物で高さが3m以下、階高3~4m、風圧力±200kg/m<sup>2</sup>以下の場合に適用する。  
 露出防水の場合
- 注意事項  ALC板の跳出寸法は、板厚の6倍以下とする。  
 笠木の目地幅はシーリング材の許容伸縮率を考慮して決める。  
 パラペットと取り合うスラブ厚は、割り増しを考慮する。

SD-21	外壁 ALCパネル縦積み・スライド工法・一般部	1:10
-------	-------------------------	------



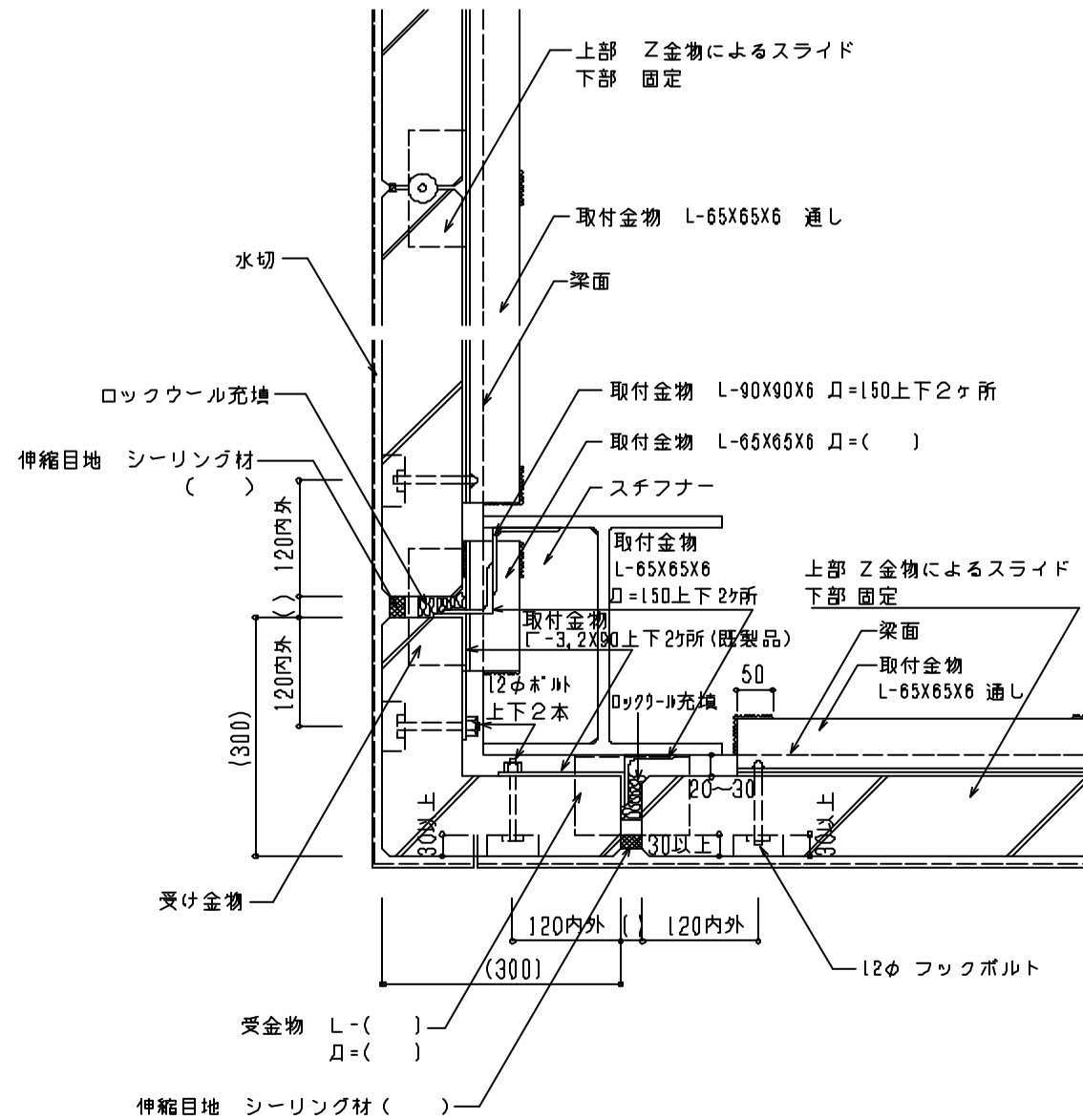
- 適用範囲  層間変位量が1/400をこえる建物で高さが3m以下、階高3~4mの建物に適用する。  
 注意事項  伸縮目地は、3.6m以内に設ける。  
 風圧力±200kg/m<sup>2</sup>以上の部分は、ボルトを板中央上下1か所ずつ設ける。  
 ( )内の数値は、板厚100mmの場合の標準を示す。  
 水平目地には水切板(本図はその一例を示す)を設ける。
- ・一般目地部分  
取付金物の各辺の溶接長は50mm内外とする。
- ・縦伸縮目地部分  
( @ )



SD-22

外壁 ALCパネル縦積み・スライド工法・出隅

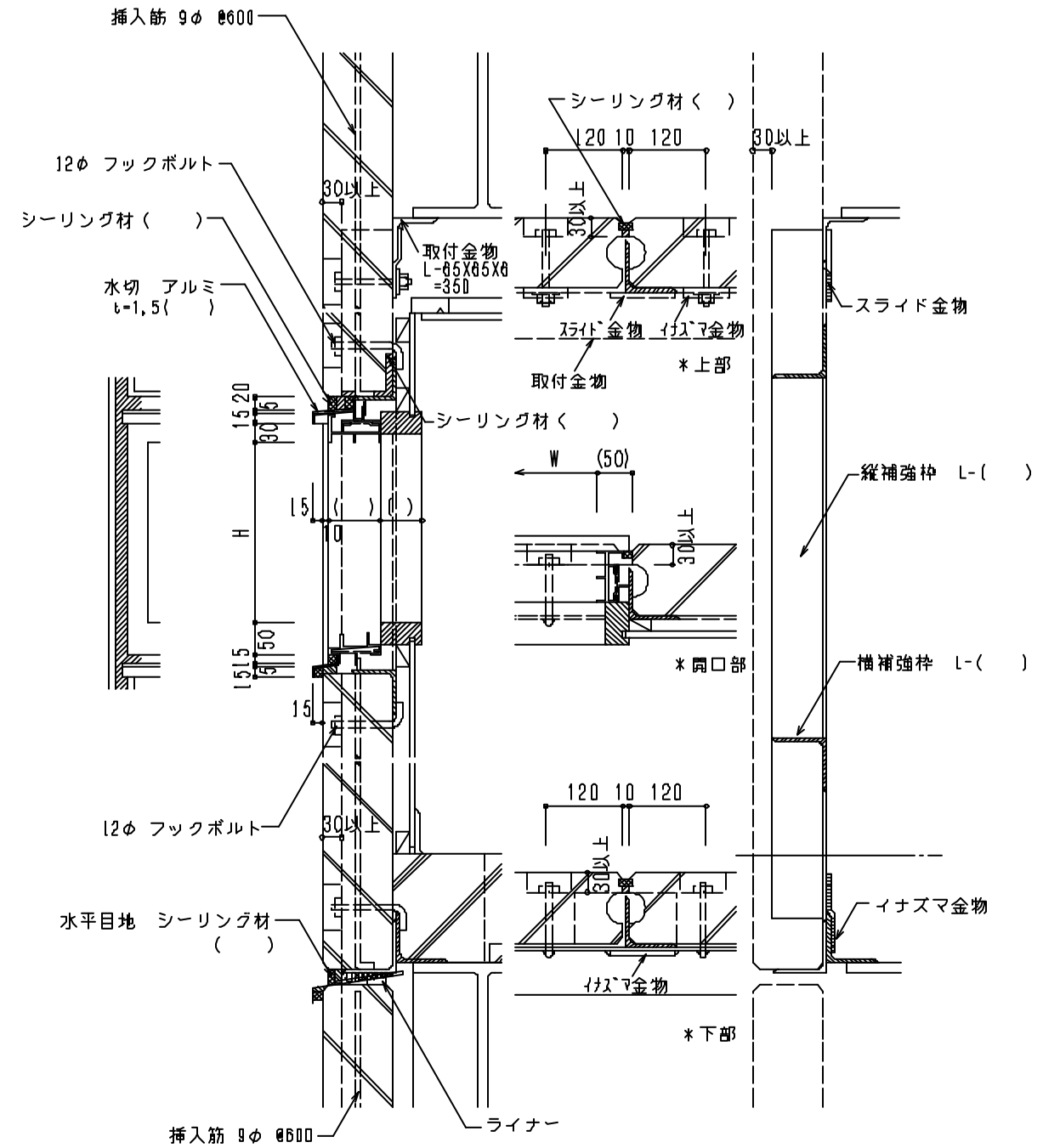
1:10



SD-23

外壁 ALCパネル縦積み・スライド工法・窓廻り

1:10

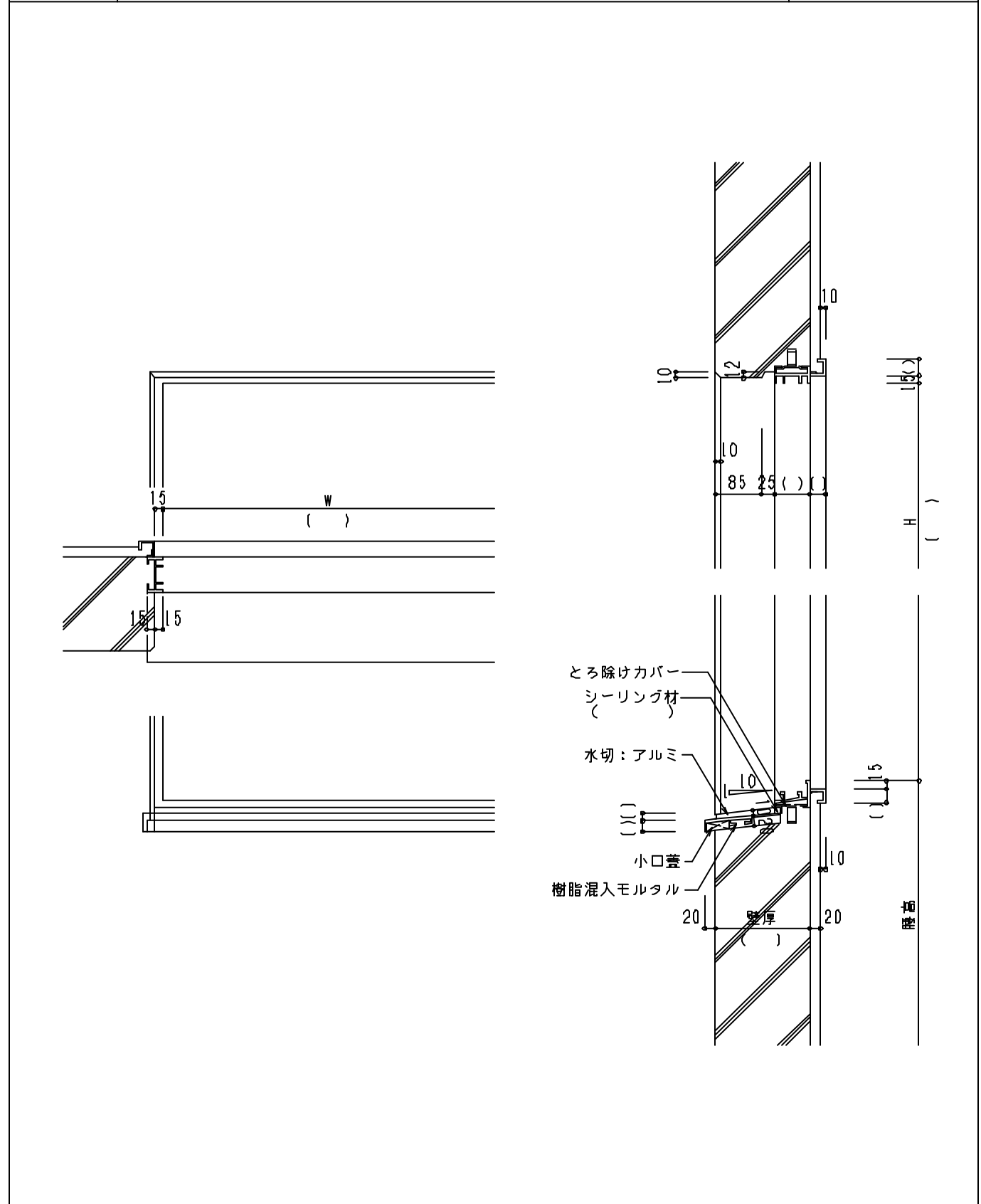


- 適用範囲 □ 層間変位量が1/400をこえる建物で高さが3m以下、階高3~4mの建物に適用する。  
 □ 出隅に役物を使用する場合。  
 注意事項 □ 伸縮目地幅は、層間変位量に応じた目地幅とする。但し、30mmをこえる場合は、カバープレートを考慮する。

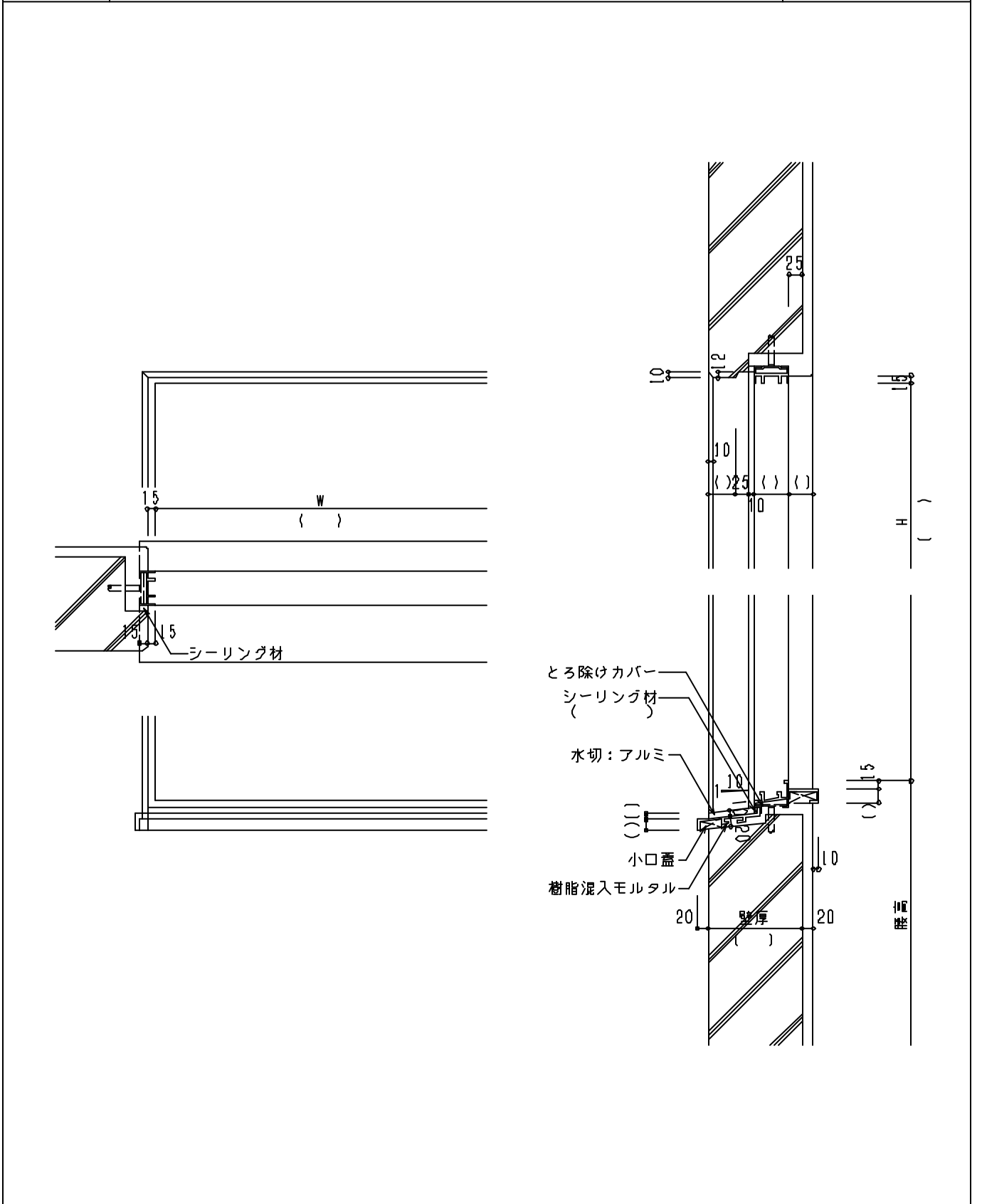
- 適用範囲 □ 層間変位量が1/400をこえる建物で高さが3m以下、階高3~4mの建物に適用する。  
 □ 開口部幅が1.2mを越える場合の開口部補強を示す。  
 注意事項 □ アルミサッシはALC用を使用する。  
 □ 補強棒の寸法は、追記する。



SD-26 窓 アルミサッシ 先付 アルミ水切 1:10



SD-27 窓 アルミサッシ 後付 アルミ水切 1:10

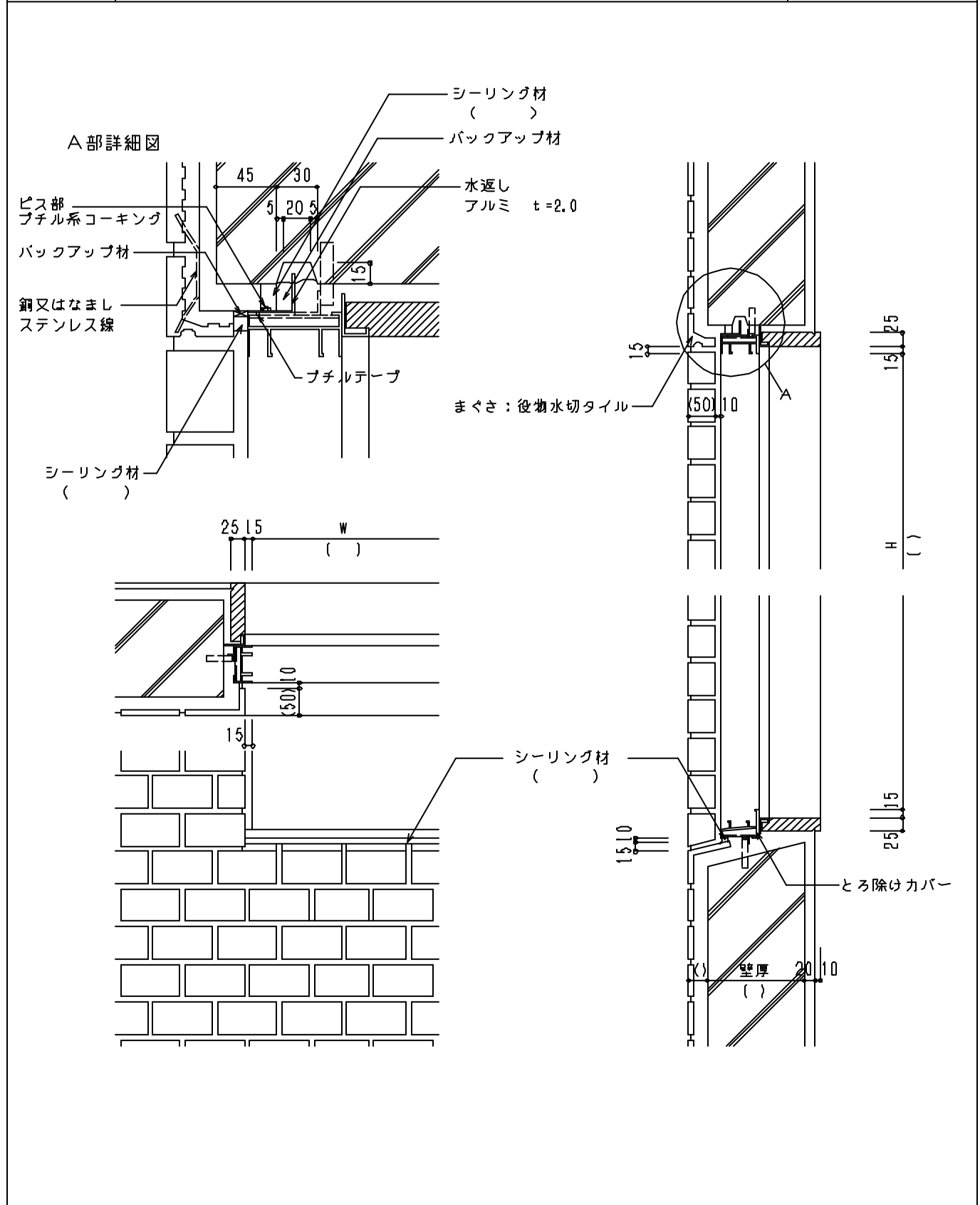


- 適用範囲  寒冷地には適用しない。  
 一般単窓、サッシ枠見込70mm以上の場合。  
 注意事項  上枠の見付寸法が25mm以下の場合及び網戸等を取付ける場合は、そのチリ寸法を調整する。  
 開口部廻りにシールをする場合、開口部廻りに亀裂誘発目地を設ける場合は、シールに必要な断面形状を確保する。

- 適用範囲  寒冷地には適用しない。  
 一般単窓、サッシ枠見込70mm以上の場合。  
 注意事項  上枠の見付寸法が25mm以下の場合及び網戸等を取付ける場合は、そのチリ寸法を調整する。

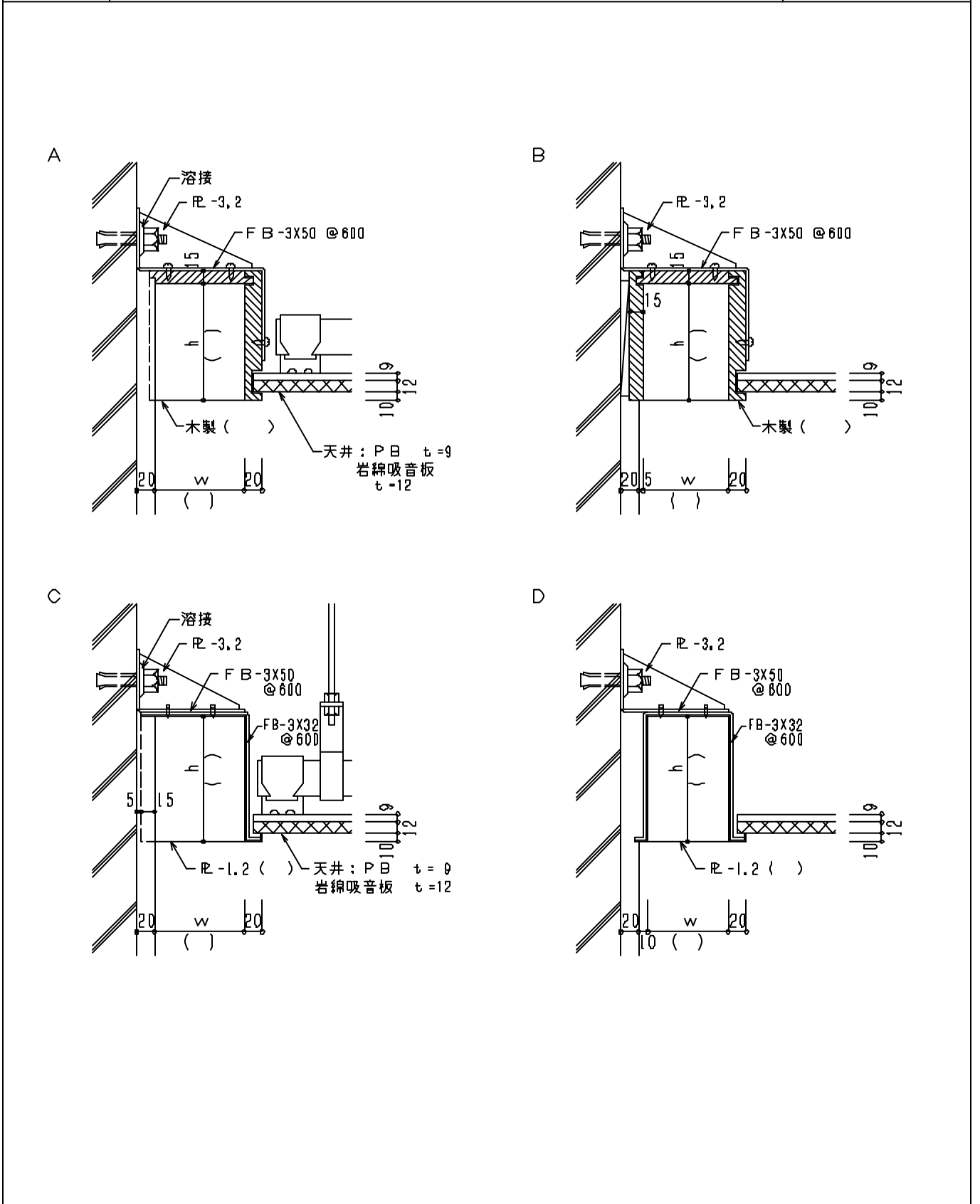


SD-30 窓 アルミサッシ 後付 外壁タイル後張り 1:10



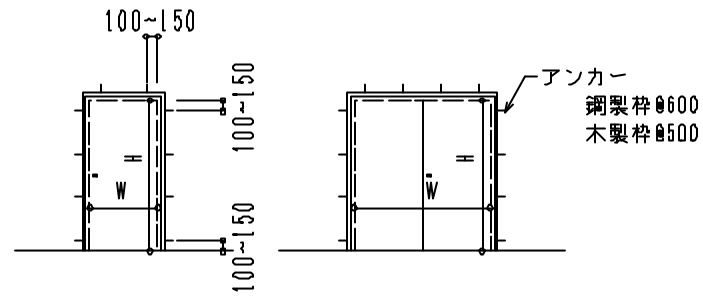
適用範囲 □ 寒冷地には適用しない。  
 注意事項 □ サッシの取付位置は、タイル役物等の見込寸法による、まぐさ部分の役物タイルは1枚とする。

SD-31 カーテン・ブラインドボックス 1:6

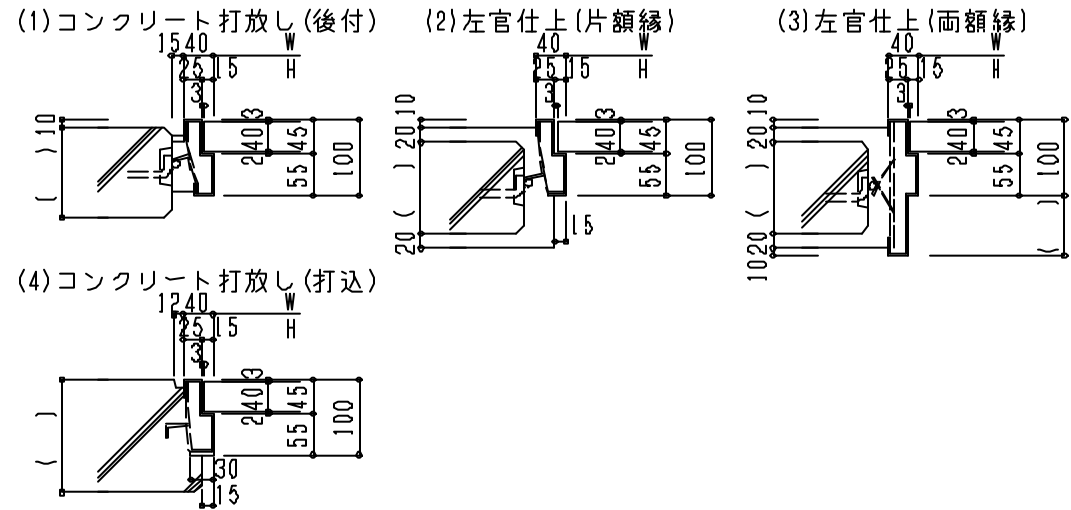


適用範囲 □  
 注意事項 □ w, h, l寸法は、サッシ及び天井等の位置を考慮の上、明記する。  
 □ 材料及び仕上の程度を明記する。(スチールメラミン焼付、AL-AE・BE等)  
 □ 幅の広い高さの大きなカーテン及び遮光カーテン等で、開き仕舞の重量が重くなる場合は、取付金物を補強する。  
 □ ファンコイル等はカーテンを考慮の上設置する。

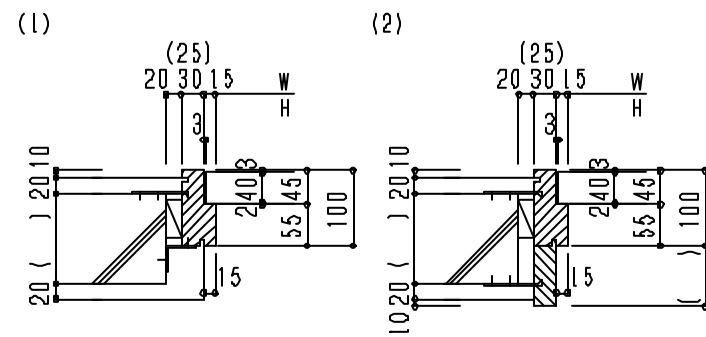
1. 枠姿図



2. 鋼製枠

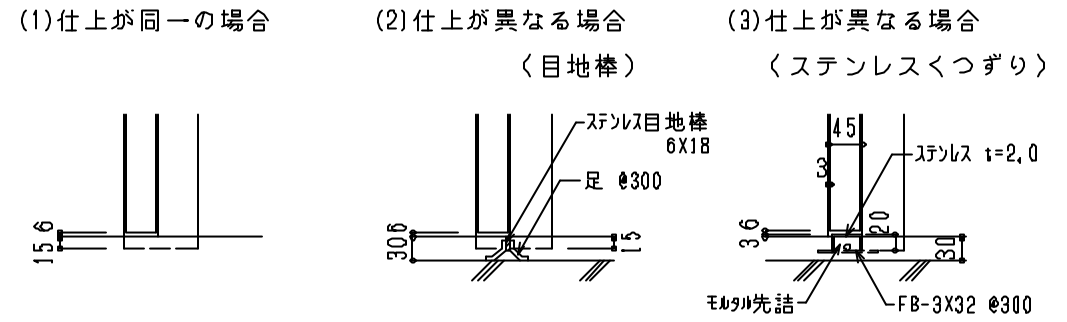


3. 木製枠



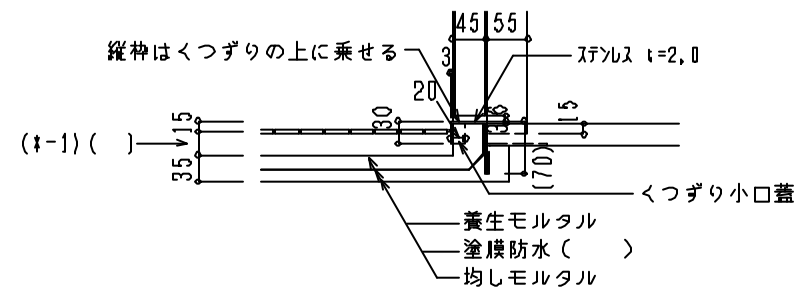
- 適用範囲   
 注意事項  扉の見込寸法は、扉幅・高さに応じて決定する。  
 コンシールドタイプのドアチェックを使用する場合は扉の見込寸法を検討する。

1. 一般

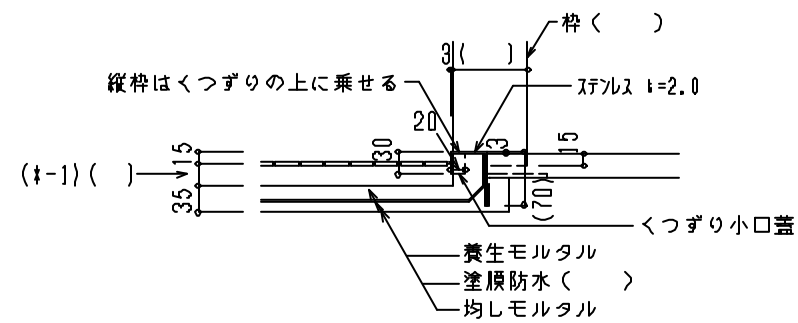


2. 塗膜防水(湯沸室等)

(1)扉のある場合

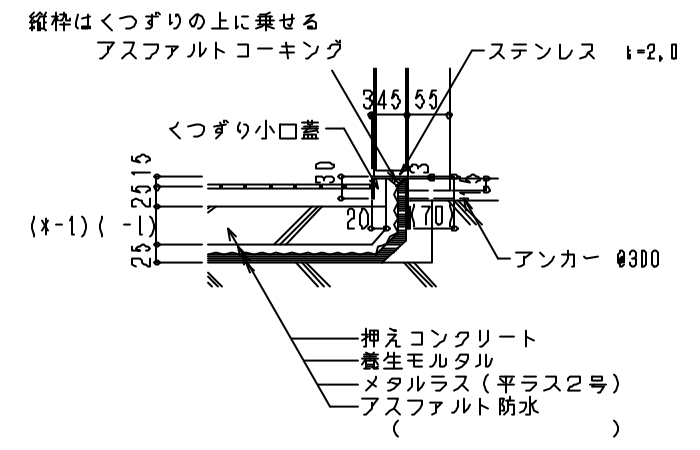


(2)枠のみの場合

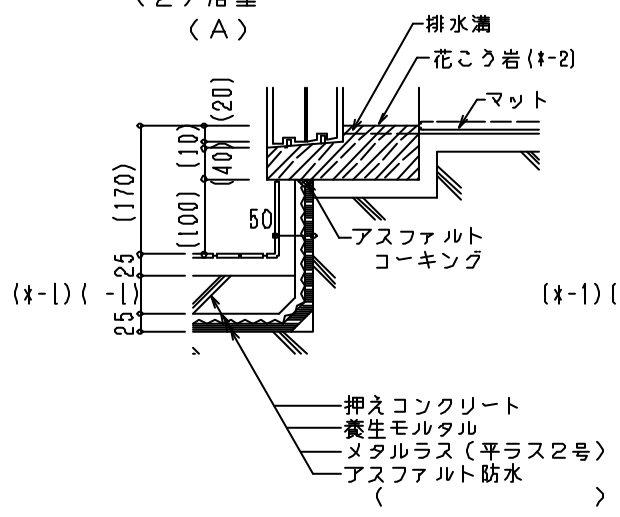


- 適用範囲   
 注意事項  (\*-1)仕上厚・勾配を考慮し決定する。

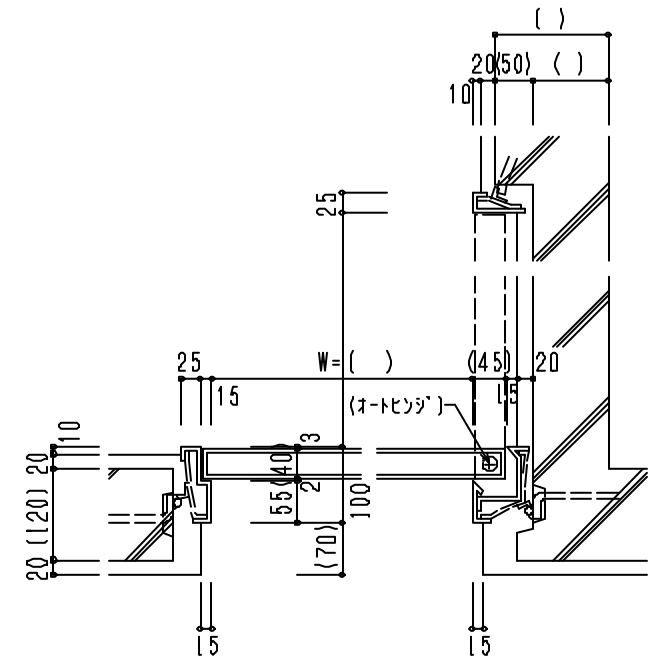
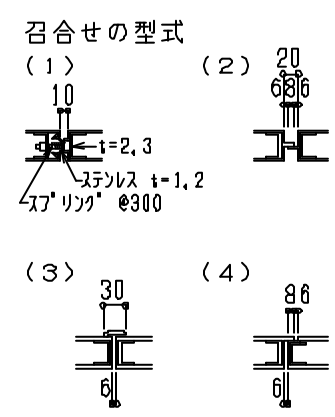
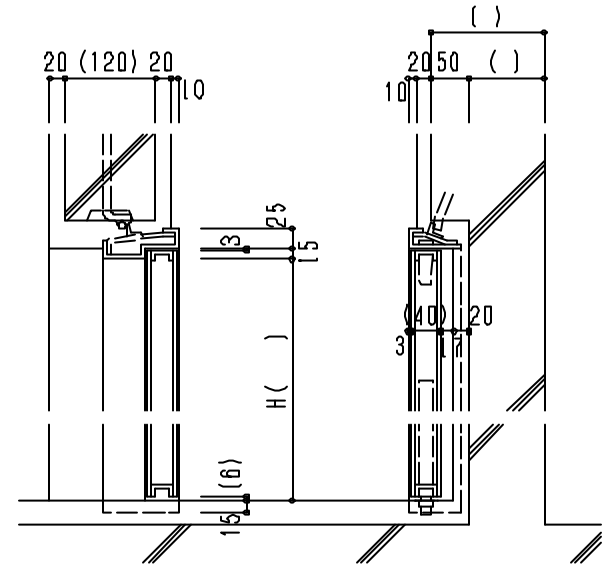
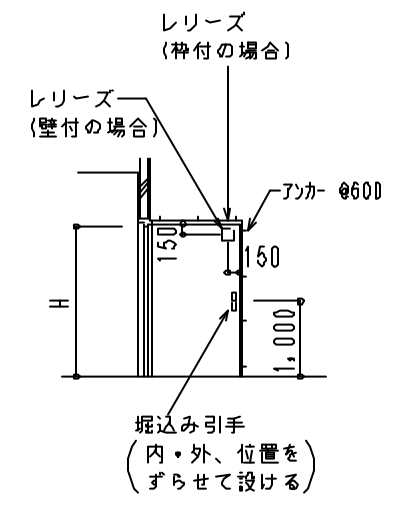
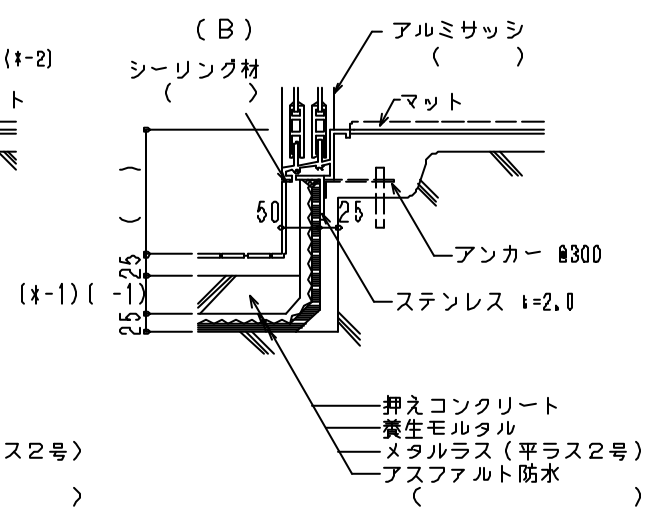
3 アスファルト防水  
(1) 便所 厨房等



(2) 浴室  
(A)



(B)



- 適用範囲 □  
注意事項 □ (\*-1) 水下で50mmを原則とするが、埋設配管、仕上勾配を考慮し決定する。  
□ (\*-2) 開口部幅は、くつずり石が1枚で採れる幅を限度とする。

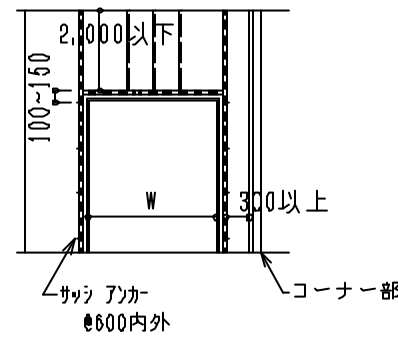
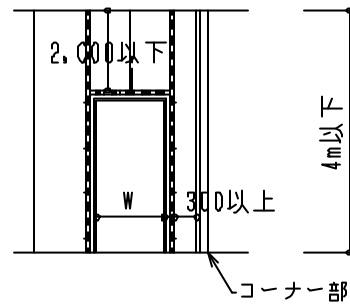
- 注意事項 □ 扉又はくくり戸の大きさは、有効寸法で幅750mm、高さ1,800mm以上、くつずりの高さ150mm以下、面積3㎡以内とする。(3㎡をこえる場合にはくくり戸を設ける)  
□ 煙感連動のレリーズ、制御盤、電源等の種別、位置、経路、制御方式を検討する。  
□ 自閉装置の種別(オートヒンジ、フロアヒンジ、ドアチェック等)、扉の大きさ、見込みとの関係を検討し明記する。  
□ 床仕上材がカーペットの場合はくつずりを設けるよう指導を受ける場合がある。  
□ (1), (2)の召合せで錠前の必要な場合は床面施錠とする。  
□ 召合せに(3), (4)の型式を採用する場合は、閉閉順位調整器を設ける。

SD-36	内壁 ALC 枠廻り	1:10
-------	------------	------

1. 補強枠姿図

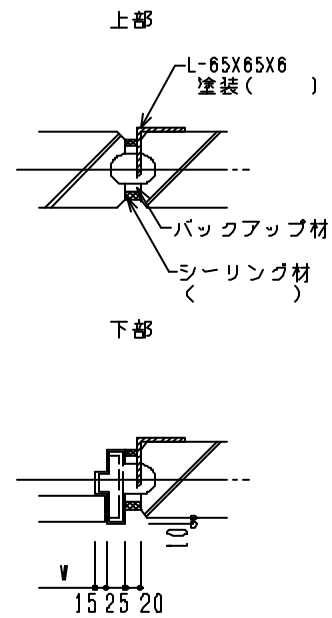
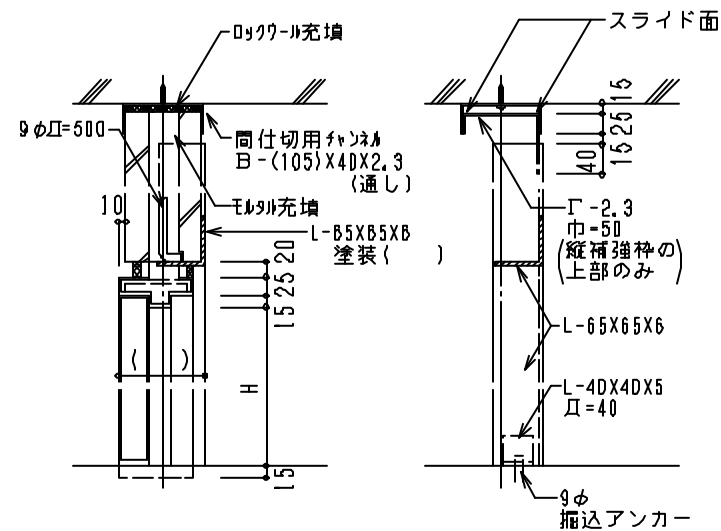
(1) 内蔵形式 W=900以下

(2) 露出形式・内蔵形式 W=1,800以下



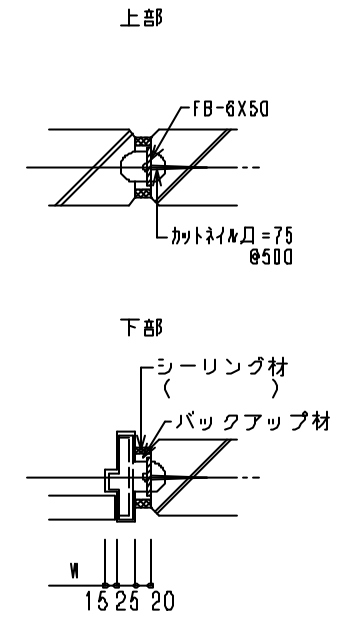
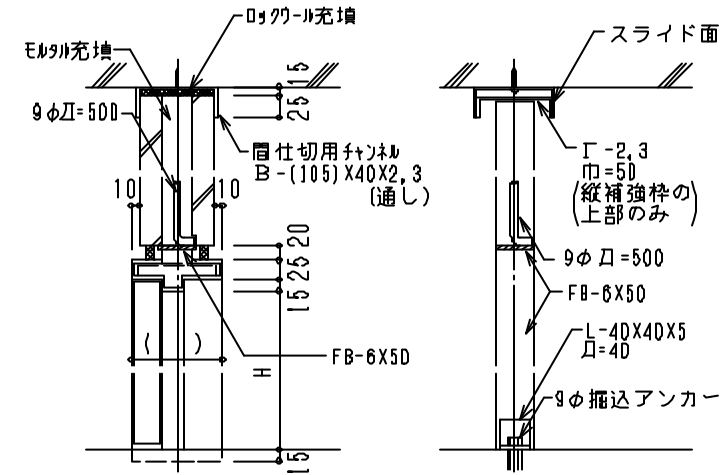
2. 補強枠詳細

(1) 露出形式 W=1,800以下

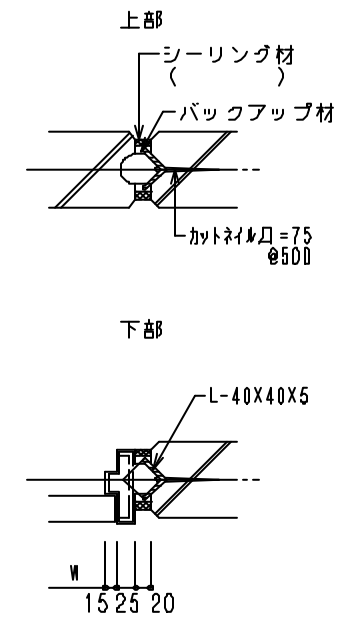
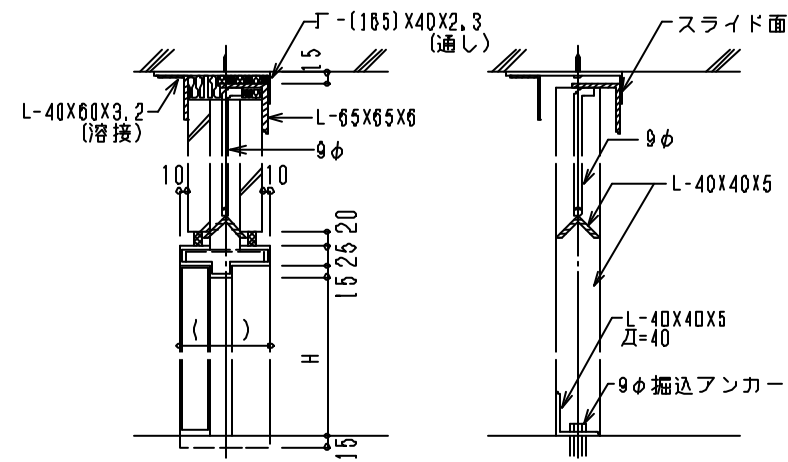


SD-37	内壁 ALC 枠廻り	1:10
-------	------------	------

(2) 内蔵形式 W=900以下



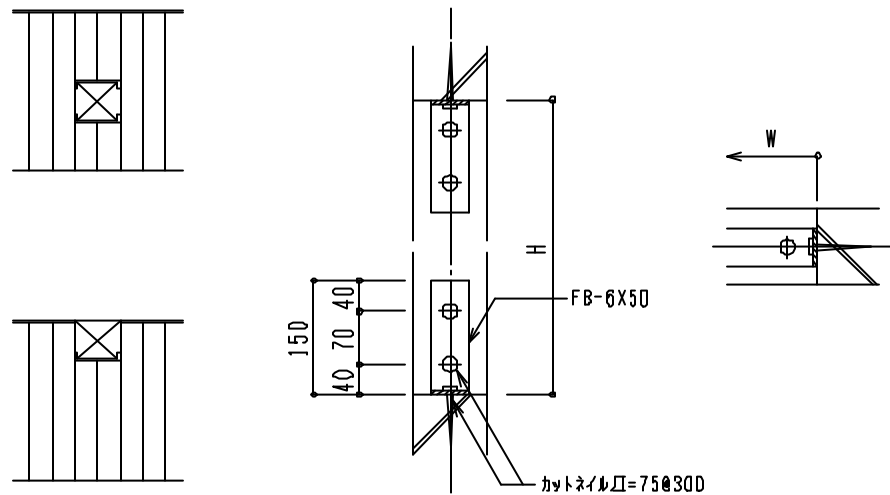
(3) 内蔵形式 W=900~1,800以下



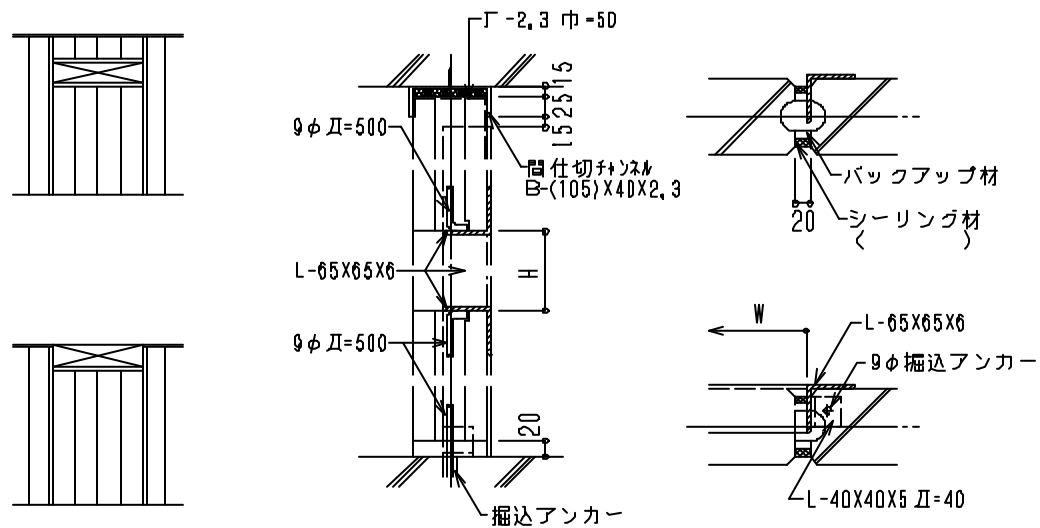
適用範囲 □ 縦補強枠の高さ4,000mm以下、開口部まぐさ壁の高さ2,000mm以下、開口幅1,800mm以下の場合に適用し、これ以上の寸法の場合は、補強枠の大きさを検討する。  
 注意事項 □ コーナー部、異種材料の取合部に建具枠を取付ける場合は、300mm以上の袖壁を設ける。



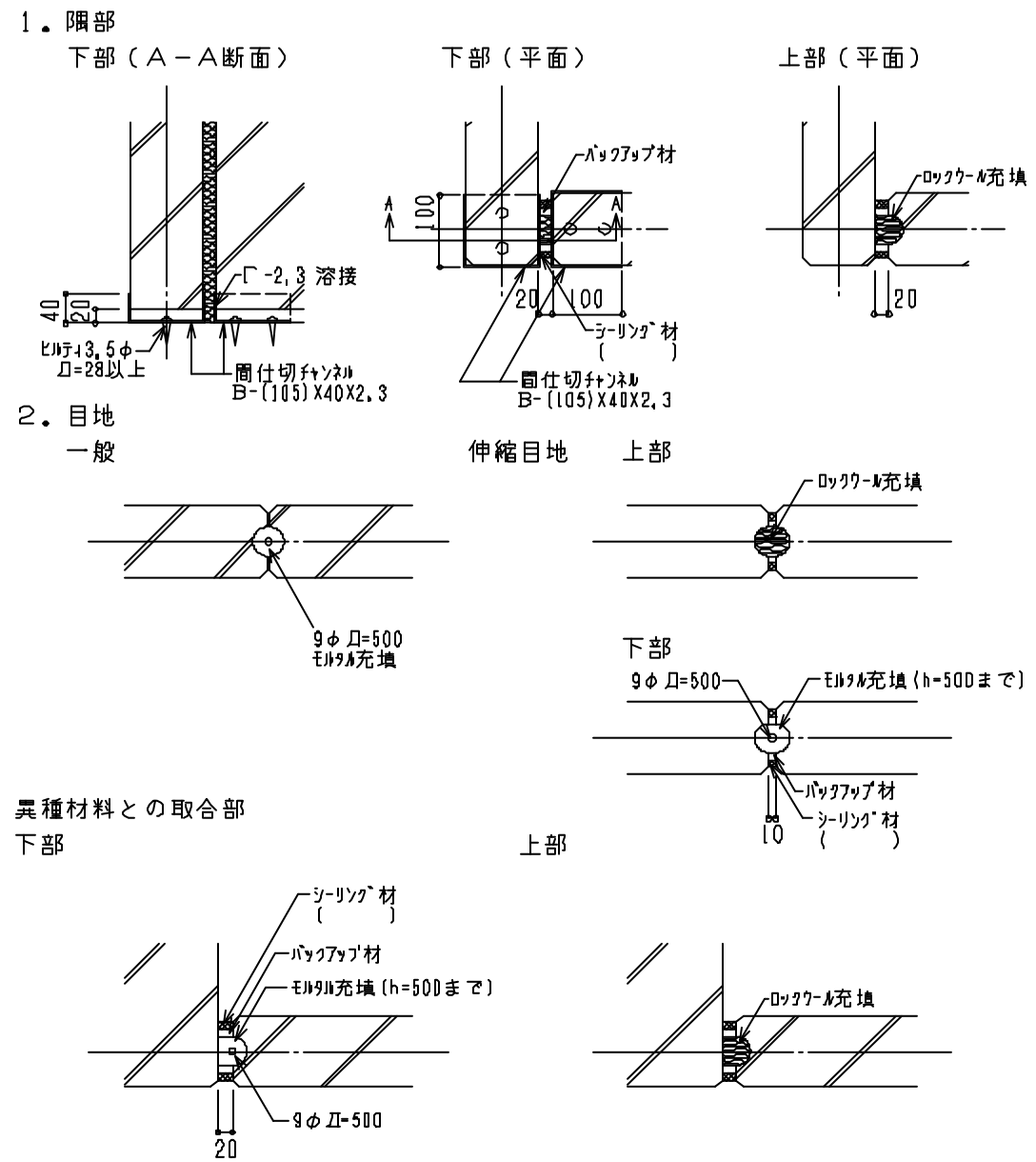
1. 巾-1, 200以下



2. 巾-1, 200~2, 400

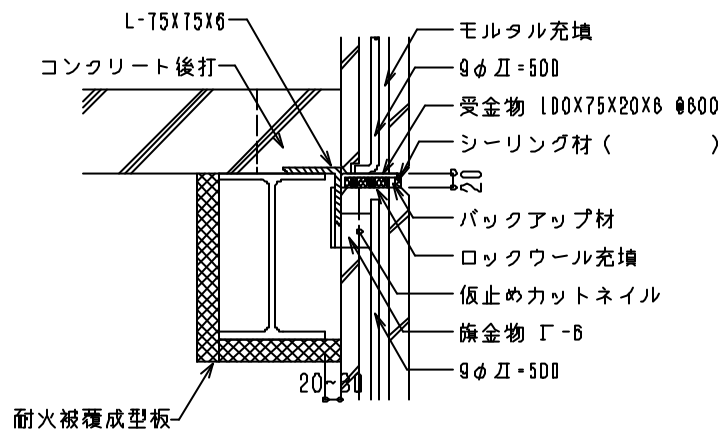


適用範囲 □ 点検口、分電盤、消火栓、ダクト等の設備関係開口に使用する。  
 □ 縦補強枠の高さ4,000mm以下、開口部まぐさ壁の高さ2,000mm以下の場合に適用し、これ以上の寸法の場合は補強枠の大きさを検討する。  
 注意事項 □ やむを得ずパネルを切欠く場合は、切欠く幅を300mm以下とする。

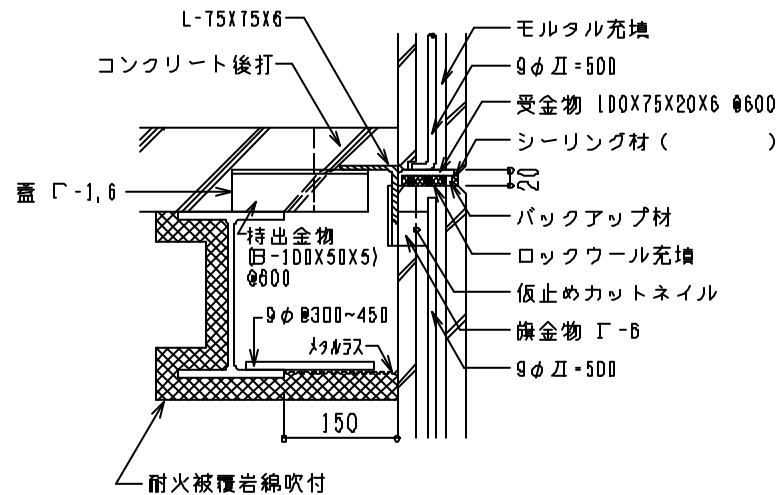


注意事項 □ 伸縮目地は、出隅、入隅、異種材料との取合部に設け、原則として幅20mm、同一面で連続した壁には8m内外に幅10mmの目地を設ける。(続き)

1. 旗金物方式（合成耐火構造）

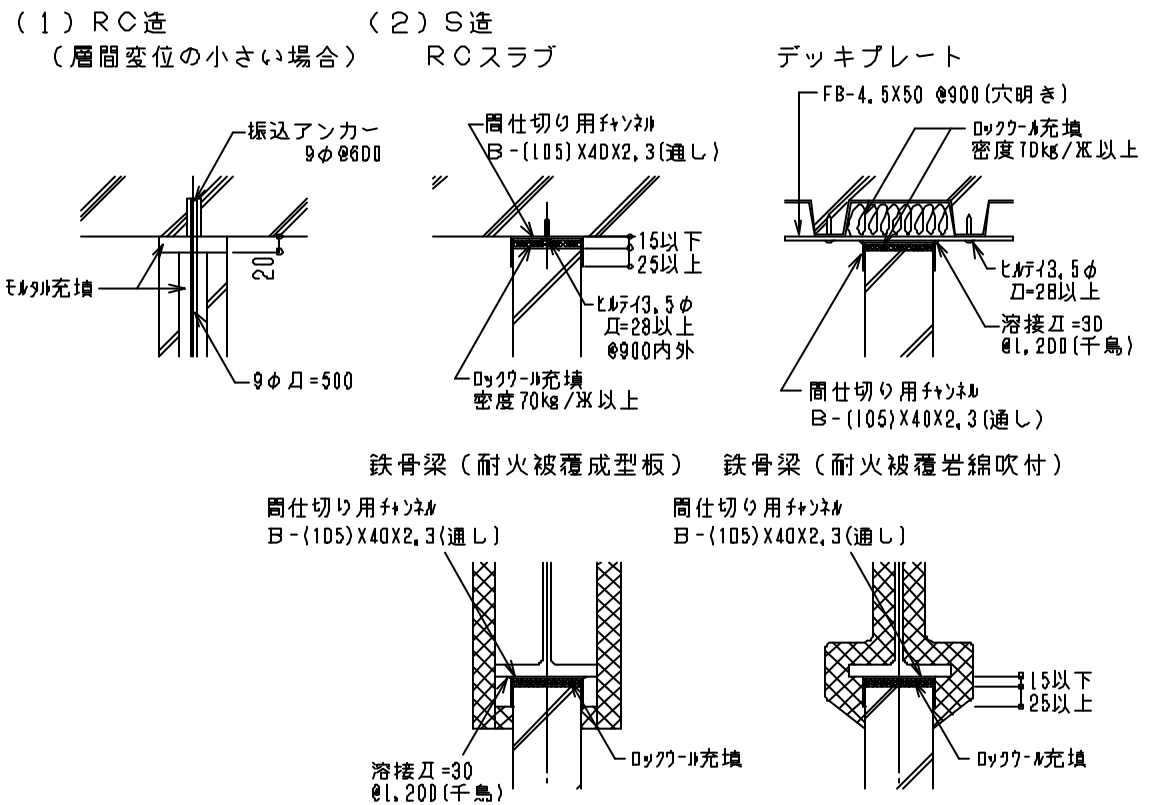


2. 旗金物方式（ALC板と梁をはなす場合）

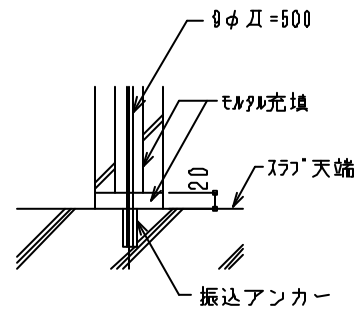


適用範囲 □ 階段室、吹抜等、垂直方向に連続した壁面に使用する。  
 注意事項 □ 原則として、各階ごとに伸縮目地を設ける。  
 □ ALC板の合成耐火構造は、耐火2時間までしか認定されていない。また、梁から持出し寸法(※-1)は、200mm以下とする。

1. 上部の取付



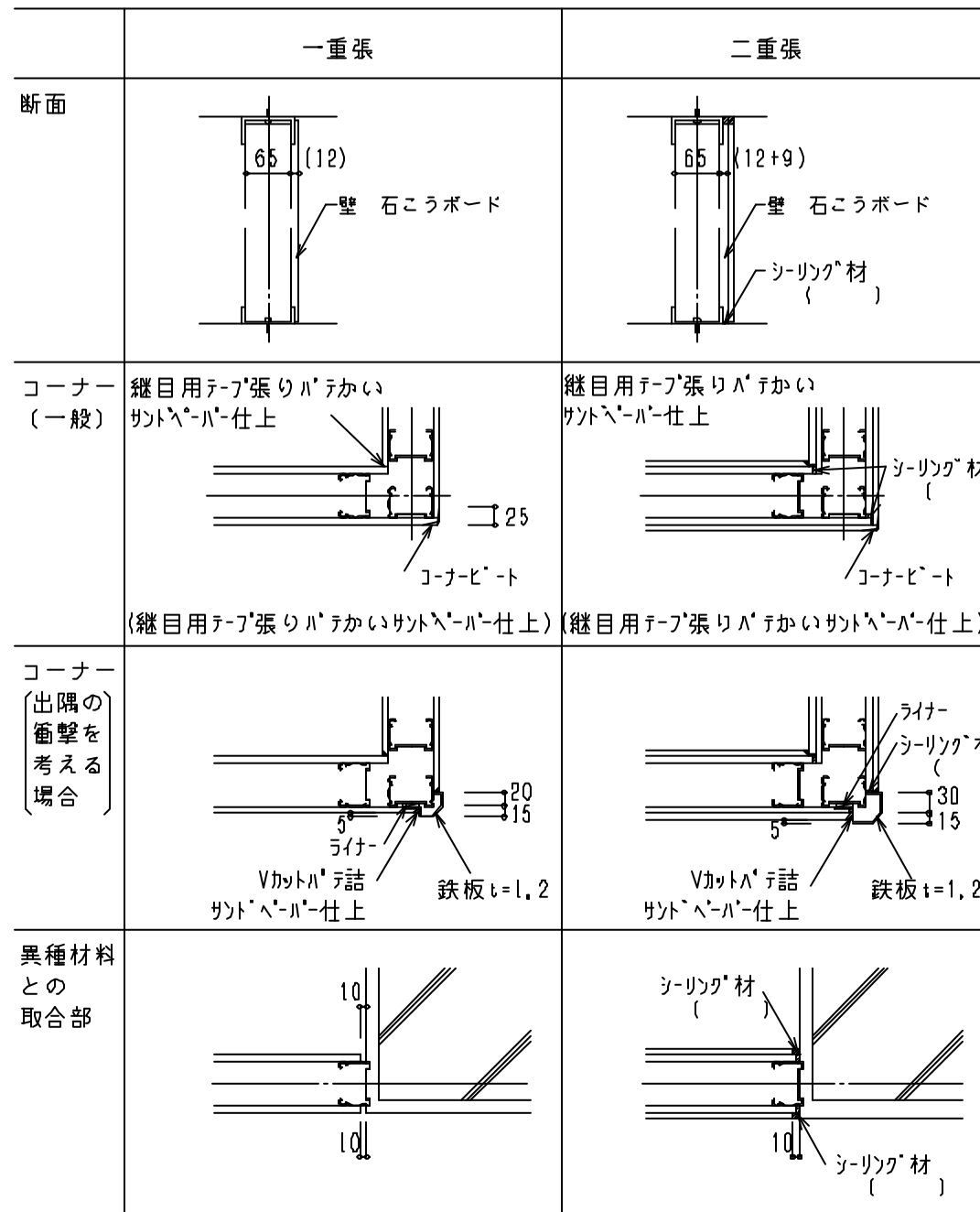
2. 下部の取付



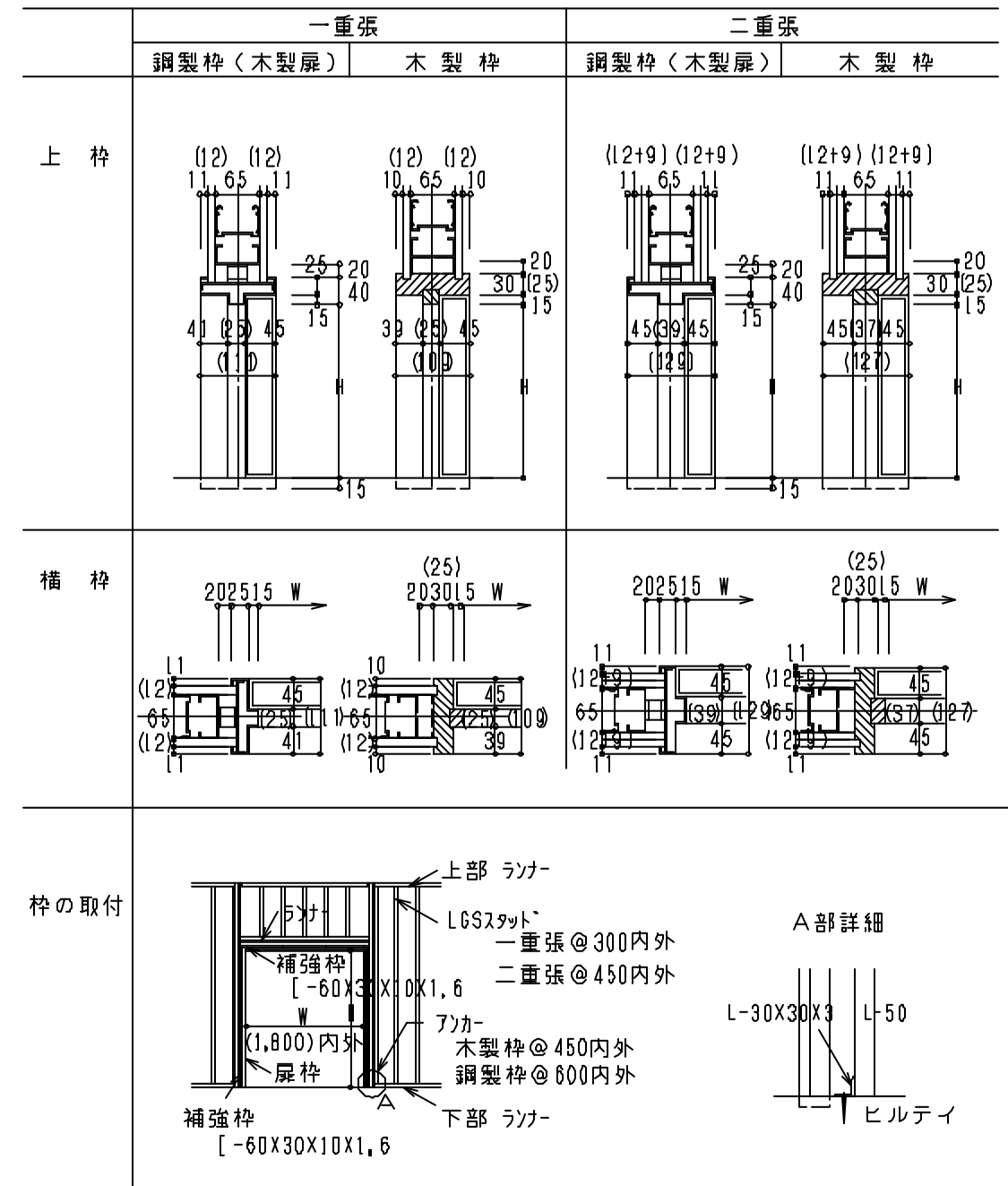
適用範囲 □ モルタル塗、タイル張り等の仕上はさける。  
 注意事項 □ ALC板の合成耐火構造は、耐火2時間迄しか認定されていない。  
 □ 層間変位を考慮しなければならない建物において、梁と直交するALC板との間は、20mm以上の伸縮目地を設ける。



SD-44 内壁 LGSスタッド 各部の納り 1:10

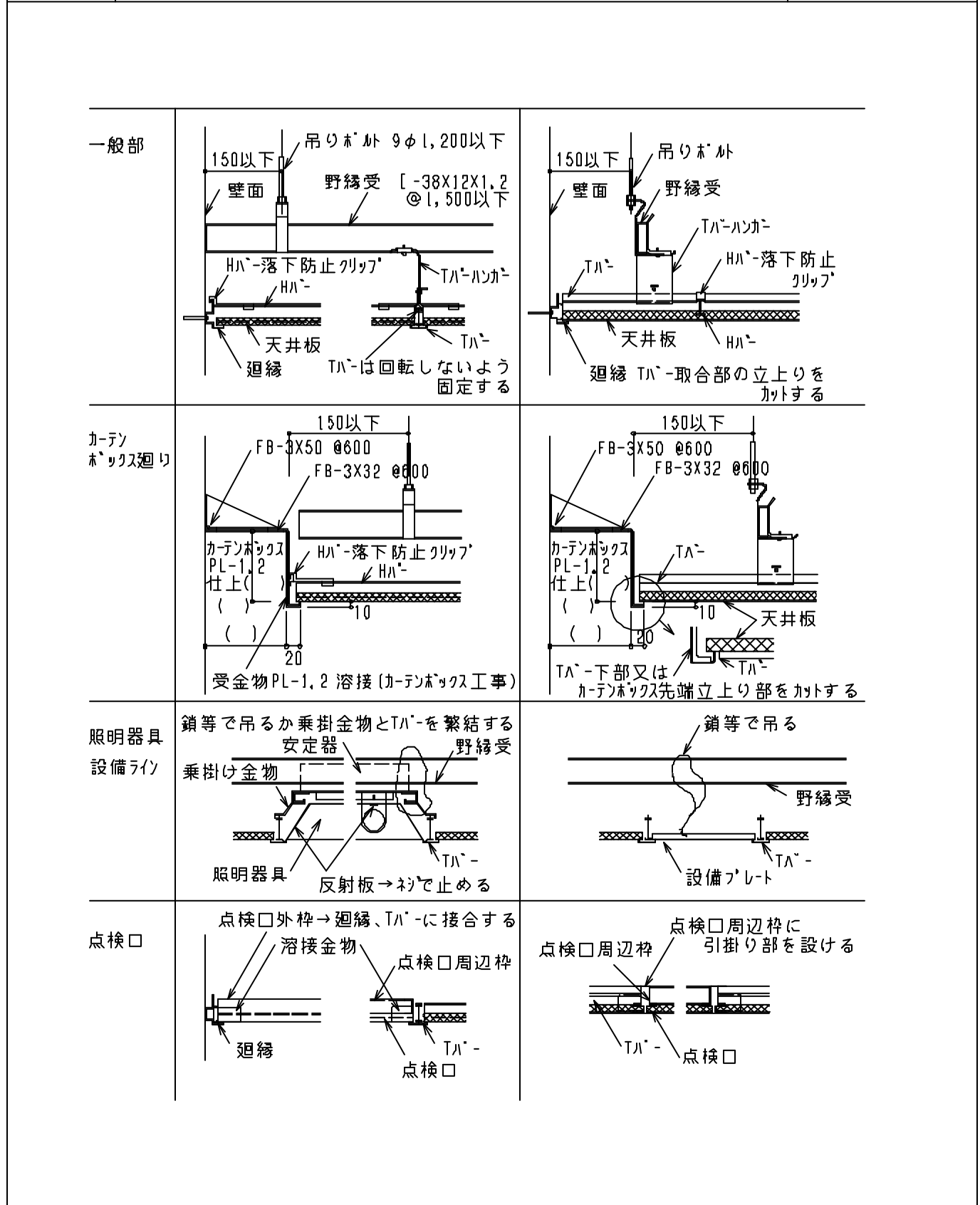


SD-45 内壁 LGSスタッド 枠廻り 1:10 1:100

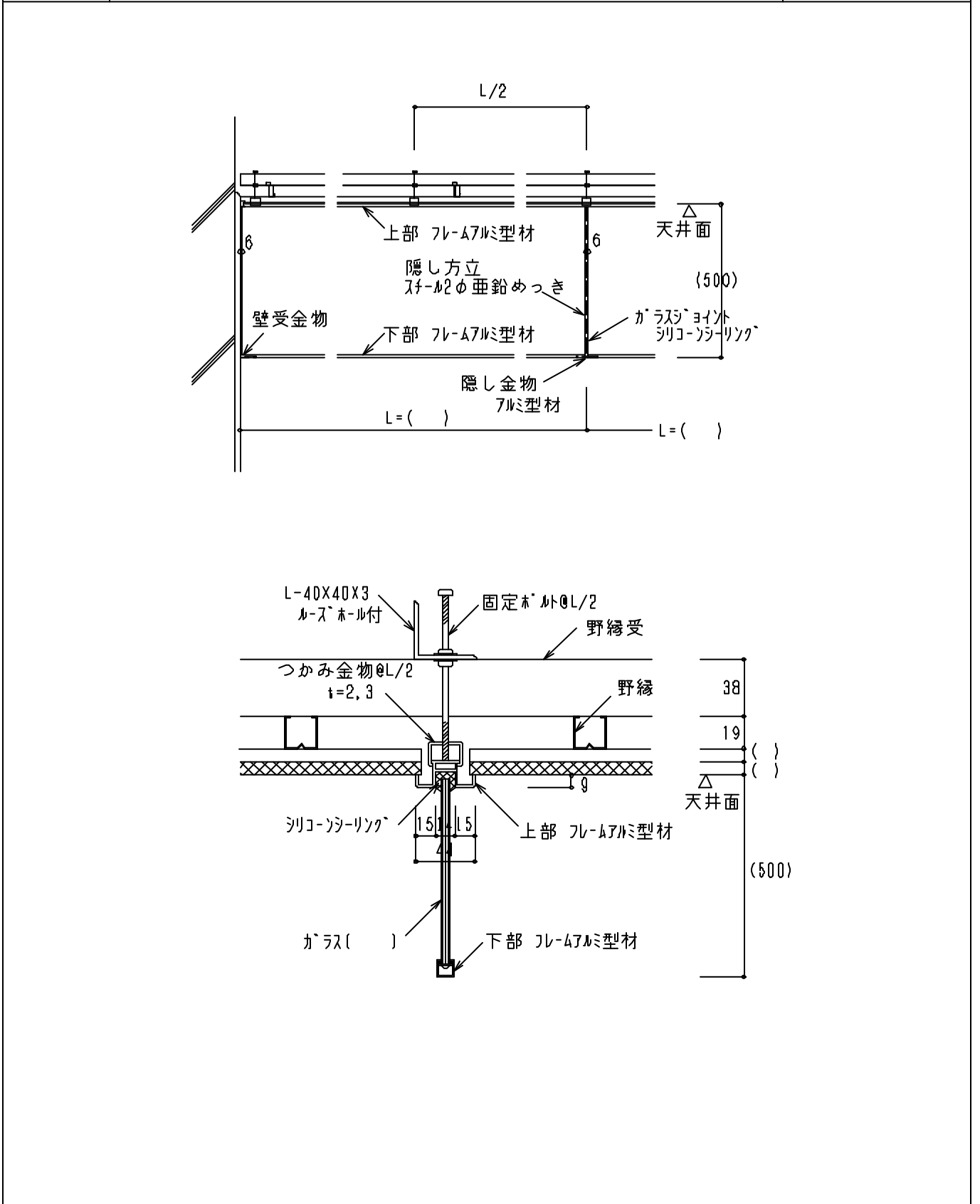


適用範囲 □  
 注意事項 □ 遮音が要求される場合は、要求性能により、ボードの種類、厚さ、工法（取付方法、ボード隙間遮音シール充填、スタッド内音材充填）等を検討する。

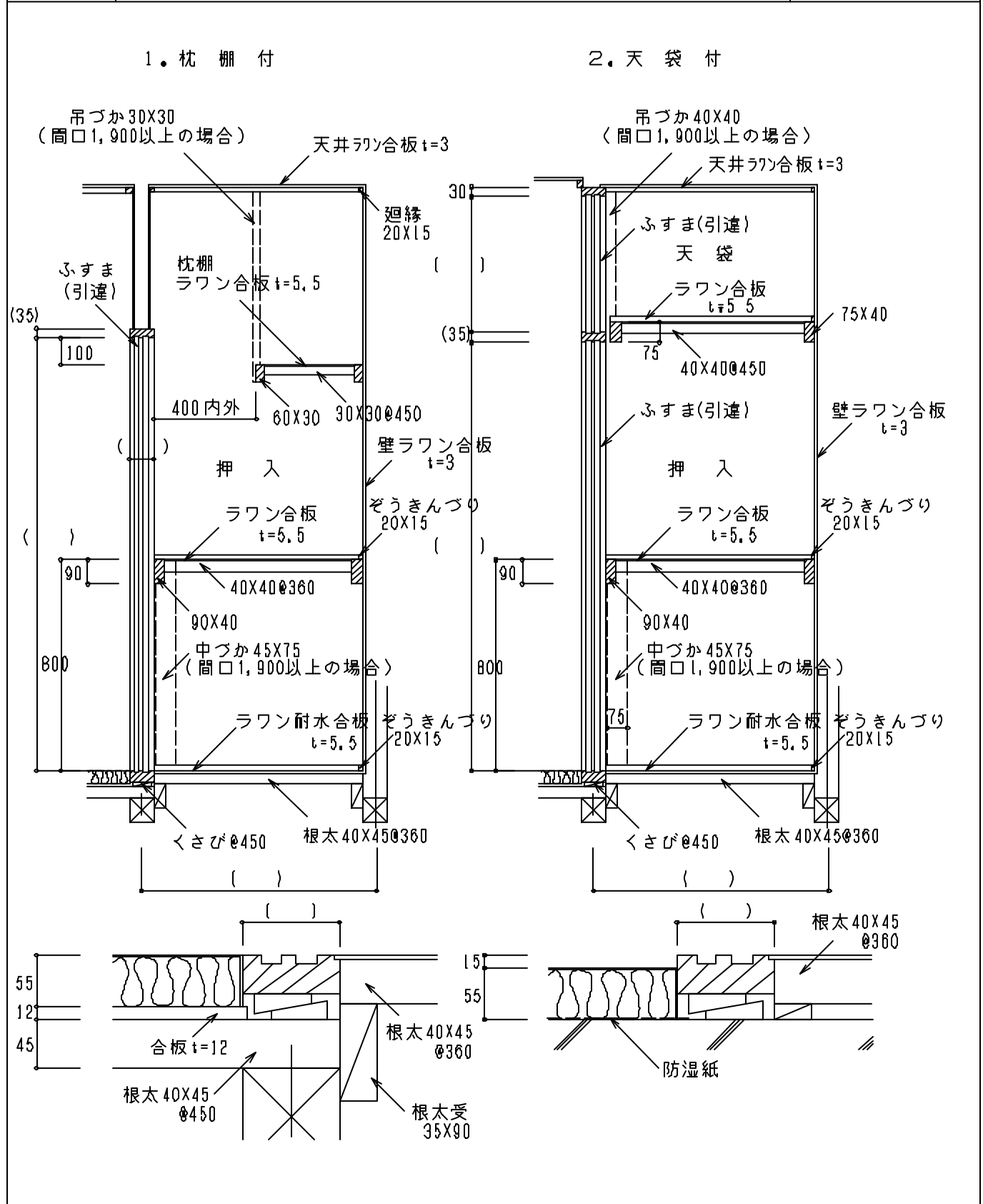
適用範囲 □  
 注意事項 □ W=1,000mm以下の場合、間柱材に野縁受等チャンネル材を組合せて補強枠としてもよい。  
 □ W=1,800mm以上の場合、補強枠、スタッド強度を検討する。  
 □ 窓、設備等の開口部補強についても当図に準ずる。



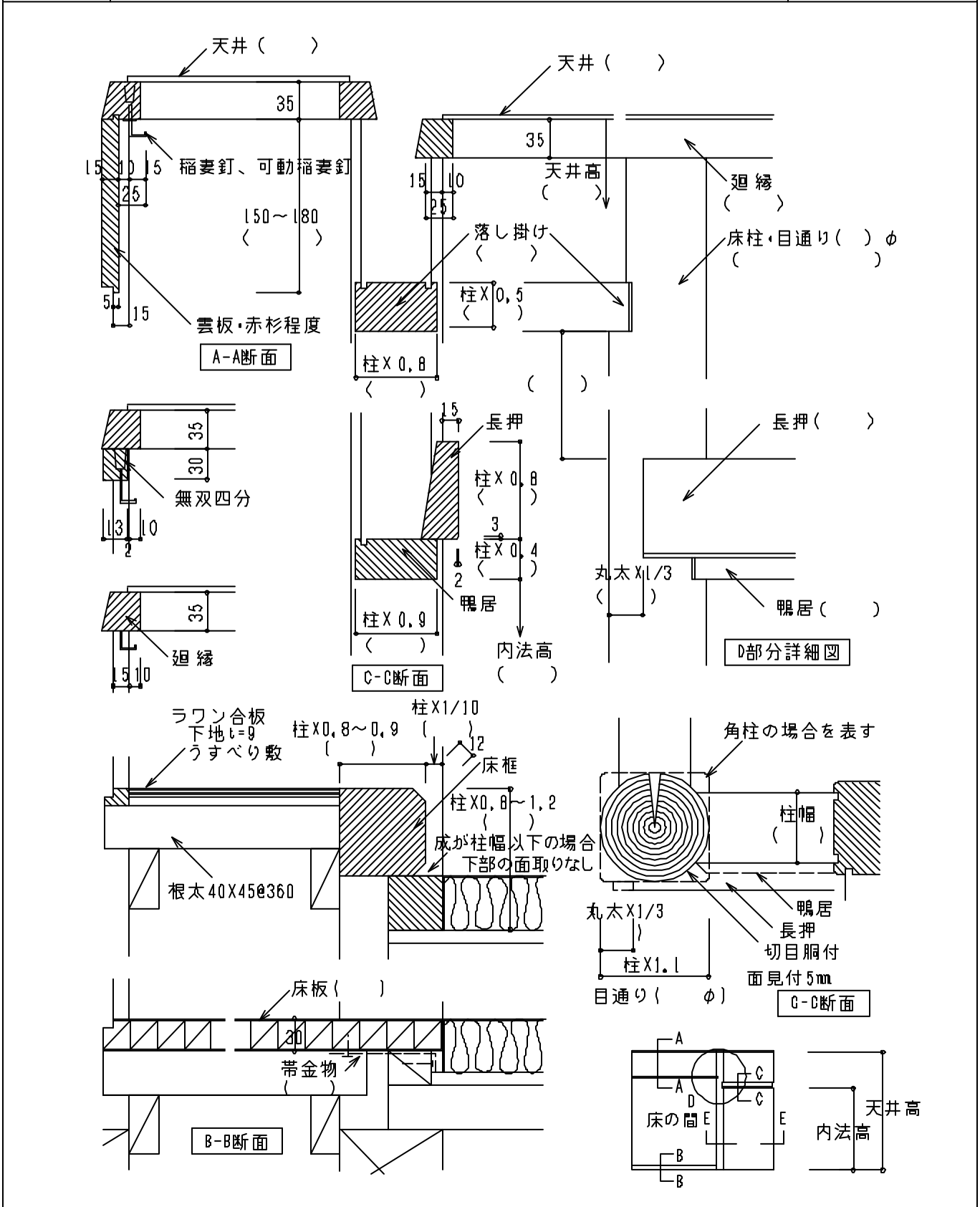
適用範囲 □  
 注意事項 □ 地震時の落下防止には、上記の他に廻縁を壁に固定せず野縁にとめる方法もある。



適用範囲 □  
 注意事項 □ 使用ガラスは線入ガラス又は網入ガラスとする。  
 □ Lは、1.8m以下とする。

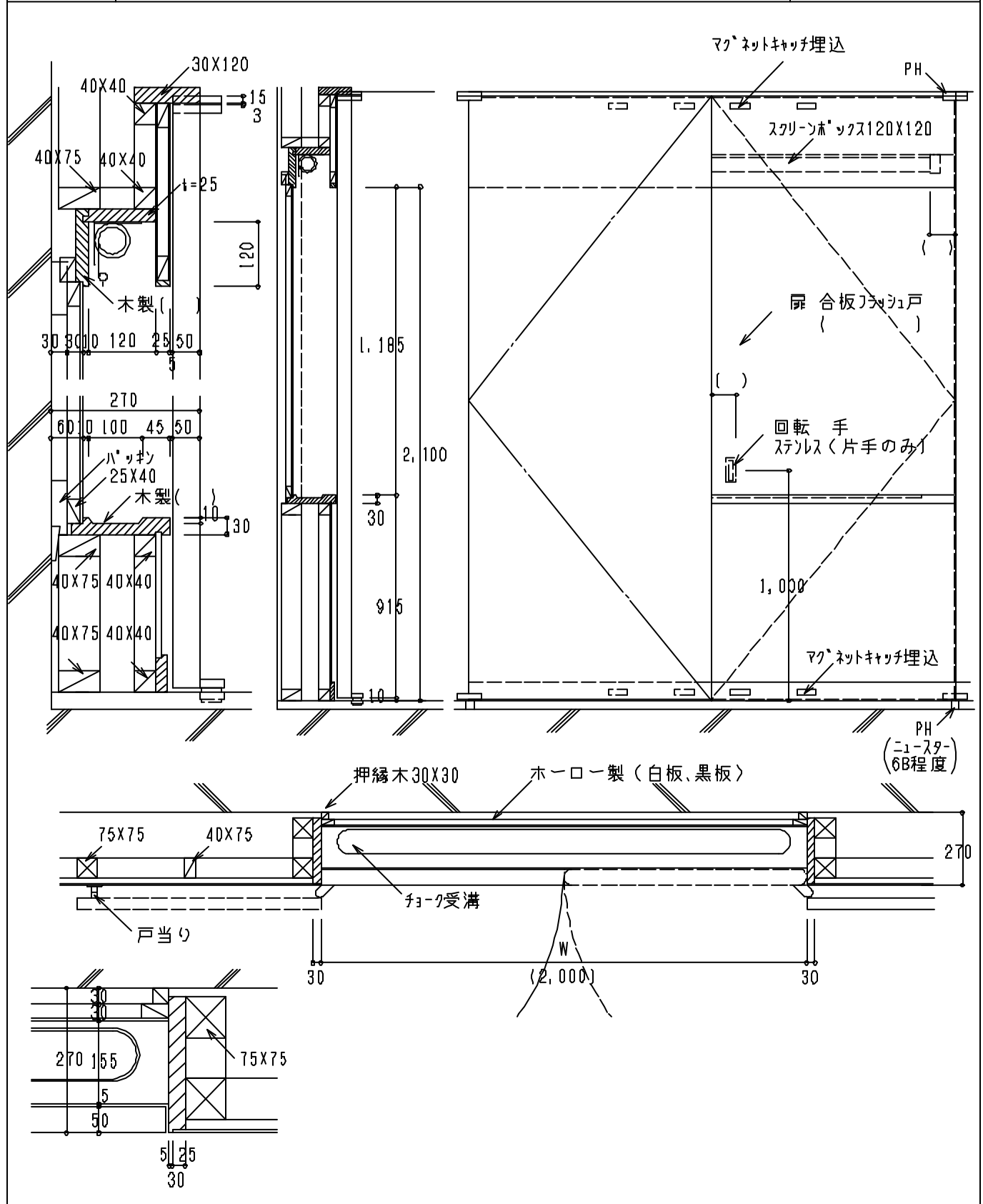


適用範囲 □ 寒冷地の外壁に面する押入の場合は適用しない。  
 注意事項 □ 間口が1,900mm以上の場合は、中づか及び吊りづかをもうける。  
 □ 奥行有効は原則として800mm以上とする。  
 □ 結露防止仕様の場合は、断熱材の仕様・範囲を明記し、中棚と壁とに30mm内外隙間を設ける。  
 □ ブレードにより内装及び棚板をしな合板等とする。



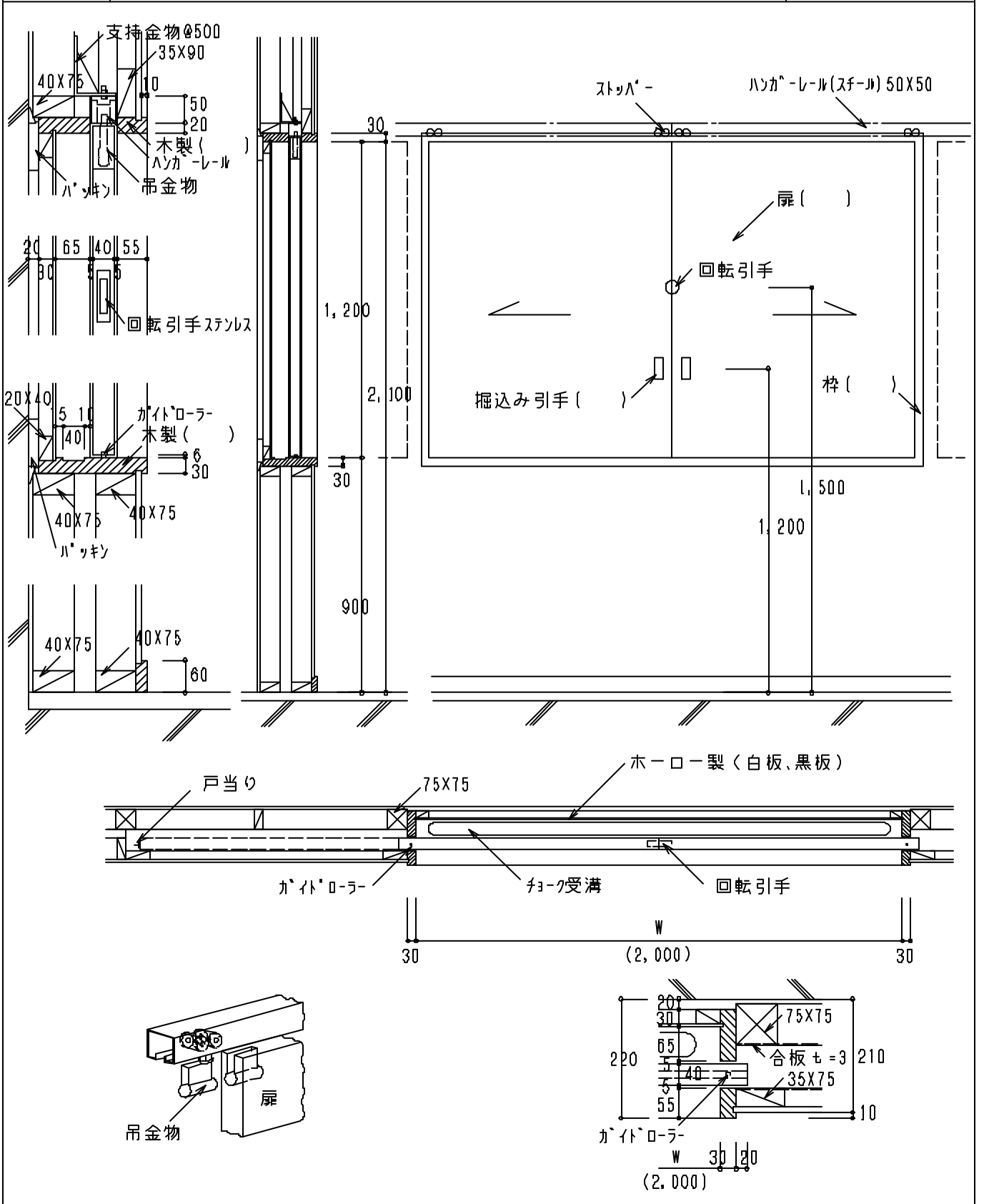
材種 □ 床柱：北山杉しぼ丸太、磨丸太程度。 床框：うるし塗、松練付、けやき練付程度。  
 床板：松練付、けやき練付程度。  
 注意事項 □ 柱と床のチリは、標準的には10mmでよいが、和風建築の場合は15mmとする。  
 □ 床の間隔が1間以上、もしくは掛軸を2幅以上掛ける場合は、可動稲妻釘とする。  
 □ 床の間の天井高は最低2,400mmとし、壁には原則として梁型等は出さない。

SD-50 埋込黑板 ( 1 ) 1:10 1:20



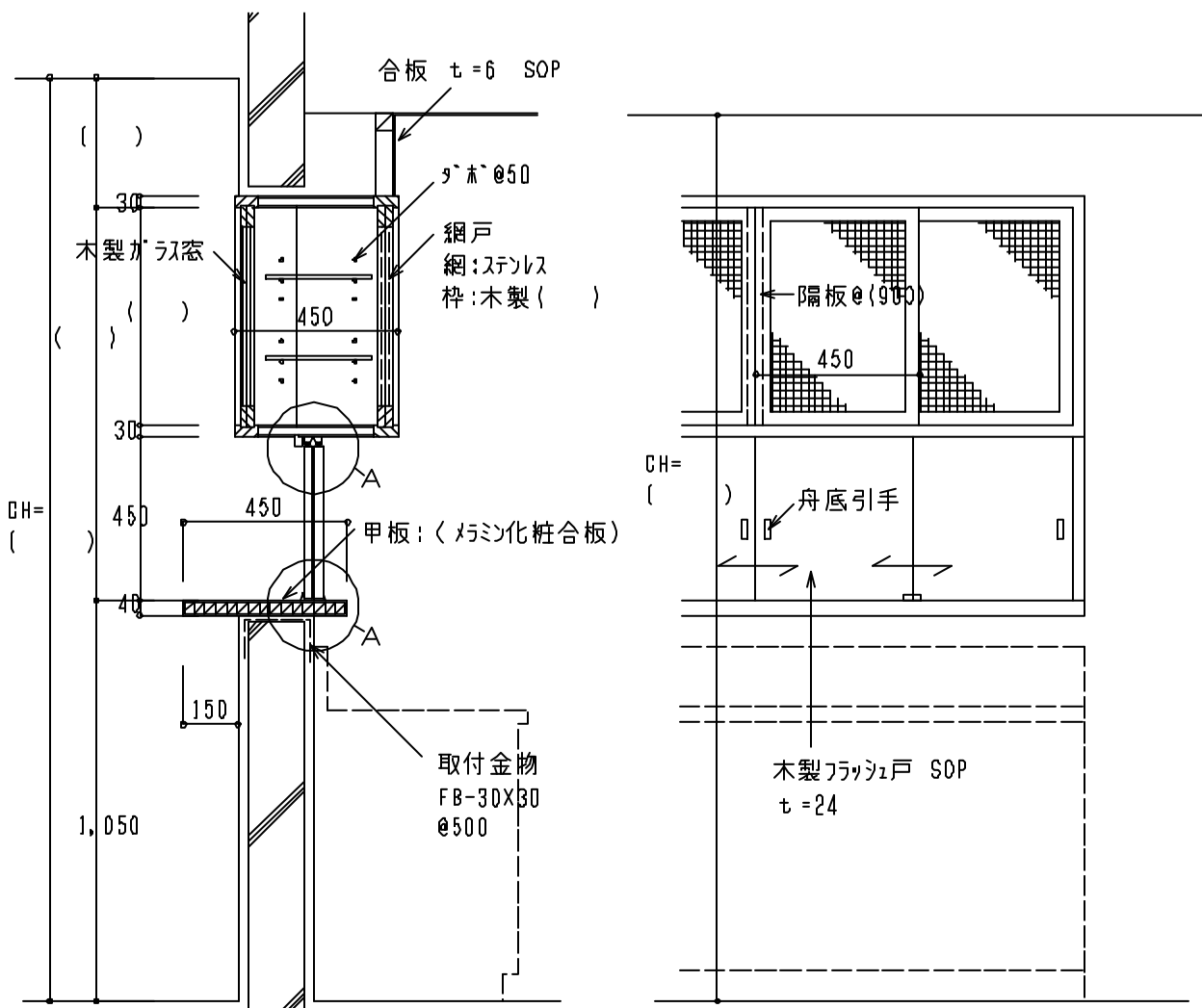
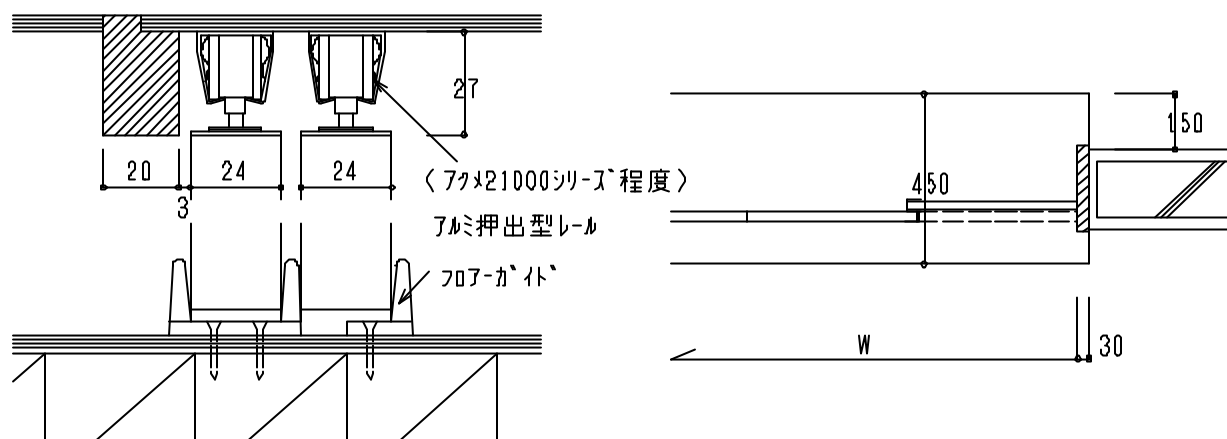
適用範囲 □ 天井高2.500mm以下とし、W=2,000mm迄の場合。  
 注意事項 □ 扉が天井照明・感知器等に当たらないように注意する。  
 □ ヒンジは扉荷重を床スラブで受ける形式のものを使用する。  
 □ 白板・黒板を選択する。

SD-51 埋込黑板 ( 2 ) 1:10 1:20

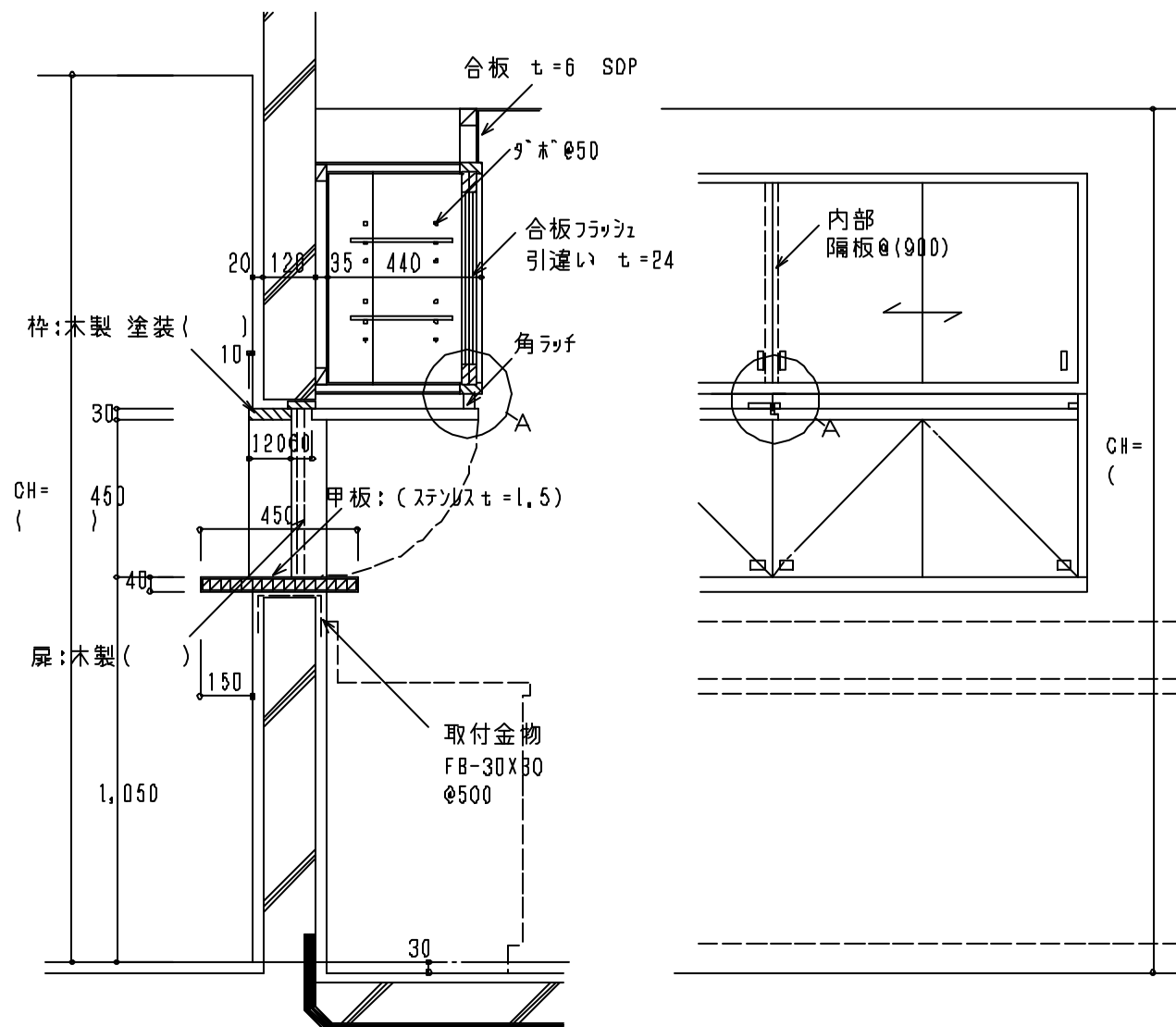
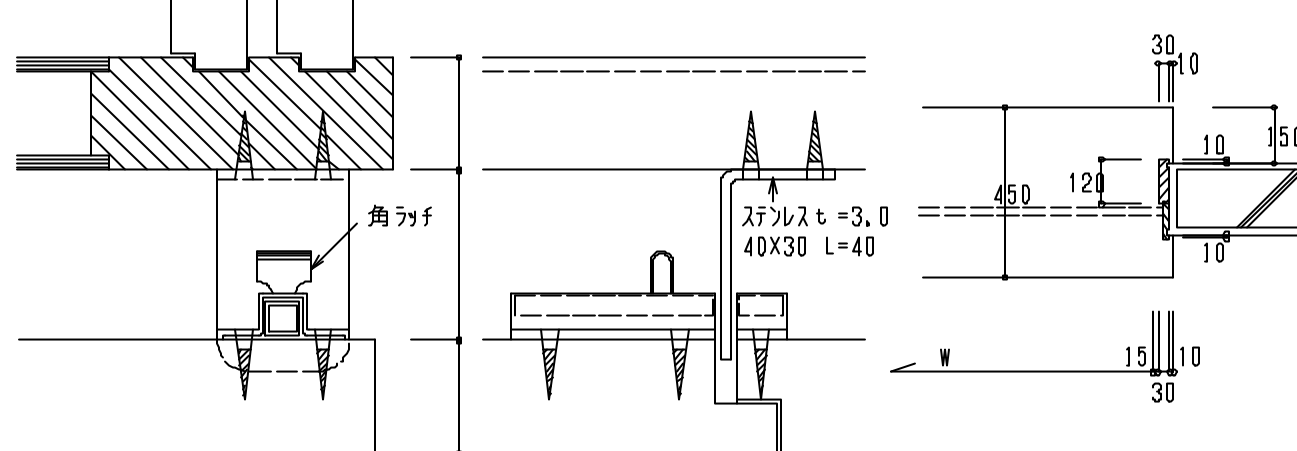


適用範囲 □  
 注意事項 □ 白板・黒板を選択する。

A部詳細図



A部詳細図

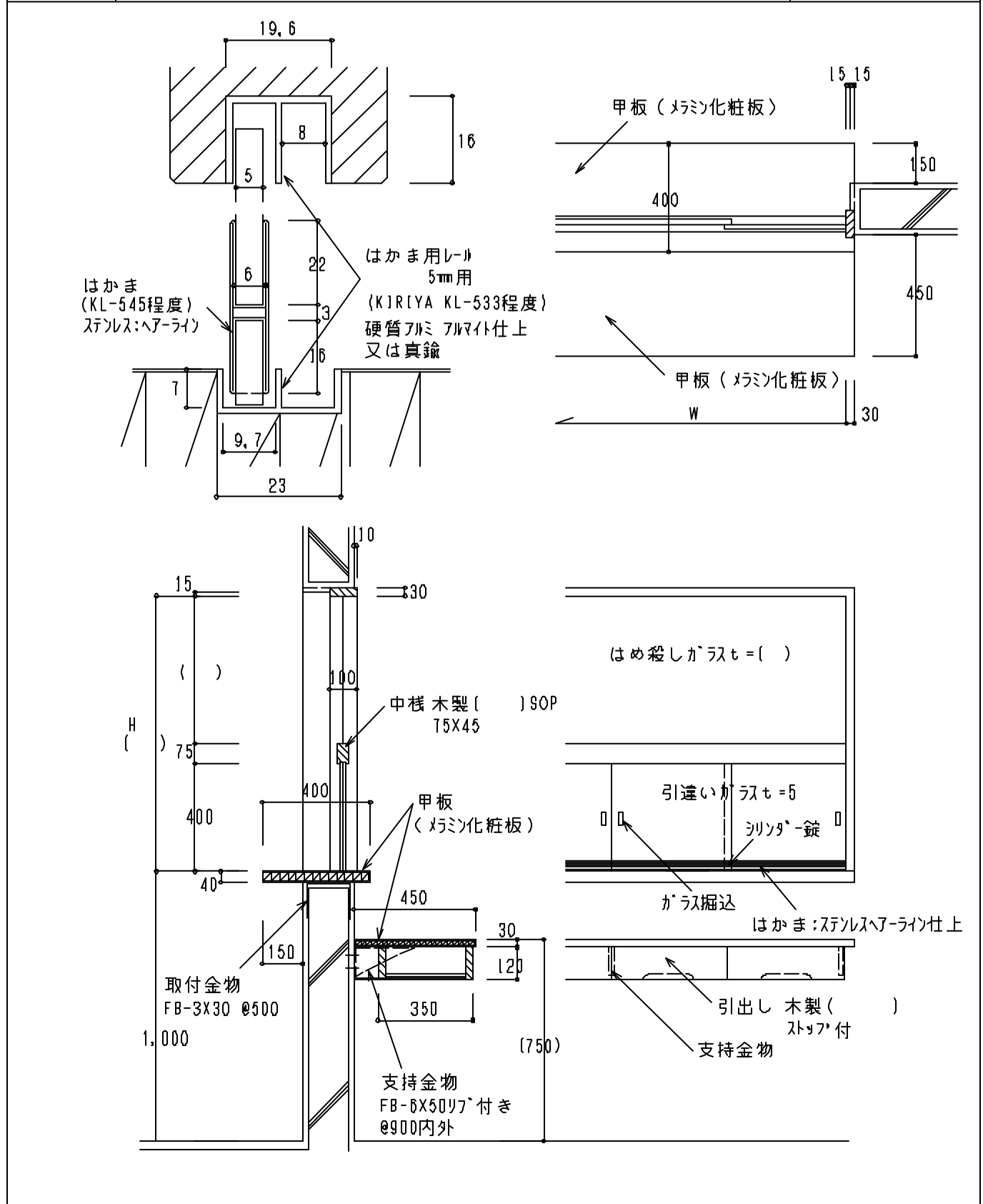


適用範囲 □ 小規模厨房の場合。W = 1.8 m内外  
 注意事項 □  
 □  
 □

適用範囲 □ 中規模厨房の場合。  
 注意事項 □ 床のかさ上げ寸法は、排水溝の有無・配水管の径・水勾配及び 他の配管を考慮する。  
 □ 防火区画が必要な場合は、シャッター又は防火戸を設ける。  
 □ ハッチ留め金物(A部詳細)は一例を示す。  
 □ 戸棚の重量によっては、中間吊ボルトを設ける。

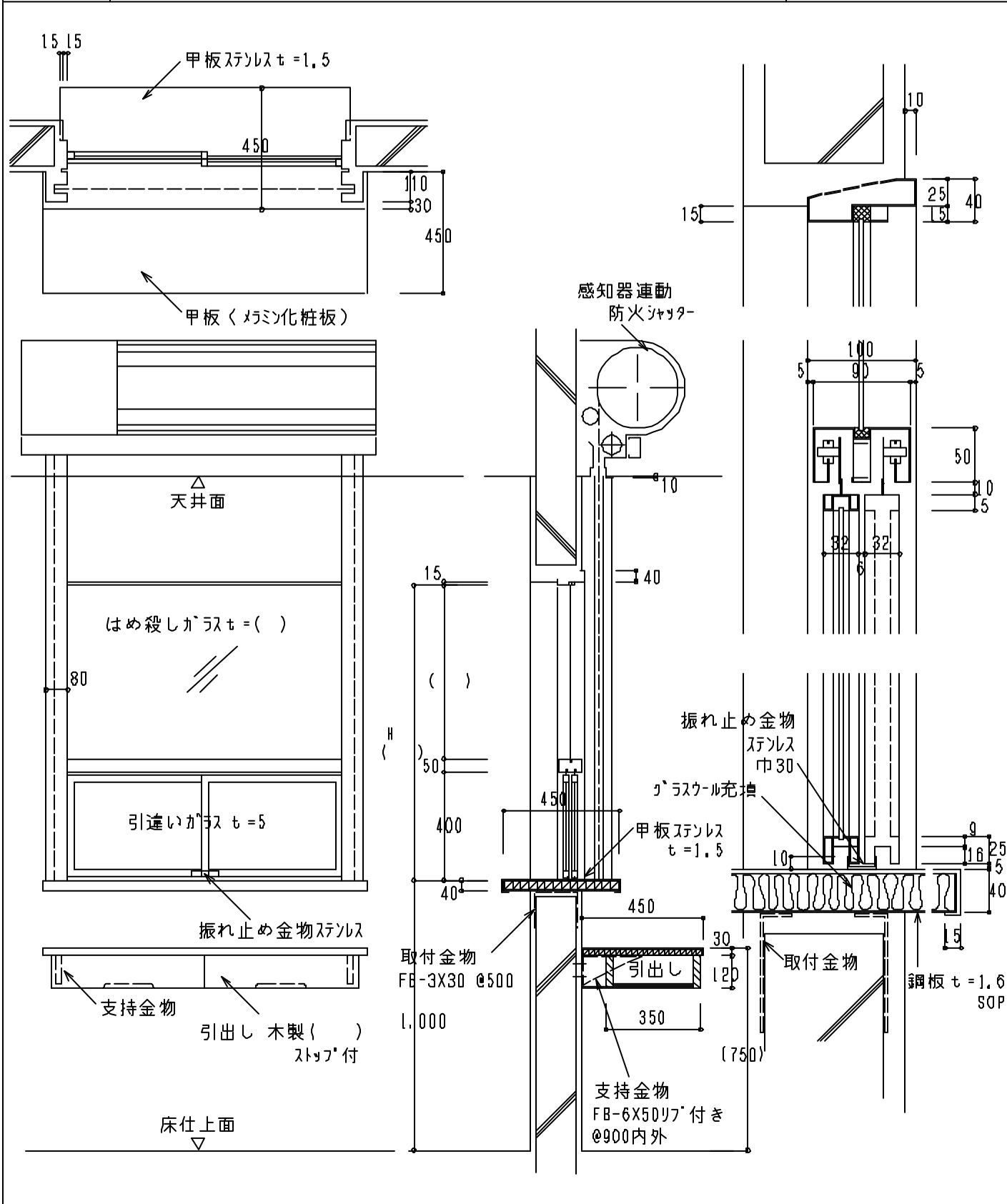


SD-54 内部受付カウンター 1:1 1:20



適用範囲 □ W=1, 800mm内外  
 注意事項 □ 防火区画が必要な場合は、シャッター又は防火戸を設ける。

SD-55 内部受付カウンター 1:20 1:5

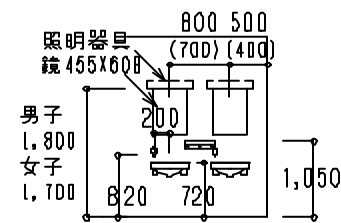
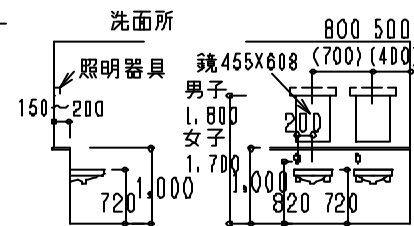
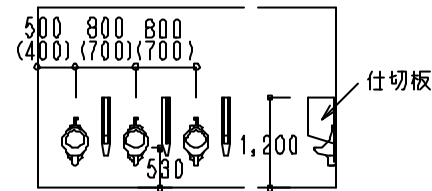
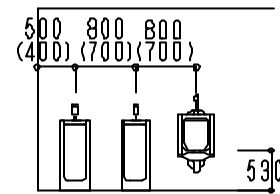


適用範囲 □ W=1, 800mm内外  
 □ ガレージ等で用途区画が必要な場合。  
 注意事項 □

## ブースの種類

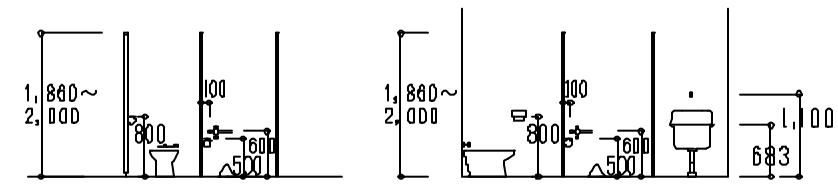
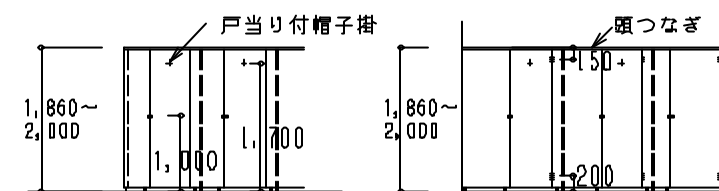
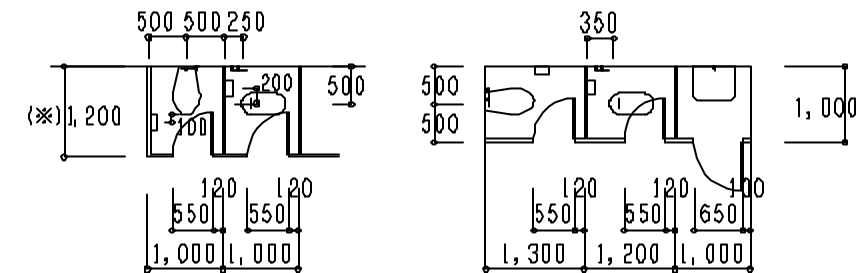
和風のみ(標準)		
和洋併用(標準)		
和風のみ		

## 小便所



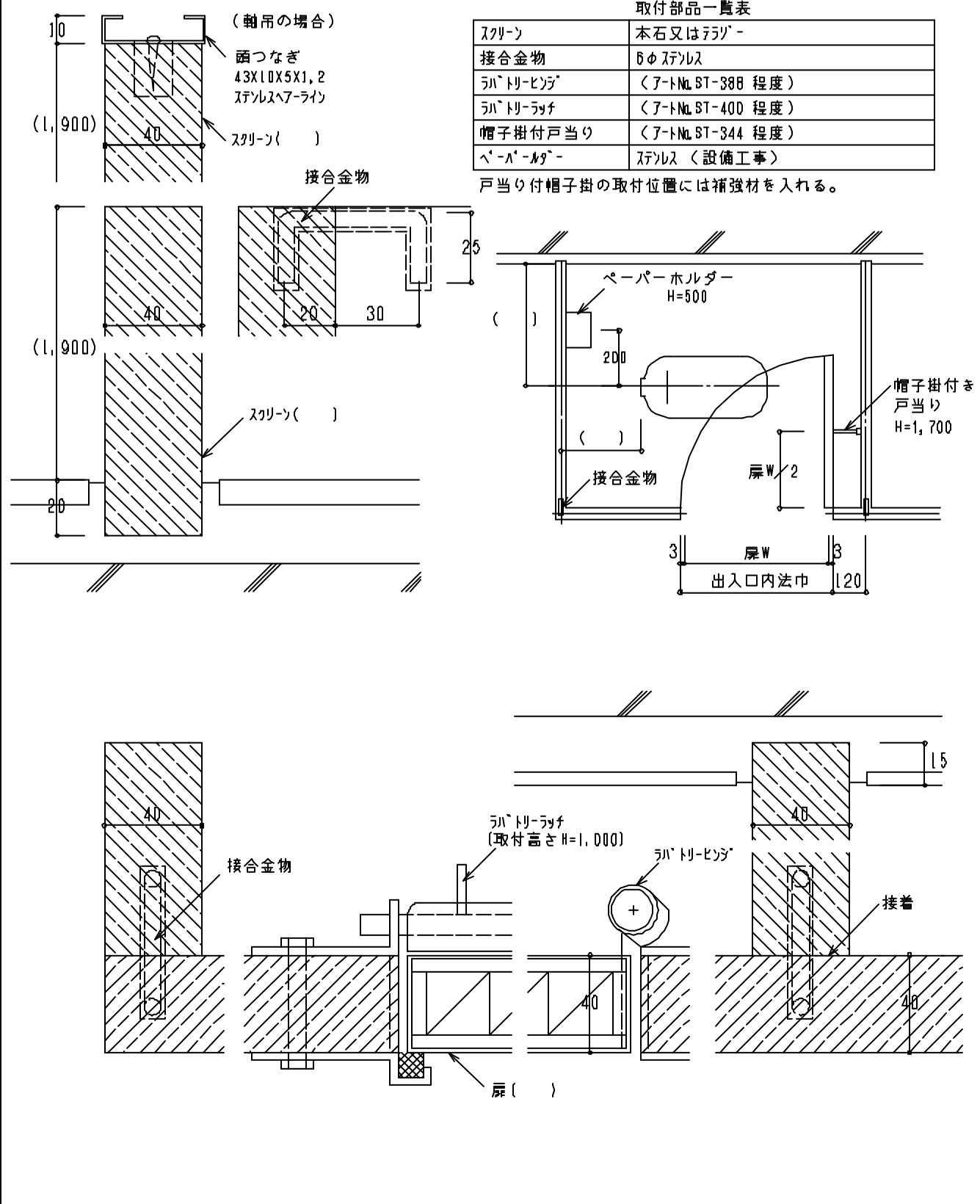
注( )内は、最小寸法を示す。

## 器具取付位置



- 適用範囲
- 注意事項  ブース寸法は97角タイル、目地幅3mmとしたタイル割を基にした寸法とする。タイルの大きさが異なる場合はそのタイル割に合わせる。  
 天井照明器具は扉側ブースの外側に設け、内部を直接照らさないのを原則とする。  
 便所の平面詳細図に架型の位置を明記し、便器との取合をチェックする。  
 ロータンク付洋風便器を使用する場合は、(※)寸法を検討する。

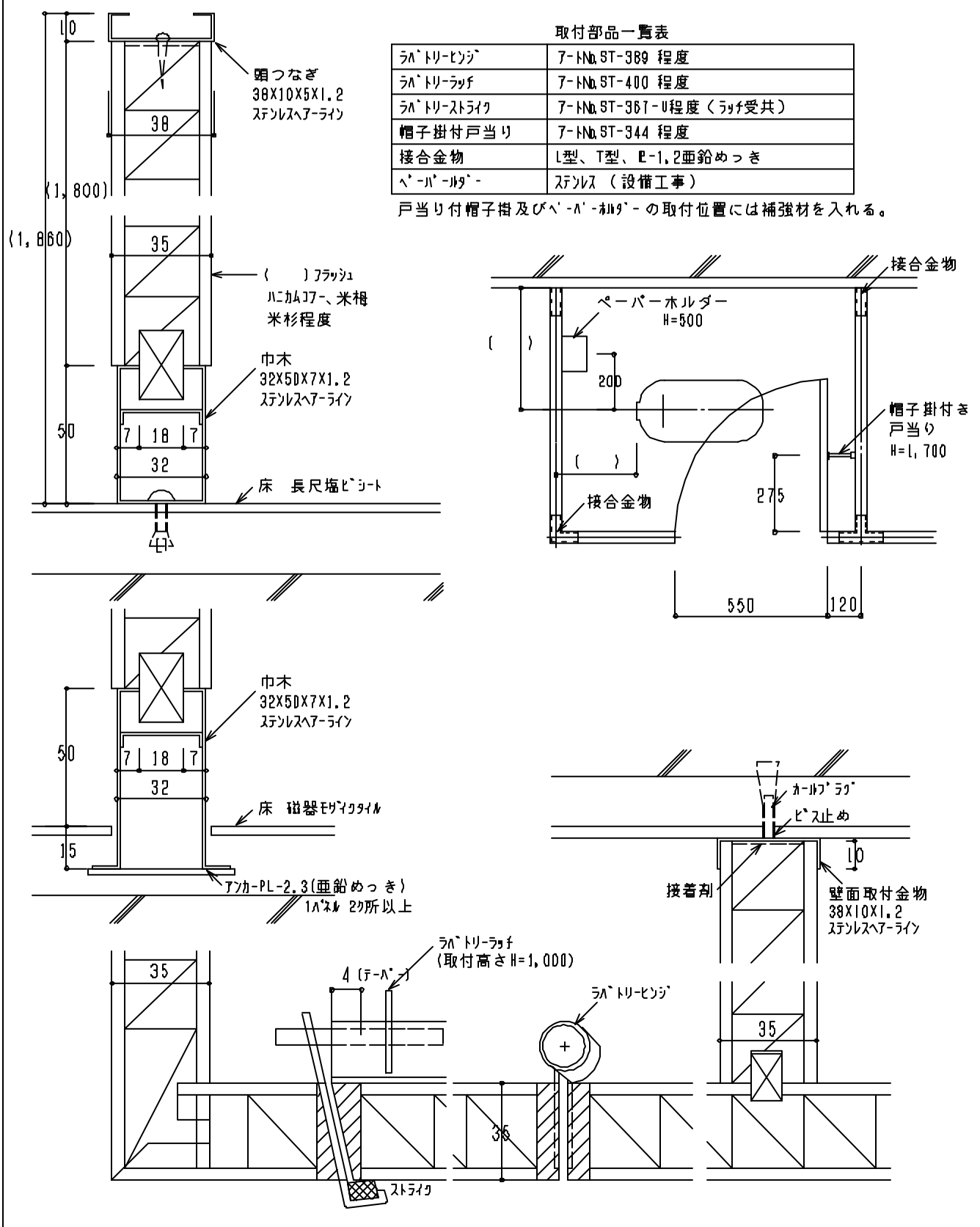
- 注意事項  女子ブース内の棚の可否を検討する。  
 フラッシュバルブは原則として壁付とする。  
 戸当り付帽子掛及びペーパーホルダーの取り付け位置には、補強材を入れる。  
 外壁に配管を埋込めない。  
 掃除用具ブースの扉は外開きを原則とし、自閉装置は設けない。  
 便所の床は標準床面より15mm下りとする。



取付部品一覧表

スクリーン	本石又はテラゾ
接合金物	φステンレス
ライトリ-ビシ	<ア-ト№ST-388 程度>
ライトリ-ラフ	<ア-ト№ST-400 程度>
帽子掛付戸当り	<ア-ト№ST-344 程度>
ペ-ル-ホルダ-	ステンレス (設備工事)

戸当り付帽子掛の取付位置には補強材を入れる。



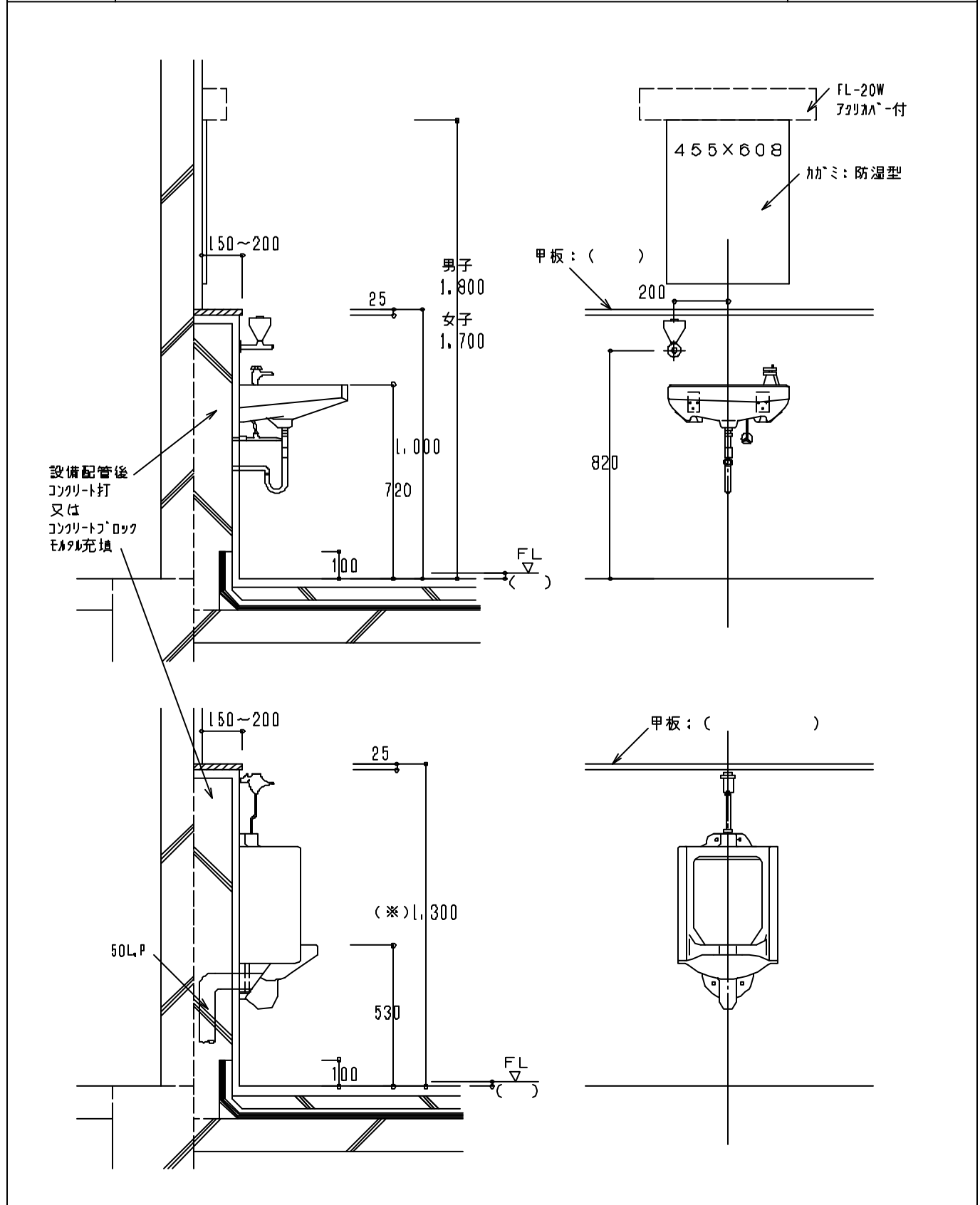
取付部品一覧表

ライトリ-ビシ	ア-ト№ST-388 程度
ライトリ-ラフ	ア-ト№ST-400 程度
ライトリ-スライク	ア-ト№ST-367-U程度 (ラフ受共)
帽子掛付戸当り	ア-ト№ST-344 程度
接合金物	L型、T型、E-1,2亜鉛めっき
ペ-ル-ホルダ-	ステンレス (設備工事)

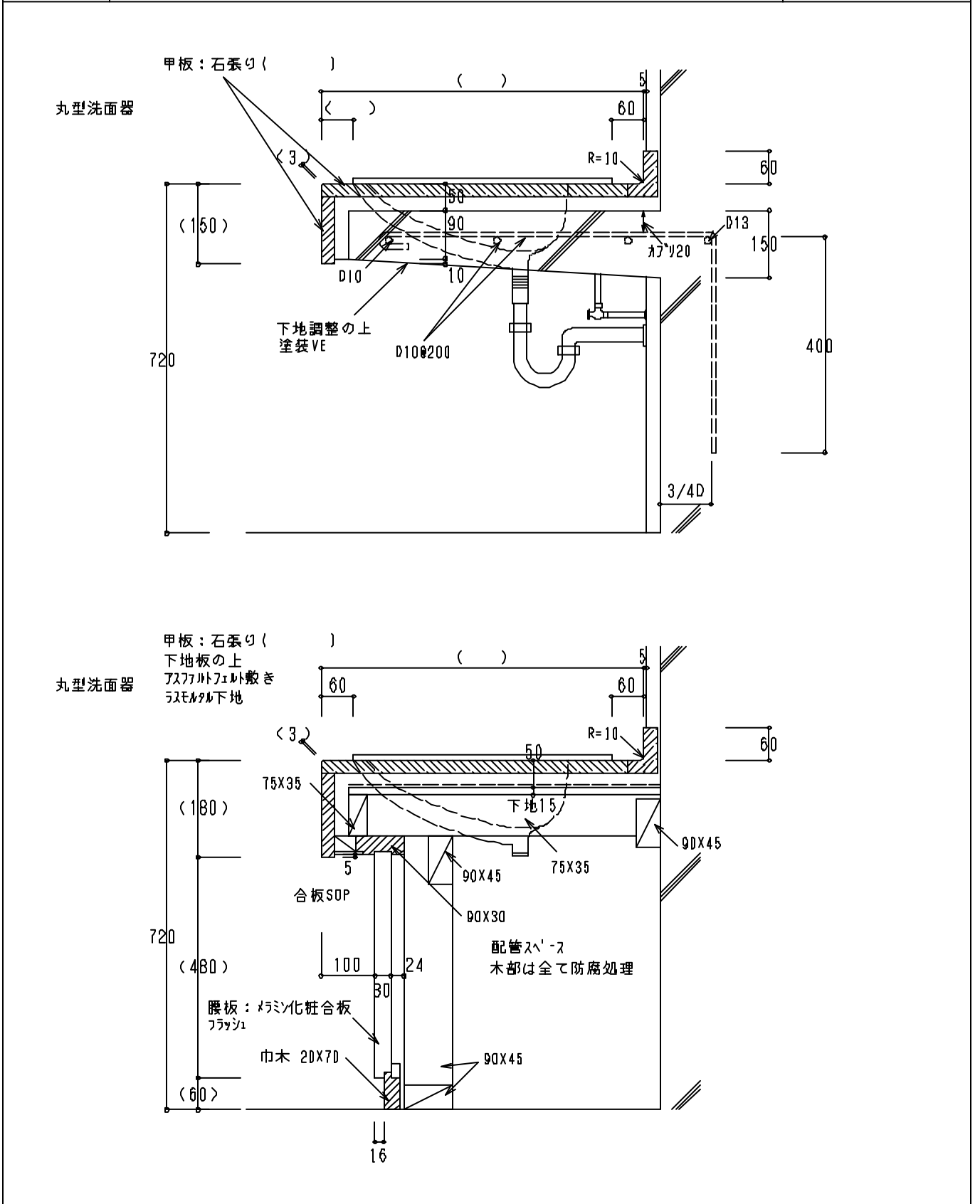
戸当り付帽子掛及びペ-ル-ホルダ-の取付位置には補強材を入れる。

適用範囲   
 注意事項  スクリーンの材料・種類を明記する。  
 建具の仕様を明記する。

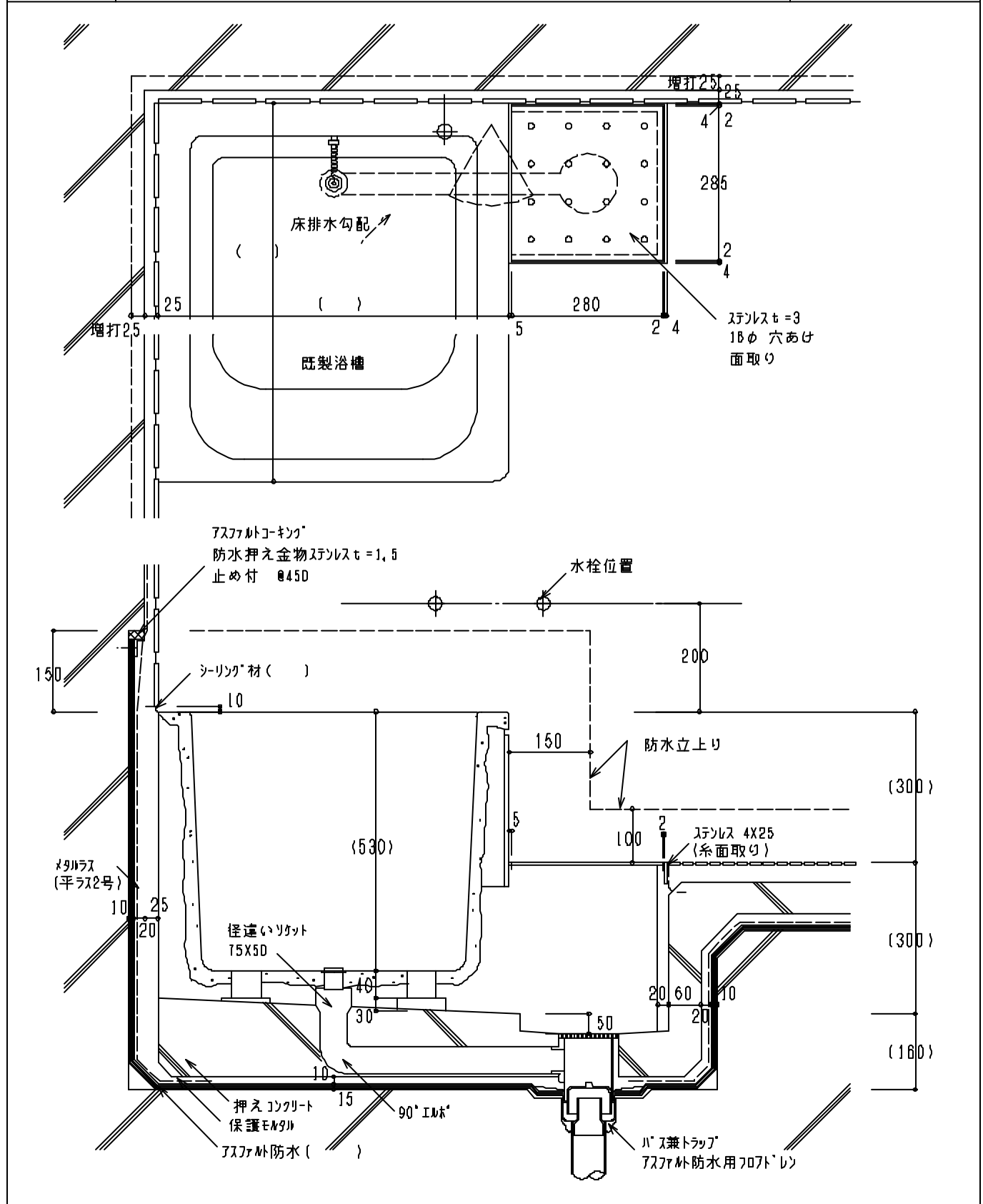
適用範囲  床に水勾配がある場合は巾木を床に埋め込む。  
 注意事項  パネルの仕上 (耐水合板フラッシュ塗装、化粧合板 (メラミン、ポリエステル) フラッシュ) を明記する。



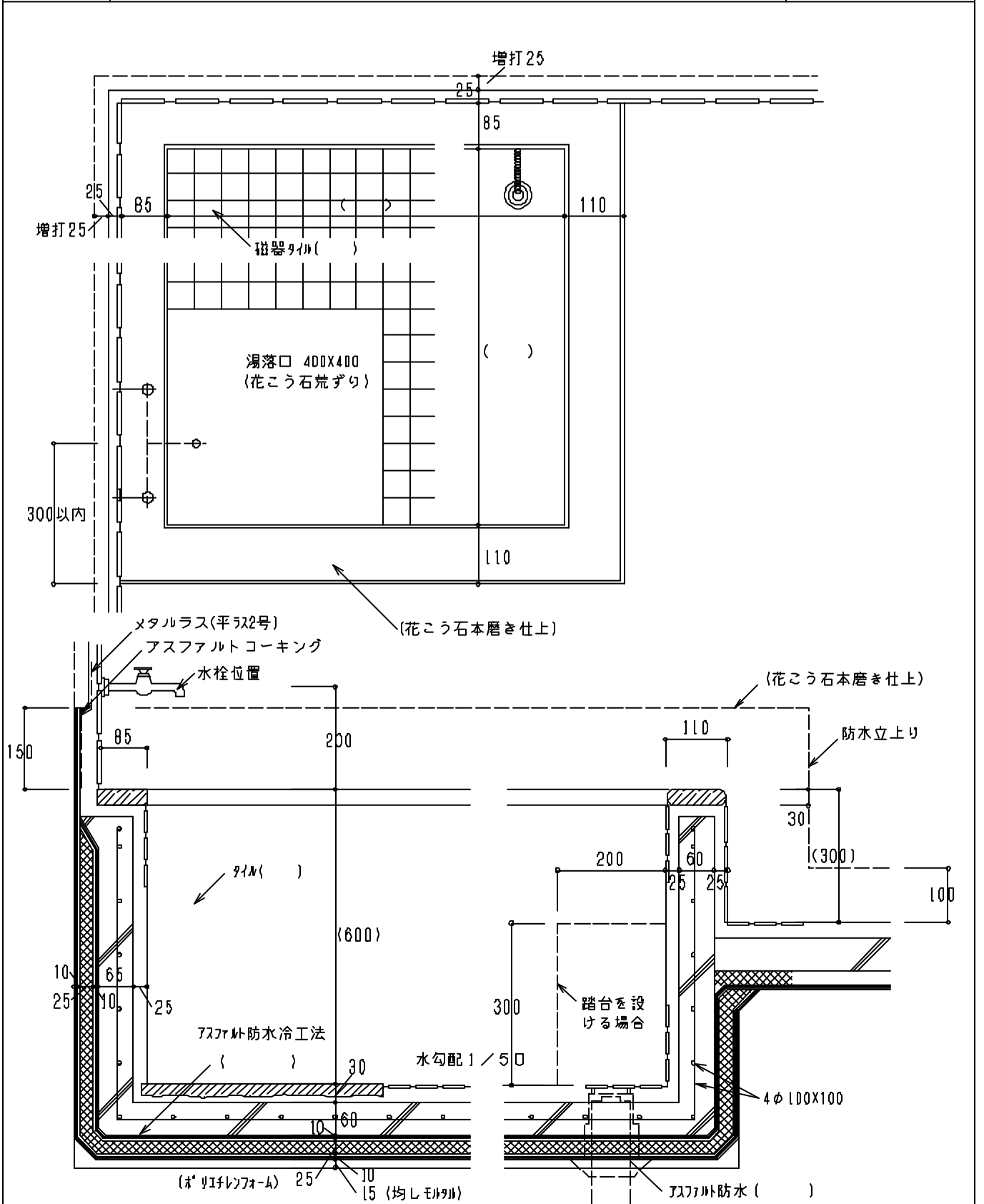
- 適用範囲 □  
 注意事項 □ 甲板の仕様を明記する。  
 □ 壁仕上げが塗装の場合は、甲板に立上りを設ける。  
 壁掛けストール小便器の排水管の位置が床から1,200mmをこえるものについては、(※)寸法を1,400mmとする。



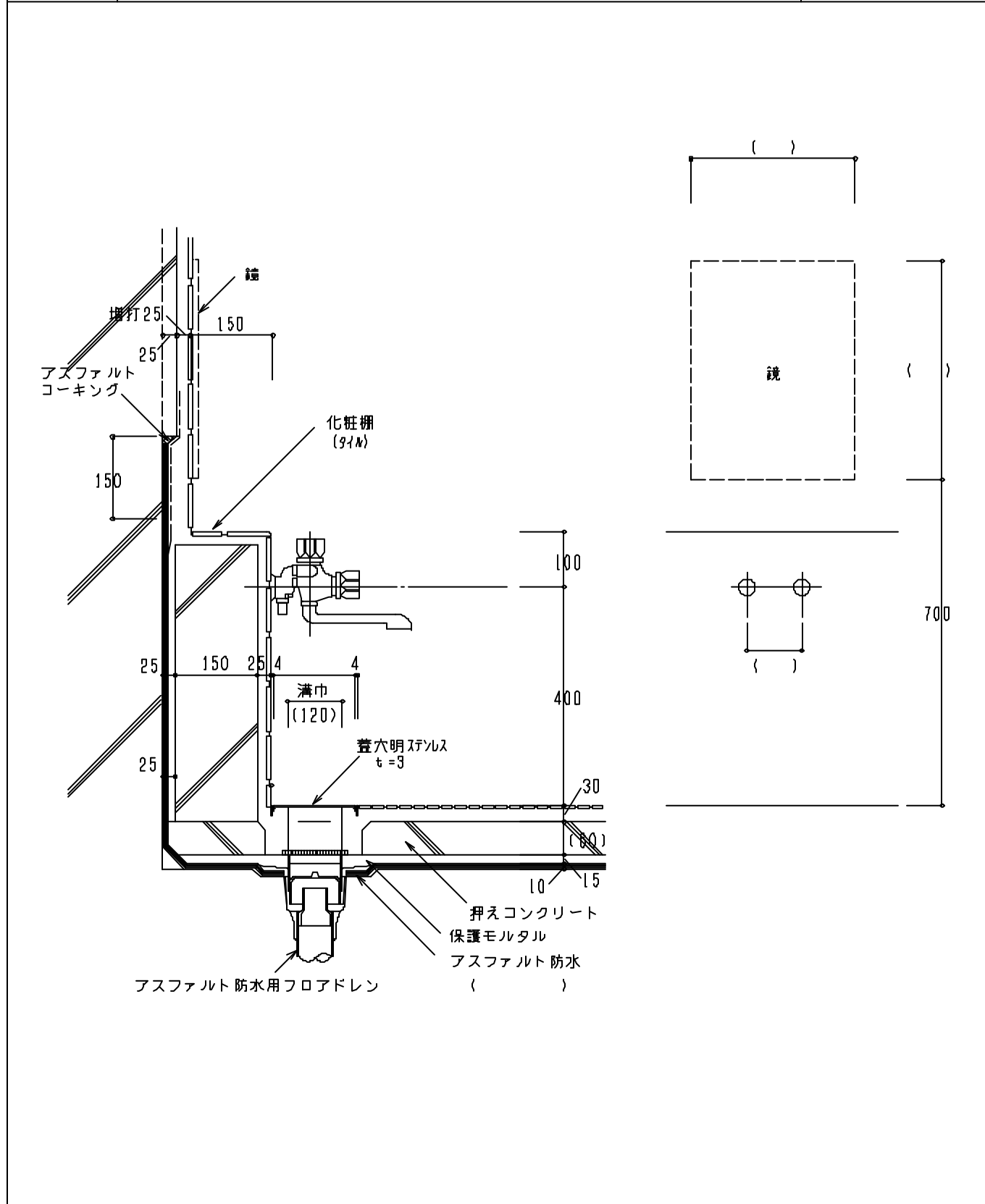
- 適用範囲 □  
 注意事項 □ 石の種類を明記する。  
 □ 側壁のある場合は、甲板の立上り部分を側壁側にもまわす。  
 □ 洗面器を2以上連続して配置する場合で給排水管を横引管とする場合は、設備担当者調整する。  
 □ 配管スペース内の給水管は、結露の恐れがあるので防露処理をする。



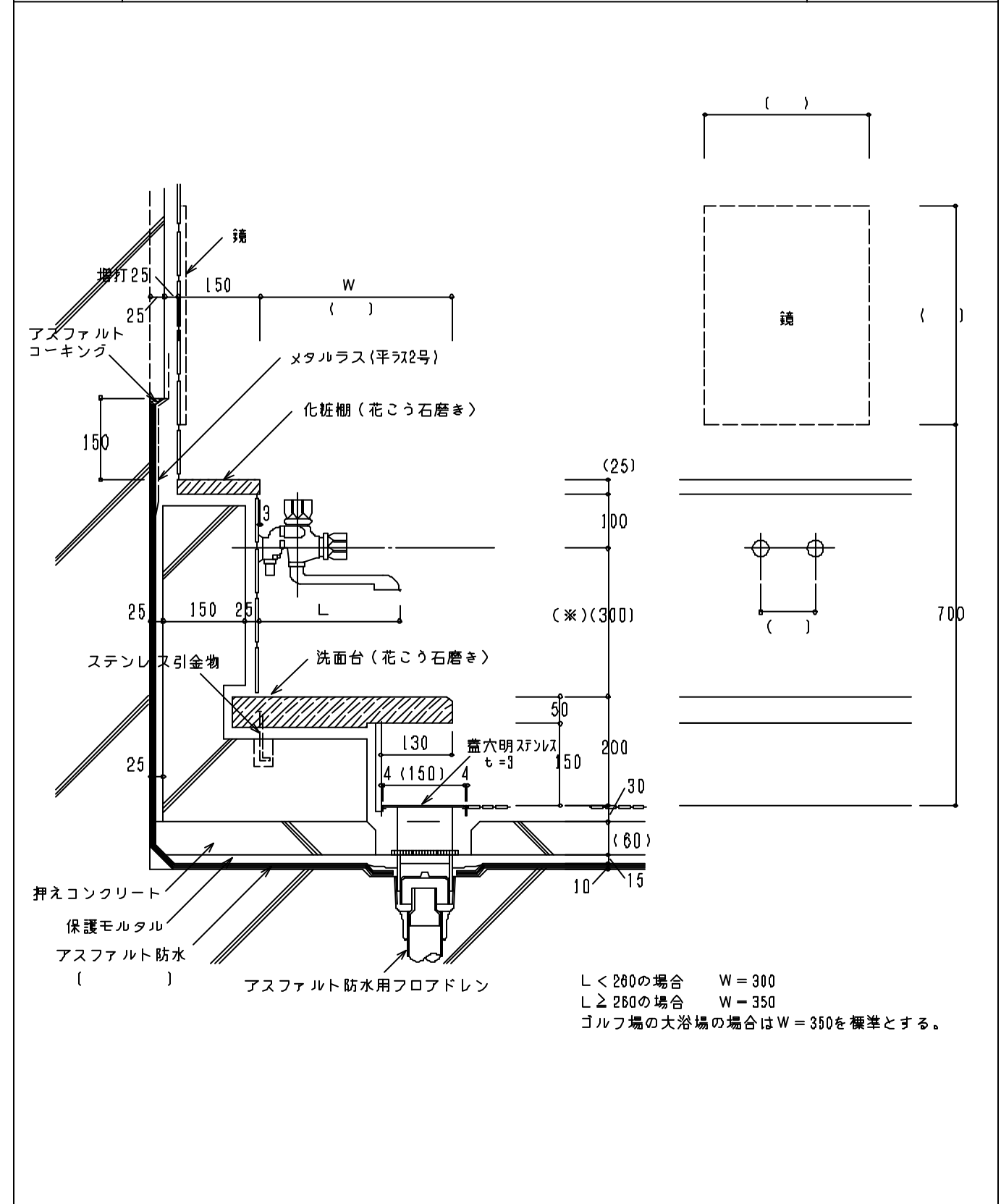
- 適用範囲 □ 集合住宅以外の場合  
 注意事項 □ 浴槽の仕様（ホーロー、ステンレス、ポリ）、エプロンの勝手及び蓋の有無を明記する。  
 □ 浴槽の蓋は、強度かかり代を検討して選定する。  
 □ 浴室入口幅と浴槽の寸法を確認すること。  
 □ 防水は下部が土間の場合はセメント防水とし、下部に室がある場合はアスファルト防水とする。  
 □ 浴槽周りの防水範囲は、浴槽から150mmとする。



- 適用範囲 □ 洗い場に給水・給湯カランがある場合。  
 注意事項 □ 浴槽最小寸法は、内法600mm×700mmとする。（踏台を設ける場合は踏台幅をのぞく）  
 □ 湯落口周辺は、熱湯による剥離防止を考慮して花こう石張りとする  
 □ 防水は下部が土間の場合はセメント防水とし、下部に室がある場合はアスファルト防水とする。  
 □ 水抜栓は浴槽外より容易に操作できる位置に設ける。 □ 断熱材は吸水率の低い材料（スタイロホームGK程度）とする。 □ 大浴槽の場合は給湯方式（カラン形状）を検討して決める。



- 適用範囲 □
- 注意事項 □ カラン間隔の標準は800mm(最小700mm)とし壁際は500mm(最小は400mm)とする。
- カラン数が2以下の場合は目皿だけでもよい。
- 鏡の要否、個数を検討する。鏡の上端は、床面より1,100mm内外とする。
- 下部が土間の場合はセメント防水とし、下部に室のある場合はアスファルト防水とする。
- ハンドシャワー取付高さは、床より800mm~900mmとする。
- 給湯給水を単独に設ける場合は、桶に湯・水が同時に入るよう取付ピッチを100mmとする。
- (※) カランの種類(シャワーバス金具, シャワーバスセット)によって立上り寸法を検討する。



- 適用範囲 □
- 注意事項 □ カラン間隔の標準は800mm(最小700mm)とし壁際は500mm(最小は400mm)とする。
- カラン数が2以下の場合は目皿だけでもよい。
- 鏡の要否、個数を検討する。鏡の上端は、床面より1,100mm内外とする。
- 下部が土間の場合はセメント防水とし、下部に室のある場合はアスファルト防水とする。
- ハンドシャワー取付高さは、床より800mm~900mmとする。
- 給湯給水を単独に設ける場合は、桶に湯・水が同時に入るよう取付ピッチを100mmとする。
- (※) カランの種類(シャワーバス金具, シャワーバスセット)によって立上り寸法を検討する。

L < 280の場合 W = 300  
 L ≥ 280の場合 W = 350  
 ゴルフ場の大浴場の場合は W = 350を標準とする。

SD-65 バルコニー等の手すり安全標準 共通事項

- 1.適用範囲 集合住宅で子供の利用が考えられる部分について適用する。  
 2.手すり、窓台の高さ 各部の寸法は下記のうち厳しい方の数値以上とする。

(単位 mm)

場所	形式	足掛りの無い場合	足掛りのある場合	広幅足掛りのある場合
バルコニー 廊下 屋外階段 (傾斜部分は 段鼻からの 高さとする)				
窓の手すり 腰高				
屋上広場				

- 凡例 □ = 住宅都市整備公団の規定  
 ② = 各行政庁の指導  
 ③ = 安全上更に考慮を要する事項  
 h = 足掛り (h=650以上の場合) (注)

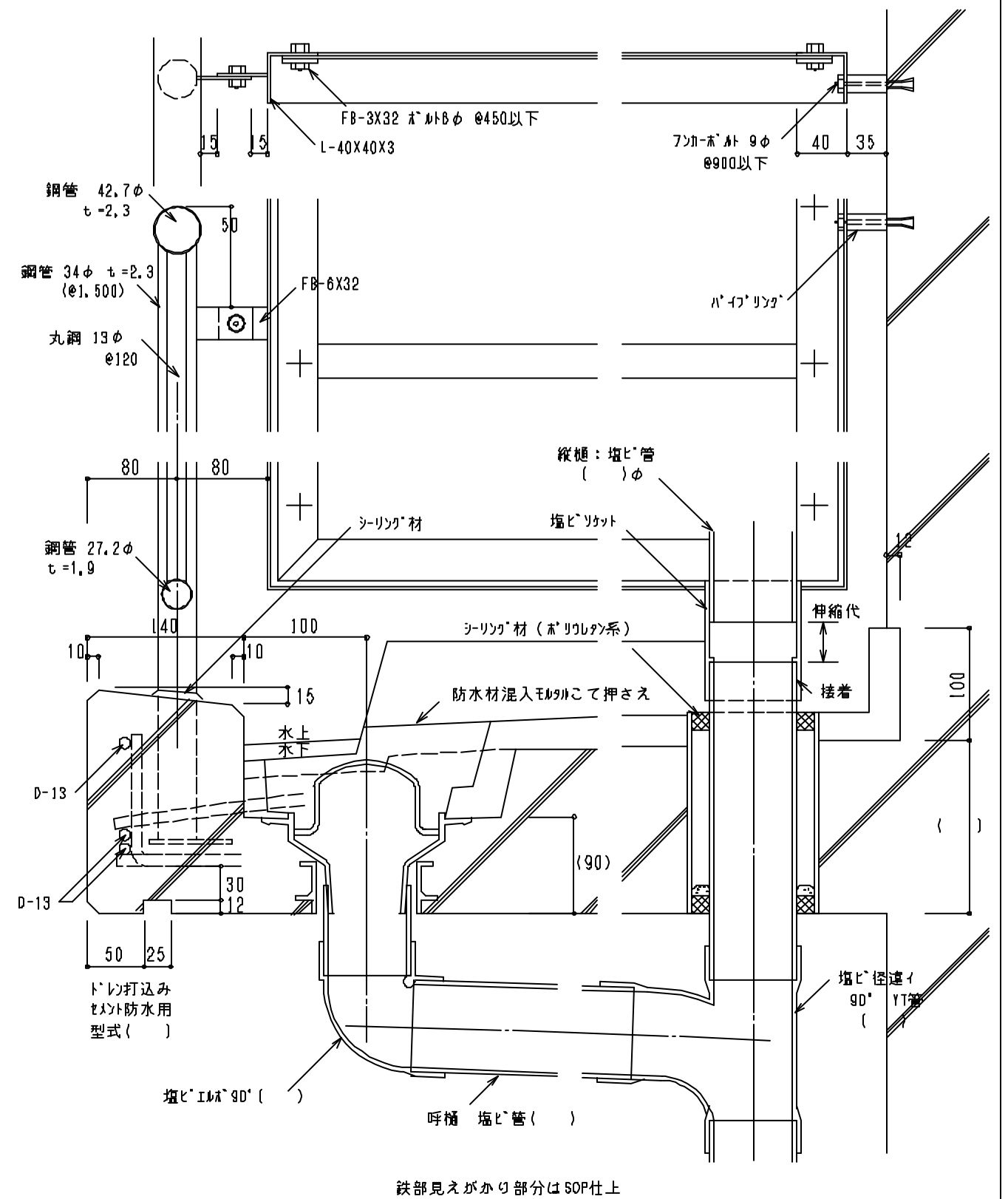
(注) (公団規定) 足掛り(h)とは、床面からの高さが650mm以下で、幼児が足を掛けて上がる危険性のある部分をいう。この内幅掛りとは、出窓、ウォールガーター等で、その部分の幅が150mm程度以上あり、箱等を乗せることができるもの。

- 3.形式構造 金属手すりは縦横形式とし、横の間隔は内法110mm以下、下部及び側面と他の部分との隙間は内法80mm以下とする。  
 足掛りとなる部分はできるだけ設けない。  
 非常用進入口となる開口は、垂直距離有効1m以上確保できるように手すり位置・形状を考慮する。

注意事項 □ 当標準は住宅都市整備公団の「住宅設計要領(中高層共同住宅)」を参考に、各行政庁の指導及び安全上さらに考慮を要する事項を加え、設計上守るべき必要最小限の標準として定めた。  
 なお、上記以外の形式。又は使用上でさらに危険性が考えられる場合は、当標準の基本を守り、さらに安全性の付加を考慮する。

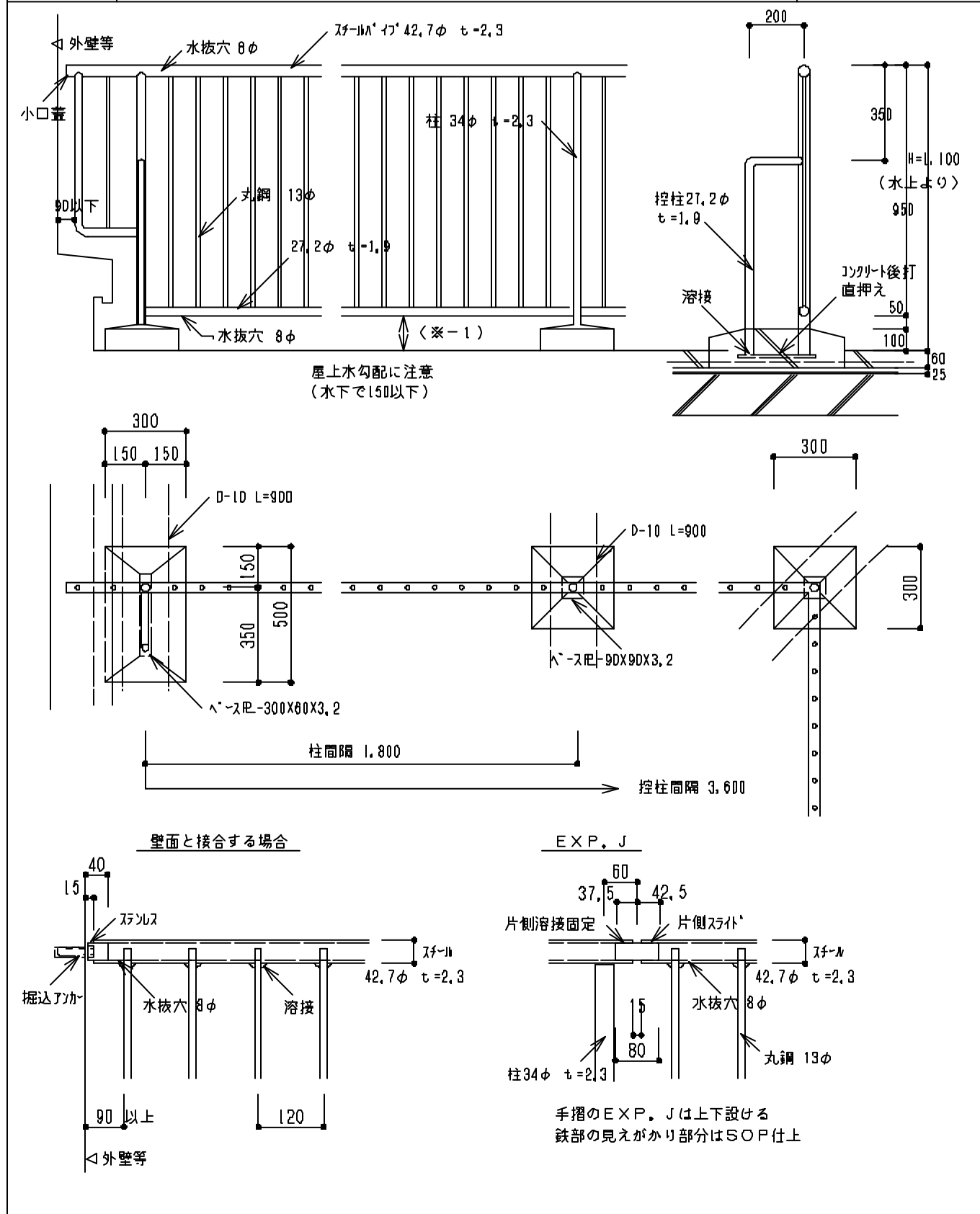
SD-66 バルコニー 居室側

1:50

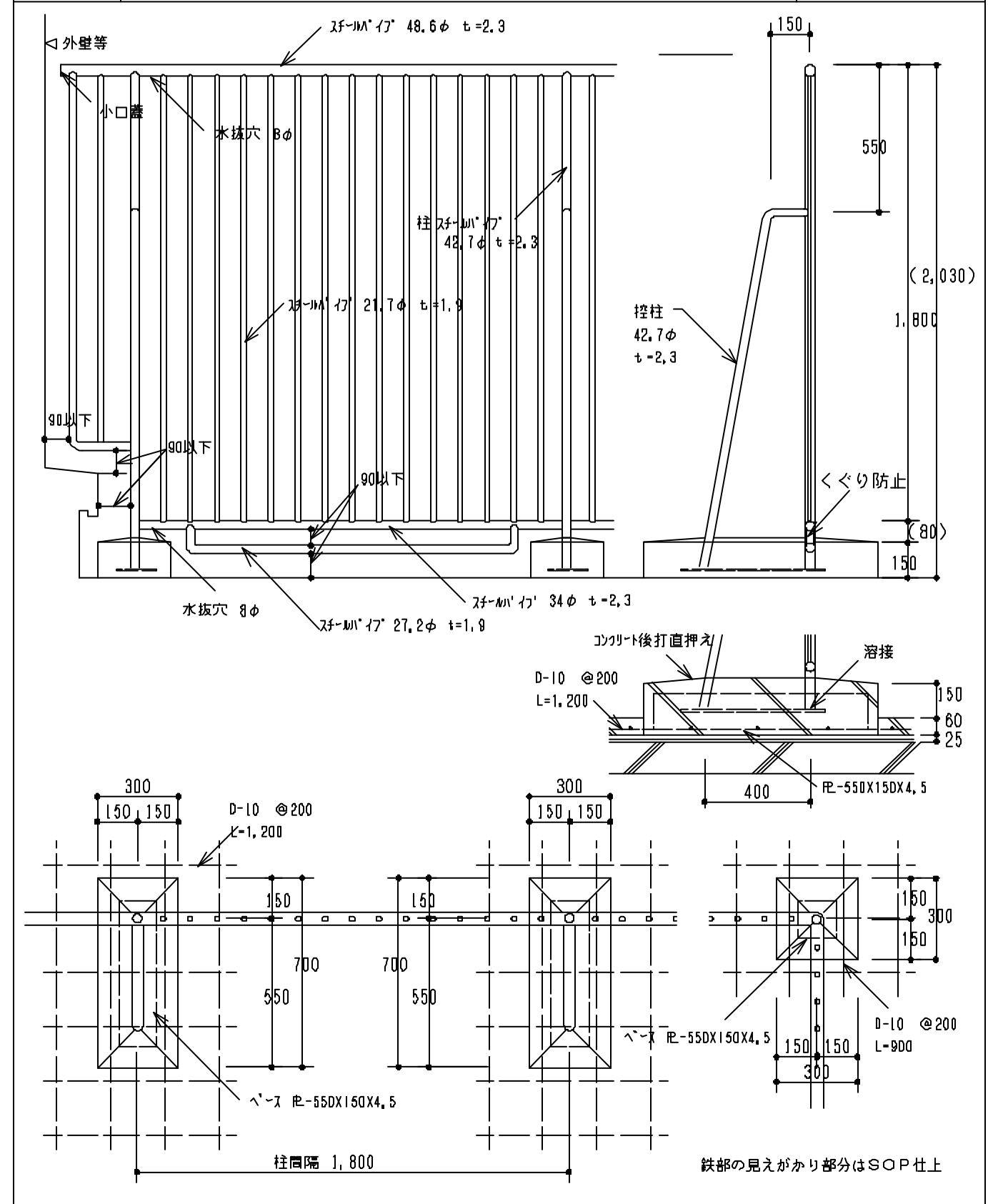


- 適用範囲 □ 極寒地には適用しない。 □ 集合住宅等のバルコニー、先付手すりの場合。  
 注意事項 □ はね出しスラブが1.5m以内の場合。 □ ドレンは原則として打込みとする。 □ 手すり支柱の足元を垂れ締めする場合は明記する。  
 □ 縦樋と予樋の材質、径を明記する。 □ 先端排水溝の水勾配を確保の上スラブ厚さを明記する。  
 □ 手すりの高さは、住宅都市整備公団及び各行政庁等の指導の高さを確認の上決定する。(足がかり部分より高さH=1,100mm以上、床面からの高さH=1,200mm以上)

SD-67 屋上手すり(1) 1:20 1:10



SD-68 屋上手すり(2) 1:40



- 適用範囲 □ 一般の場合。  
 注意事項 □ 塩害等の恐れのある特殊地域では材料及び防錆処理(亜鉛めっき)を考慮する。  
 □ 手すり高さ1,500mm以上の場合は、強度を検討する。  
 □ 手すり支柱の足元を亜鉛めっきする場合は、図面に明記する。  
 □ (※-1)やむを得ず水下で150mm以上になる場合は、くぐり防止を設ける。  
 □ エキスパンションは15m内外に設ける。

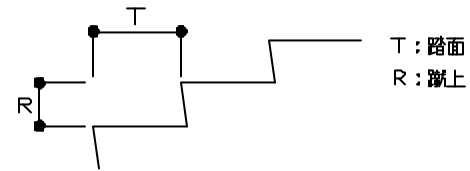
- 適用範囲 □ 集合住宅及び不特定多数の人を対象とした場合。  
 注意事項 □ 塩害等の恐れのある特殊地域では材料及び防錆処理(亜鉛めっき)を考慮する。  
 □ 手すり高さ2,100mm以上の場合は、強度を検討する。  
 □ エキスパンションは15m内外に設ける。



1. 蹴上、踏面、高さの関係

昇りやすい階段の蹴上と踏面の関係は

$$R + T = 450$$

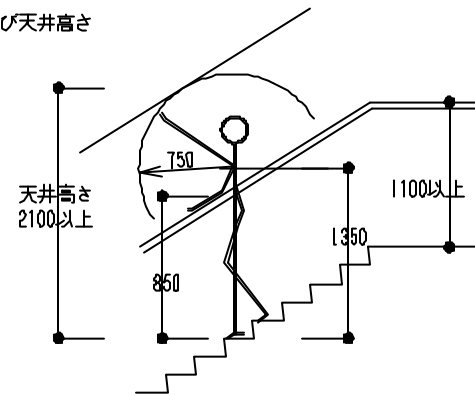


踏面と蹴上寸法の目安としては 不特定多数 R=150 T=300

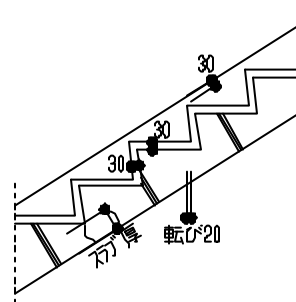
一般事務所 R=180 T=270

避難専用 R=190 T=260 内外とする。

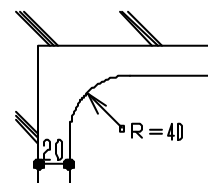
手摺高さ及び天井高さ



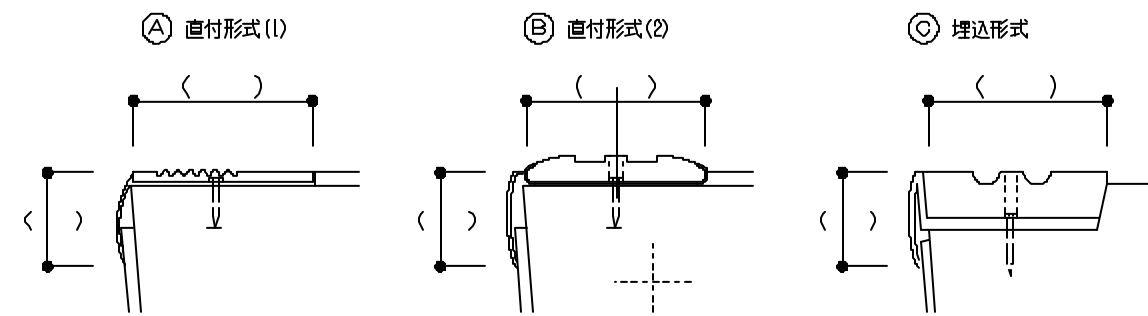
中木の位置



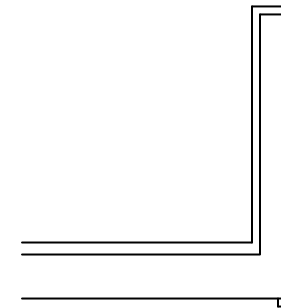
2. 踊場の壁入隅部分詳細図 1:5



3. ノンスリップの各種取付

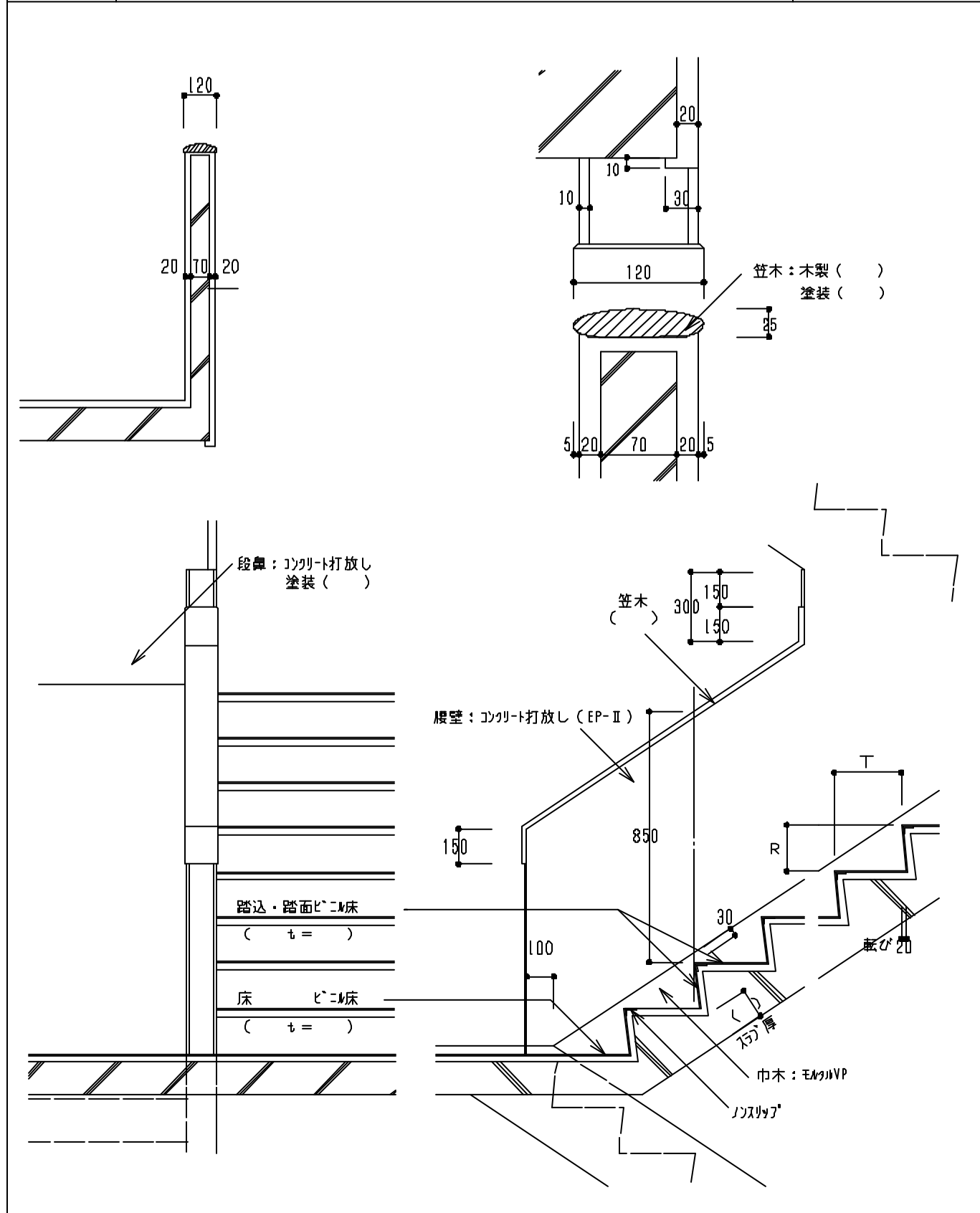


適用範囲  
 注意事項  
 ノンスリップは床面からの突起が少ないものを選定する。  
 ノンスリップの材料・形状を明記する。



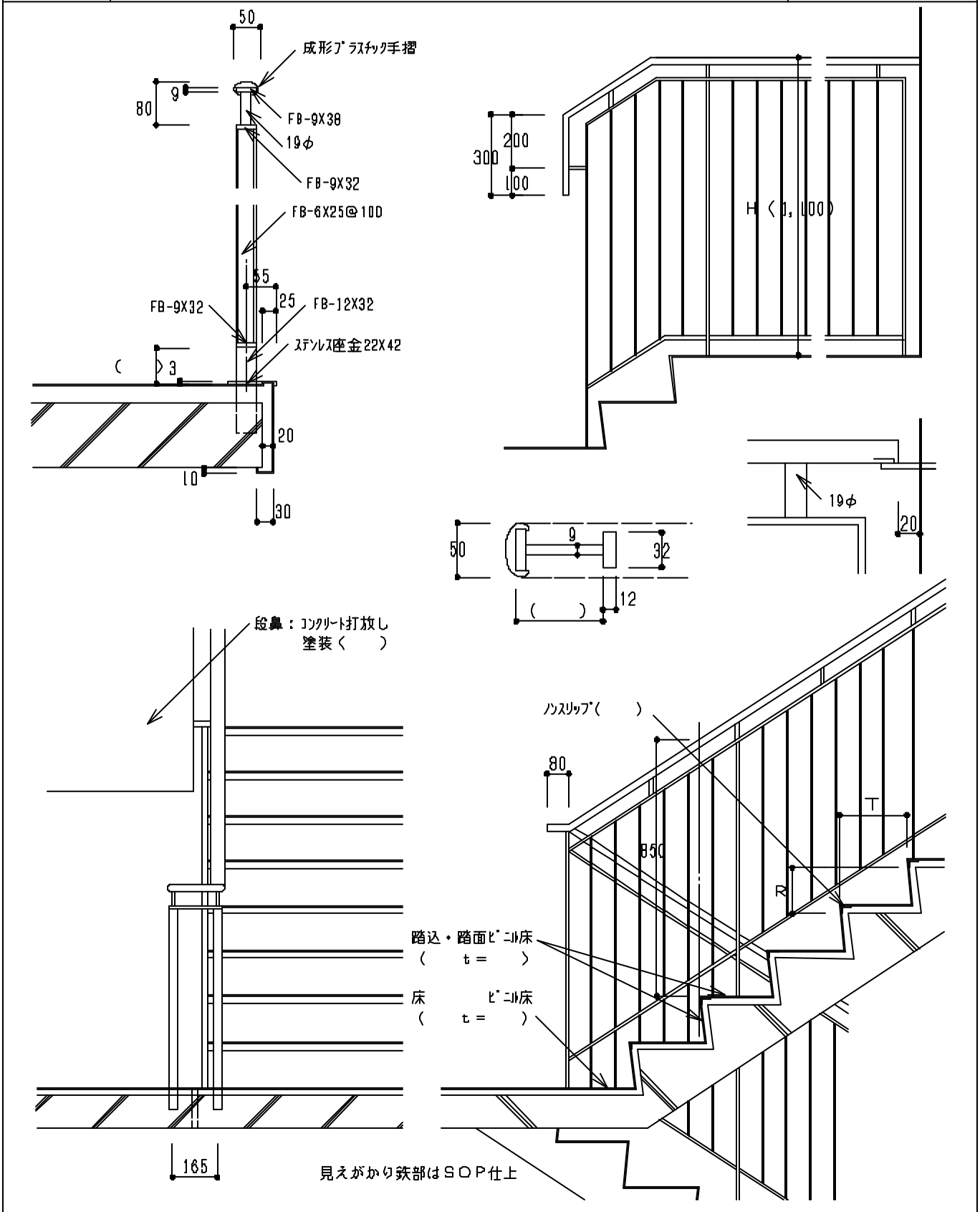
適用範囲  
 注意事項  
 腰壁に中木を設けない場合は、汚れが目立たない色としてVE仕上とする。腰壁が汚れが目立つ色の場合は、実線ア明示し塗装種別を明記する。  
 ノンスリップの材料・形状を明記する。

SD-71 階段 RC造 (2) 1:20 1:5



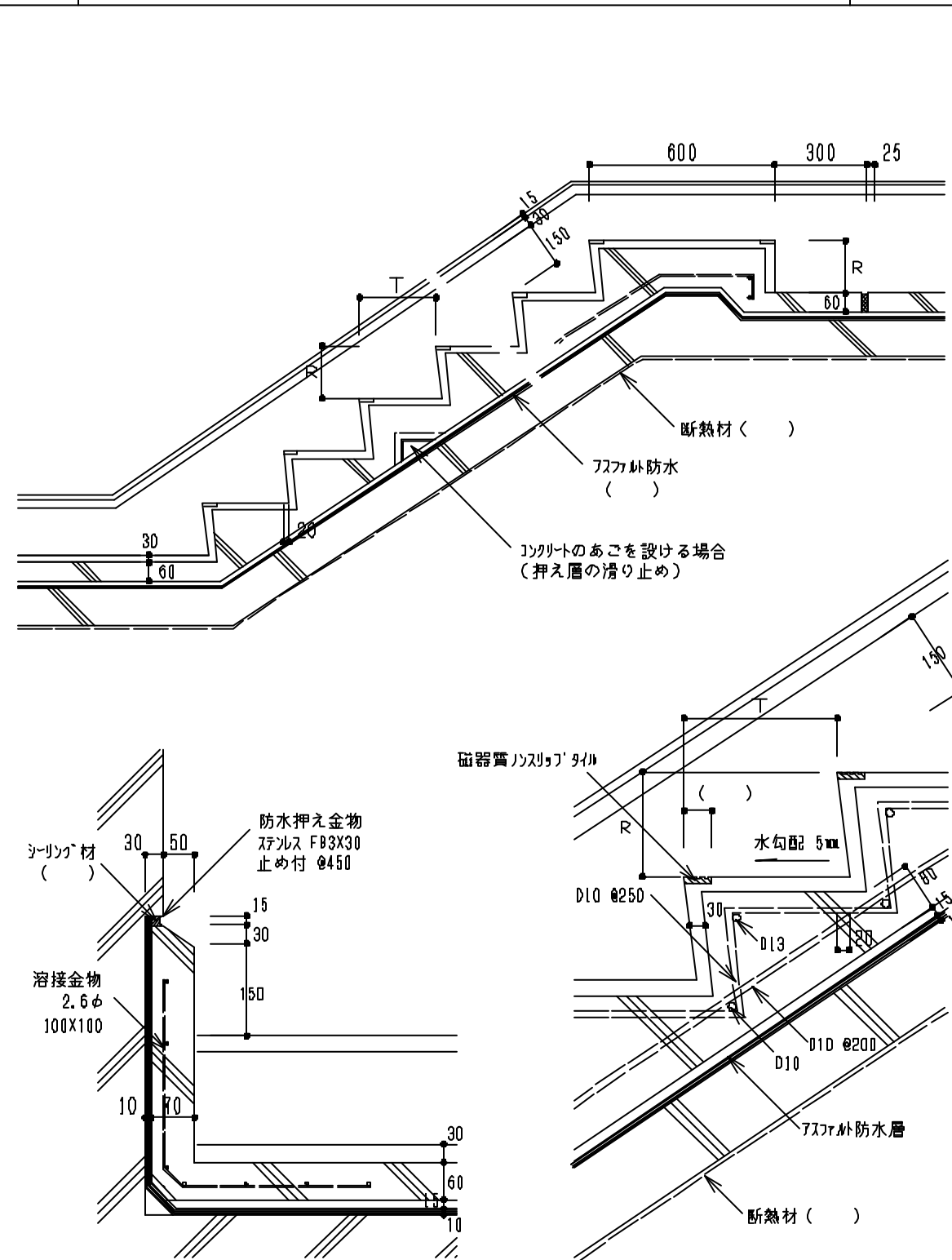
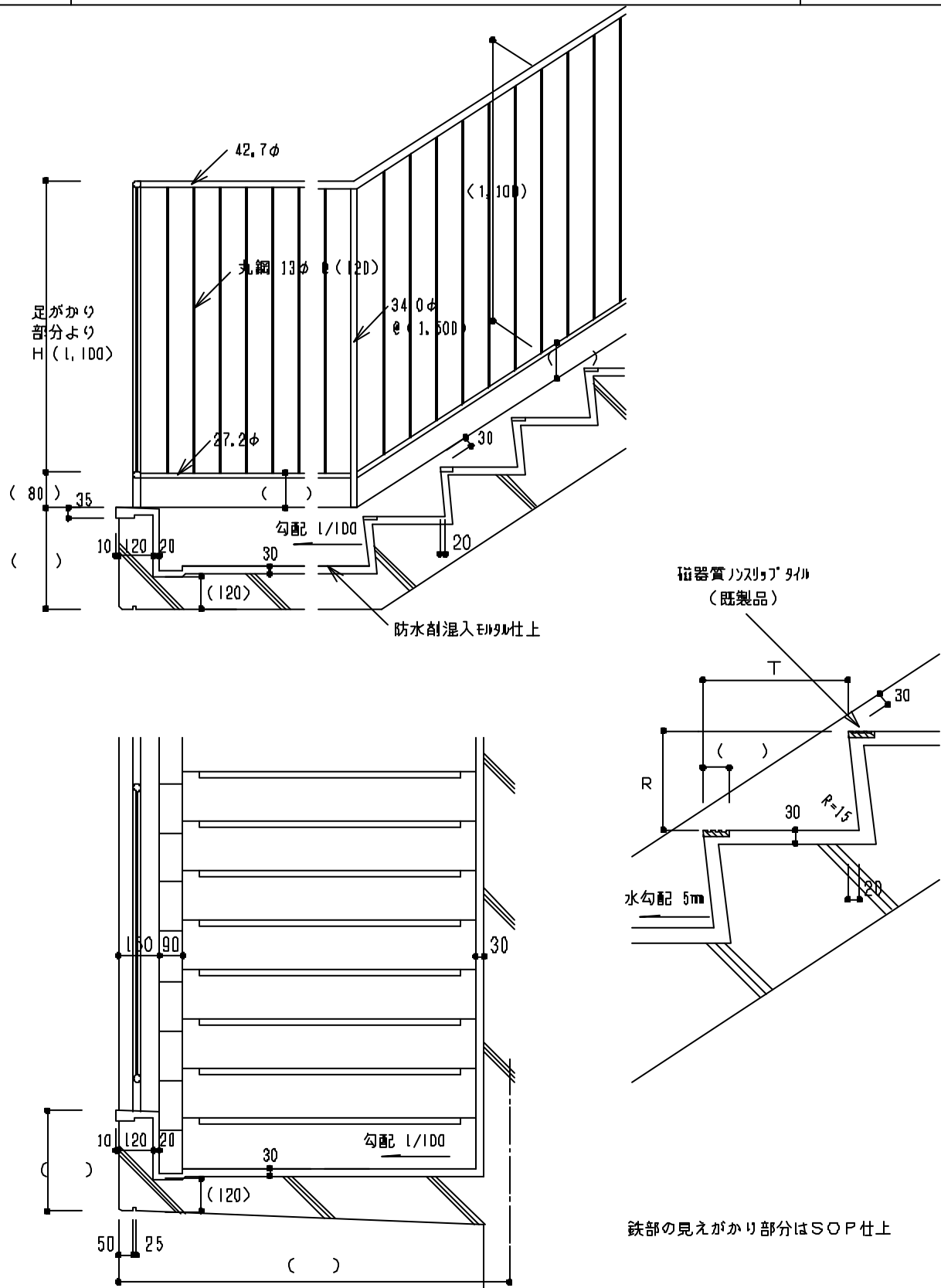
- 適用範囲
- 注意事項  腰壁に巾木を設けない場合は、汚れが目立たない色としてVE仕上とする。腰壁が汚れが目立つ色の場合は、実線で明示し塗装種類を明記する。  
 ノンスリップの材料・形状を明記する。

SD-72 階段 RC造 (3) 1:10 1:20



- 適用範囲
- 注意事項  利用頻度の多い階段は、笠木部分のFBと丸鋼にゆるみ止めの点溶接を行う。  
 ノンスリップの材料・形状を明記する。

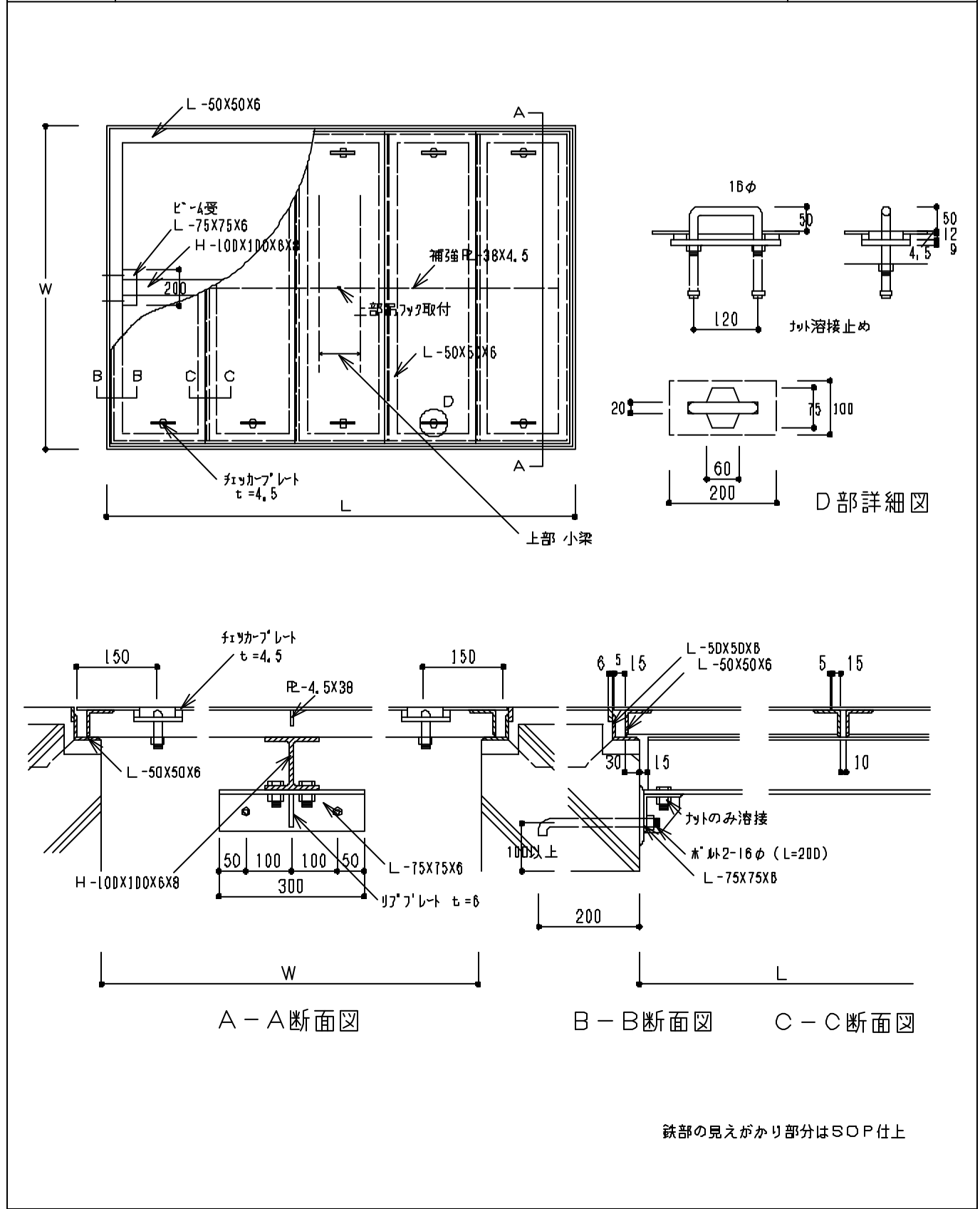




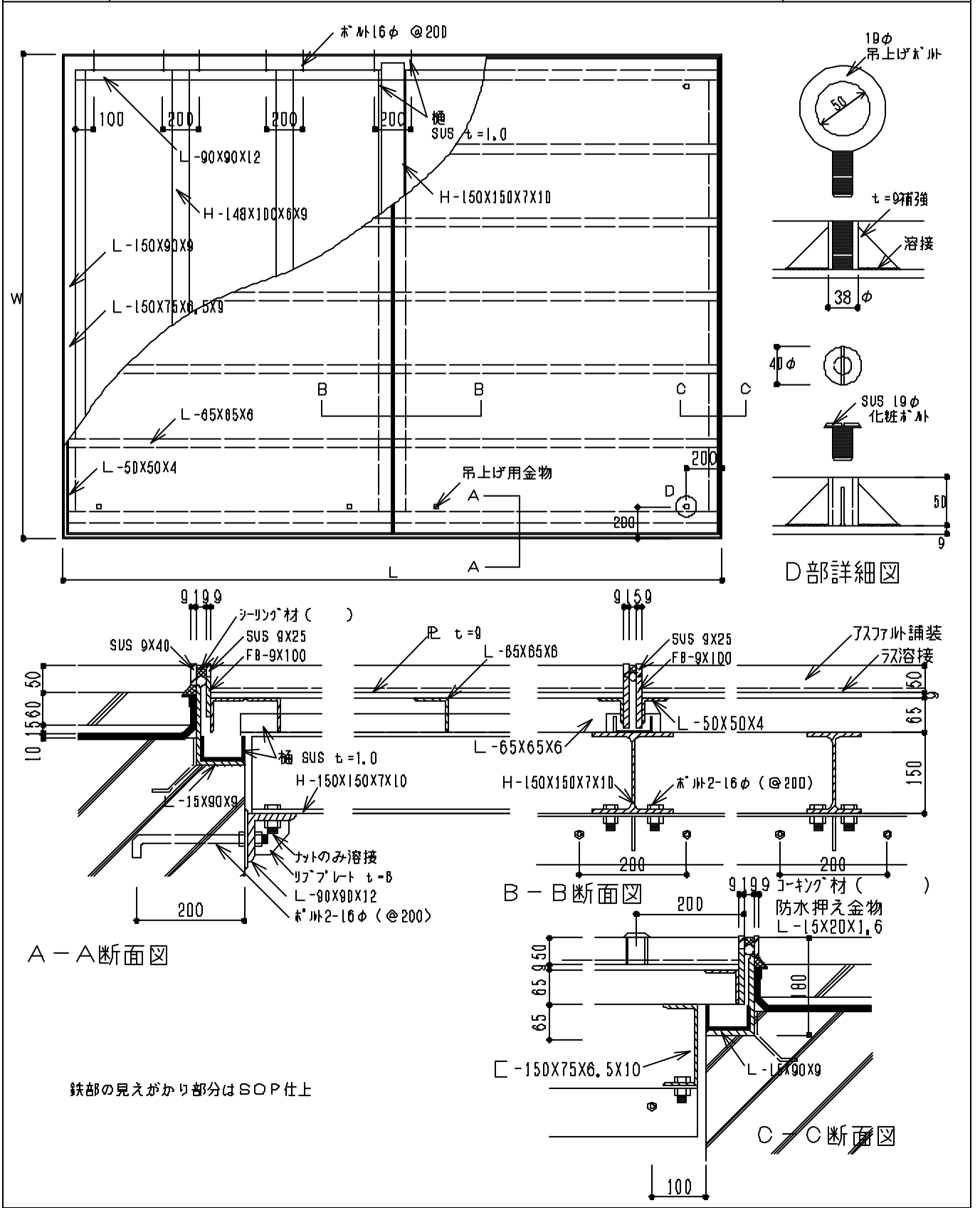
- 適用範囲  極寒地には適用しない。  集合住宅等の屋外階段。
- 注意事項  はね出しスラブが1.5m以内の場合。  
 各階にドレンを設け庇及び屋根に代るものがある場合は、側倒は設けなくてもよい。  
 手すりの高さは住宅都市整備公団及び各行政指導の高さを確認の上決定する。(足がかり部分の高さH=1,100mm以上、床面より高さH=1,200mm以上)  
 手すり支柱の足元を垂れ締めする場合は明記する。

- 適用範囲  建物内の屋外階段で、雨がかりとなる場合。
- 注意事項  直通階段が長い場合は、押え層の滑り止めを2.5m内外の間隔で設ける(階段幅一杯)  
 側倒の必要がある場合は明記する。  
 スラブ下が居室となる場合は、断熱材の打込みを明記する。  
 ドレンの位置、側溝の有無を明記する。





適用範囲  耐火、騒音、防水等の性能を要求されない場合。  
 マシンハッチの最大寸法W=2,000mm, L=2,850mm, 許容荷重300kg/m<sup>2</sup>の場合。  
 注意事項  使用頻度の多い場合は、安全手すりを考慮する。  
 吊フックは、直上スラブ又は小梁等に取付け、許容吊荷重をスラブ下面にペイント文字で表示する。



適用範囲  耐火性能を要求されない場合。  
 マシンハッチの最大寸法W=3,000mm, L=4,000, 許容荷重550kg/m<sup>2</sup>の場合。  
 注意事項  吊フックの位置を明記する。

## 防水・木床組

1 塗膜防水 ①③

床仕上  
養生モルタル  
塗膜防水(仕様)  
均しモルタル(直押えの場合は省略できる)

2 アスファルト防水 ②

床仕上  
押えコンクリート  
養生モルタル  
アスファルト防水

3 木床組 ④

大引 45×90 @900  
根太 40×45 間隔は下表による

仕上厚  
(仕上がない場合は60とする)

モルタル @600  
9φ @1,200

種別	工法1		工法2	
	下張り合板の厚さ	根太間隔	下張り合板の厚さ	根太間隔
塩ビシート カーペット	12+5.5	360	12	300
フローリング(12mm) 化粧合板(12mm)	12		15	360
フローリング(15mm)	12		下張りなし	300
縁甲板(15mm以上)	下張りなし		下張りなし	
畳	12	450		

## 壁下地

1 LGSスタッド ⑤

遮音を必要とする場合はシールを行う

二重張り@450内外  
一重張り@300内外

間柱およびランナーの種類

部材種別	スタッド	ランナー	高さによる適用
65形	[-65X45X0.8以上]	[-67X40X0.8以上]	高さ3.7m以下
90形	[-90X45X0.8以上]	[-92X40X0.8以上]	高さ3.7mをこえ4.5m以下
100形	[-100X45X0.8以上]	[-102X40X0.8以上]	高さ4.5mをこえ5m以下

2 木下地

たて胴縁 20×40@450内外  
よこ胴縁 20×40@450以内 (壁高1,200までは@300以内)

木れんが 20×40×120 (合成樹脂接着剤)

3 木製柱

ボルト9φ @900~1,200

50□ H=2,700以内  
75□ H=3,600以内 @450

45×90

胴縁 20×40 @450内外

ボルト9φ @900~1,200

## 天井下地

1 LGS下地

野縁受(L形) 38×12×12  
吊りボルト 9φ @900

野縁 シングル野縁 25×19×0.5 (22)  
ダブル野縁 50×19×0.5 (22)

野縁間隔

上張りの種類	野縁間隔	
ボード類で下地張りのある場合	360内外	
下地張りのない場合	標準 (ボード寸法 900×1,800程度)	300内外
	特殊 (ボード寸法 450×900程度)	450内外
金属成型板	450内外	

2 木下地

野縁受 45×45 @900  
吊木 40×40 @900  
野縁 40×45 @450

野縁受 45×45 @900  
吊木 40×40 @900  
野縁 40×45 @450  
板野縁 18×45

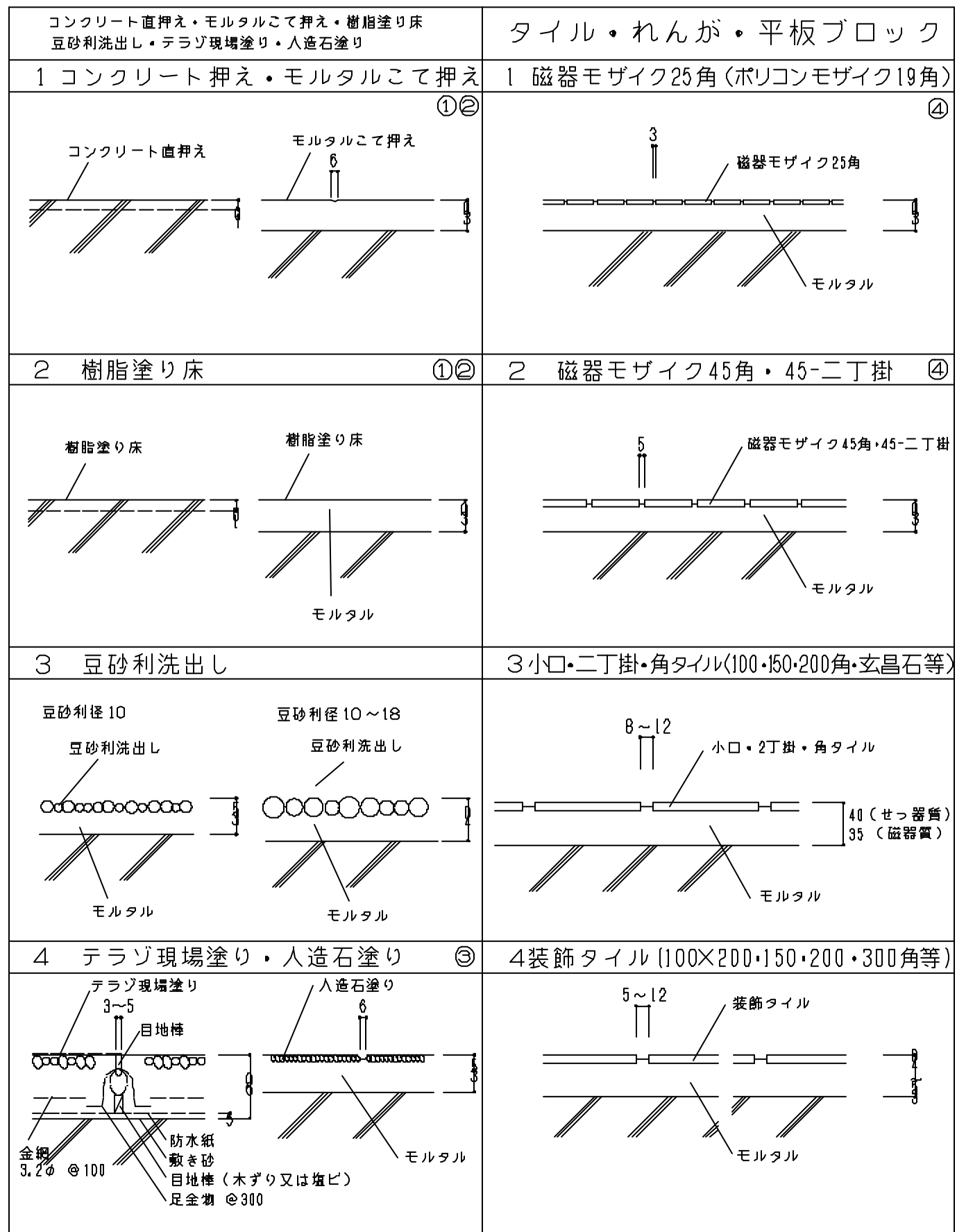
① 水洗いを行わない室で、軽微な防水をする場合に使用する。

② 水洗いを行う室に使用する。

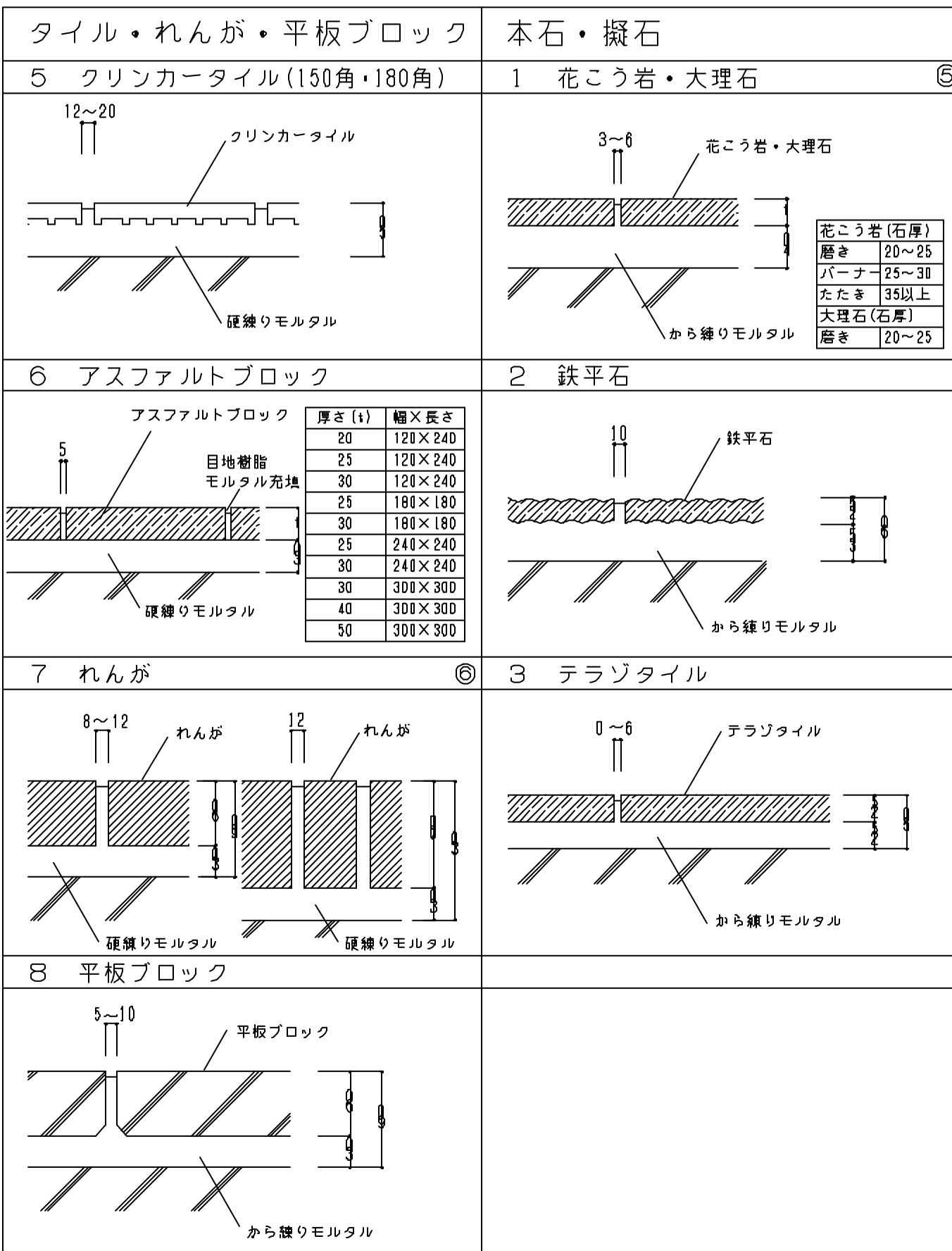
③ 養生モルタル又は押えコンクリートの上に仕上を行う場合の仕上厚はタイル5mm、モルタル仕上は10mm少なくできる。

④ 床仕上代は引寸法(45×90, 90×90等)により決定する。床下の湿気の多い場合は、大引、根太、合板裏面に防腐剤を塗布し、換気孔の設置を考慮する。

⑤ 遮音が要求される場合は、要求性能によりボード厚、工法(取付、ボード隙間充填、スタッド内吸音材充填等)を検討する。



- ① 土間コンクリートの場合は10mm増打はしない。
- ② 大面積の場合(内部)は@1.8m×1.8m/廊下@3.0mにて目地を設ける。
- ③ 目地割は@2.0m×2.0m以下とする。
- ④ 釉薬モザイクタイルは原則として床には使用しない。
- ⑤ 床用石材の仕上げはボーダーなど小幅のものを除き本磨きとしない。



⑥ 下地が土の場合は硬練りモルタルを敷き砂に変える。



ビニル床タイル・ゴムタイル・ビニル床シート・カーペット	
1 ビニル床タイル・ゴムタイル・ビニル床シート ①④	1 ビニル床タイル・ゴムタイル・ビニル床シート ②⑤
2 カーペット (直張り) ①④	2 カーペット (直張り) ②⑤
3 カーペット (フェルト下地) ①③	3 カーペット (フェルト下地) ②③⑤

- ① 土間コンクリートの場合は10mm増打はしない。
- ② 根太間隔は根太間隔の標準表(共通1)による。
- ③ カーペットの仕上天端は、原則として設計仕上面+5mmとする。カーペットの仕上代はフェルト10mm、カーペット7mm、合計17mmを標準とする。
- ④ 土間コンクリートの場合は湿気による床材の剝離防止のため「エポキシ系接着材使用」と明記する。
- ⑤ 床下の湿気の多い場合は、大引、根太、合板裏面に防腐剤を塗布し、換気孔の設置を考慮する。

ビニル床タイル・ゴムタイル・ビニル床シート・カーペット	
1 ビニル床タイル・ゴムタイル・ビニル床シート ②⑤	1 ビニル床タイル・ゴムタイル・ビニル床シート ⑥
2 カーペット (直張り) ②⑤	2 カーペット (直張り) ⑥
3 カーペット (フェルト下地) ②③⑤	3 カーペット (フェルト下地) ⑥

- ⑥ 点支持材はメーカーにより型式、材質が異なる。床荷重を考慮し選定に注意する。下地の合板は小規模で目遣いの恐れのない場合は、上張合板(t=5.5)をやめることができる。

弾性モザイクパークットブロック・縁甲板 フローリングブロック・化粧合板・フローリングボード	畳
1 弾性藻ガイクパークットブロック	1 ③④
2 フローリングブロック	2
3 フローリングボード・化粧合板①②	3 ①②
4 フローリングボード・化粧合板	4

- ① 根太間隔は根太間隔の標準表（共通1）による。  
 ② 大引は床高さにより大引寸法（45×90、90×90等）を明記する。床下に湿気の多い場合は、大引、根太、合板裏面に防腐剤を塗布し、換気孔の設置を考慮する。  
 ③ 土間コンクリートの場合は10mm増打はしない。  
 ④ 防湿紙はアスファルト15kg程度とし、防湿シートを取付けたスタイロフォームの場合は防湿紙の敷込を省略できる。

モルタルこて押え・石こうプaster塗り・岩綿モルタル吹付こて押え	
1 モルタルこて押え	2 石こうプasterこて押え ⑤
	4 合成樹脂エマルジョンプaster（樹脂プaster）塗り 
3 石こうプaster塗り ⑤	5 LGS下地岩綿モルタル吹付こて押え
	6 クラス下地又はリラス下地モルタルこて押え 

- ⑤ 石こうプaster、ドロマイトプaster等は、多湿、通気不良あるいは常時水や蒸気に触れる恐れのある場所には使用しない。

ボード類	
1 石こうボード・繊維混入セメント板類 ①②	2 石こうボード（直張り工法）①②④
<p>石こうボード9・12 繊維混入セメント板類6</p> <p>LGS スタッド @300 内外</p> <p>木軸 @450 内外</p> <p>繊維混入セメント板類6</p> <p>網縷 20×40 @450内外 石こうボード 9・12</p> <p>仕上げ厚</p>	<p>たて目地 (平面)</p> <p>Vカットパテ詰 サンドペーパー仕上</p> <p>テーパード ジョイント工法</p> <p>25</p>
<p>LGS スタッド @450 内外</p> <p>石こうボード</p> <p>木軸 @450 内外</p> <p>網縷 20×40 @450内外</p> <p>石こう ボード</p> <p>仕上げ厚</p>	<p>裏面 暗色寒冷紗張り グラスウール 24kg/m<sup>2</sup></p> <p>底目地 (平面)</p> <p>(有孔繊維混入 セメント板6・8)</p> <p>60</p>
<p>3 有孔板 ③</p>	
<p>LGS</p> <p>底目地</p>	<p>木軸</p> <p>底目地</p>
<p>Vカットパテ詰 サンドペーパー仕上</p>	<p>Vカットパテ詰 サンドペーパー仕上</p>
<p>テーパード ジョイント工法</p>	<p>テーパード ジョイント工法</p>

- ① 内装制限で不燃の場合は、石こうボードを不燃石こうボードとする。
- ② 湿気のある室に石こうボードは使用しない。
- ③ 孔の有孔率は8%（6φ@20程度）以上とし、孔径・ピッチを明記する。
- ④ 石こうボード直張り工法をコンクリート壁の上に施工する場合は、コンクリート単体壁に比べて低音域での遮音性能が低下するので戸境壁には使用しない。（両面施工の場合250Hzで6dB内外低下する）

合板類（普通合板・練付合板等）	
1 普通合板・化粧合板・練付合板 ⑤	
<p>くさび代</p> <p>20×40 @450×450</p> <p>木れんが 20×40×120 @450</p> <p>突付目地 突付け</p> <p>底目地</p> <p>3φ6</p> <p>60</p> <p>埋木目地</p> <p>目透し目地底うめ</p> <p>3φ6</p> <p>単板目地 (小口・そば は耳加工)</p> <p>20×40 @450×450</p> <p>3φ6</p> <p>敷目地 (小口・そば は耳加工)</p> <p>3φ6</p> <p>重ね目地 (小口・そば は耳加工)</p> <p>3φ6</p> <p>木軸 @450 内外</p> <p>仕上げ厚</p>	

- ⑤ 内装制限のある場合は認定された仕様とする。

タイル	
1 磁器モザイクタイル(25角)タイル①	5 装飾タイル(イタリアタイル等)①
<p>磁器モザイクタイル(25角)タイル①</p>	<p>装飾タイル(イタリアタイル等)①</p>
2 半磁器タイル①	
<p>半磁器タイル①</p>	
3 磁器モザイク(47角)45二丁掛・ニュー小口タイル①	
<p>磁器モザイク(47角)45二丁掛・ニュー小口タイル①</p>	
4 小口・二丁掛タイル①	
<p>小口・二丁掛タイル①</p>	

① コンクリートブロック下地とする場合の仕上厚は、コンクリート下地の場合と同厚とする。

石(本石・擬石)	
1 花こう岩 ②③④	
<p>花こう岩 ②③④</p>	
2 砂岩(割肌) ②③④	
<p>砂岩(割肌) ②③④</p>	
3 大理石(挽石) ②③④	
<p>大理石(挽石) ②③④</p>	
4 擬石ブロック ②③④	5 テラソブロック ②③④
<p>擬石ブロック ②③④</p>	<p>テラソブロック ②③④</p>

- ② 拘束型のコンクリート下地外壁及び大面積の内壁には、8m内外に原則として伸縮目地を設け、弾性シーリング材を充填する。
- ③ 石受金物、流し鉄筋及びアンカー類は、最小付着片面80g/m<sup>2</sup>(8mm)以上の垂鉛めっき又は鉛系錆止めペイント2回塗りを施したものを使用する。但し水がかり部の石受金物はステンレス(SUS304)とする。
- ④ 腰壁の部分又は衝撃を受ける恐れのある部分は縁トロとする。

ボード類	
<p>1 化粧石こうボード（虫喰い模様等）</p>	<p>4 岩綿吸音板（直張り工法）</p>
<p>2 石こうボード・繊維混入セメント板類</p>	<p>5 岩綿吸音板（捨張り工法）</p>
<p>3 化粧石こうボード（和室用木目模様等）</p>	<p>6 岩綿吸音板（システム天井）</p>
<p>① 内装制限で不燃の場合は、石こうボードを不燃石こうボードとする。</p> <p>② 湿気のある室に石こうボードは使用しない。</p> <p>③ 目地なしの場合は、100㎡内外又は15m内外に伸縮目地を設ける。</p> <p>④ 工法がメーカーによりそれぞれ違うため、目地部分の仕様、工法を検討する。</p> <p>⑤ 岩綿吸音板の天井のせかけ工法（システム天井）は、浮き上り止め、外れ止めの措置を講ずる。</p>	<p>⑥ 天井裏に他の室と区画された壁がない場合は、耐水合板 (t = 5.5) の捨張りをを行う。下地腐蝕防止のため、浴室等湿気の多い所では室内換気及び天井裏換気を考慮する。</p>

金属・プラスチック製品類	
<p>1 金属成形品</p>	<p>2 プラスチック成形品（断熱材つき・木製下地）</p>
<p>3 プラスチック成形品（断熱材なし・耐水合板下地）</p>	<p>4 金属成形品（押出成型）</p>
<p>5 金属成形品（押出成型）</p>	<p>6 金属成形品（押出成型）</p>
<p>7 縦ジョイント部</p>	

合板類（普通合板・化粧合板・練付合板・打上げ天井等）	
1 化粧合板（底目地張り）	3 練付合板
2 化粧合板（棹縁）	4 打上げ天井

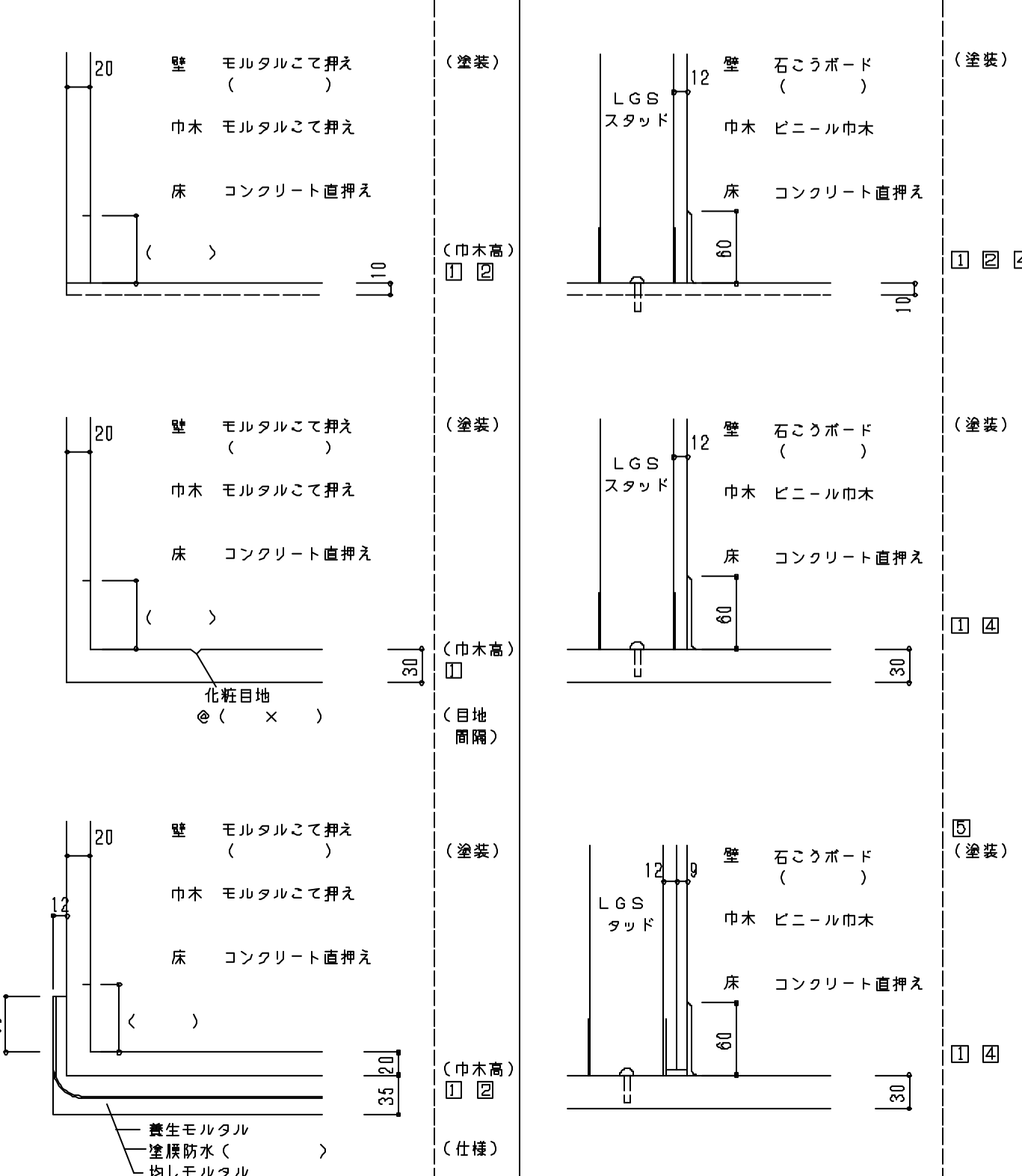
- 内装制限のある場合はそれぞれの認定品の仕様とする。
- 化粧合板には、天然木化粧合板、プリント合板、オーバーレイ加工合板等の種類がある。
- 釘の打ち方は、相じゃくりの場合は釘頭あらわしとし、本実はぎの時は隠し釘打ちを原則とする。化粧頭の釘を打つ場合は、釘の材種、形状を検討する。湿気のある室に使用する場合、板裏に防水紙（アスファルトフェルト 20kg以上）を使用する。

断 熱		
接 地 床	壁（外 壁）	床
1 フォーム <sup>®</sup> リスチン敷込み	1 フォーム <sup>®</sup> リスチン打込	1 フォーム <sup>®</sup> リスチン打込
	2 現場発砲硬質ウレタンフォーム吹付	2 断熱材吹付(デッキプレートの場合)
	3 フォーム <sup>®</sup> リスチンボード後張り工法	4 断熱材吹付及び張り付(折版の場合)

- 断熱材を後張りとする場合は、下地調整又はモルタルこて押えを施し、ボード周辺及び縦、横間隔450mm内外に帯状に接着剤を塗布する。（内部結露防止のため）
- 主として耐火を目的とした断熱材であり、透湿抵抗が低い場合結露防止効果は少ない。ウレタン露出の場合は防災コートを吹付ける。

床 コンクリート直押え・モルタルこて押え（樹脂塗床を含む）

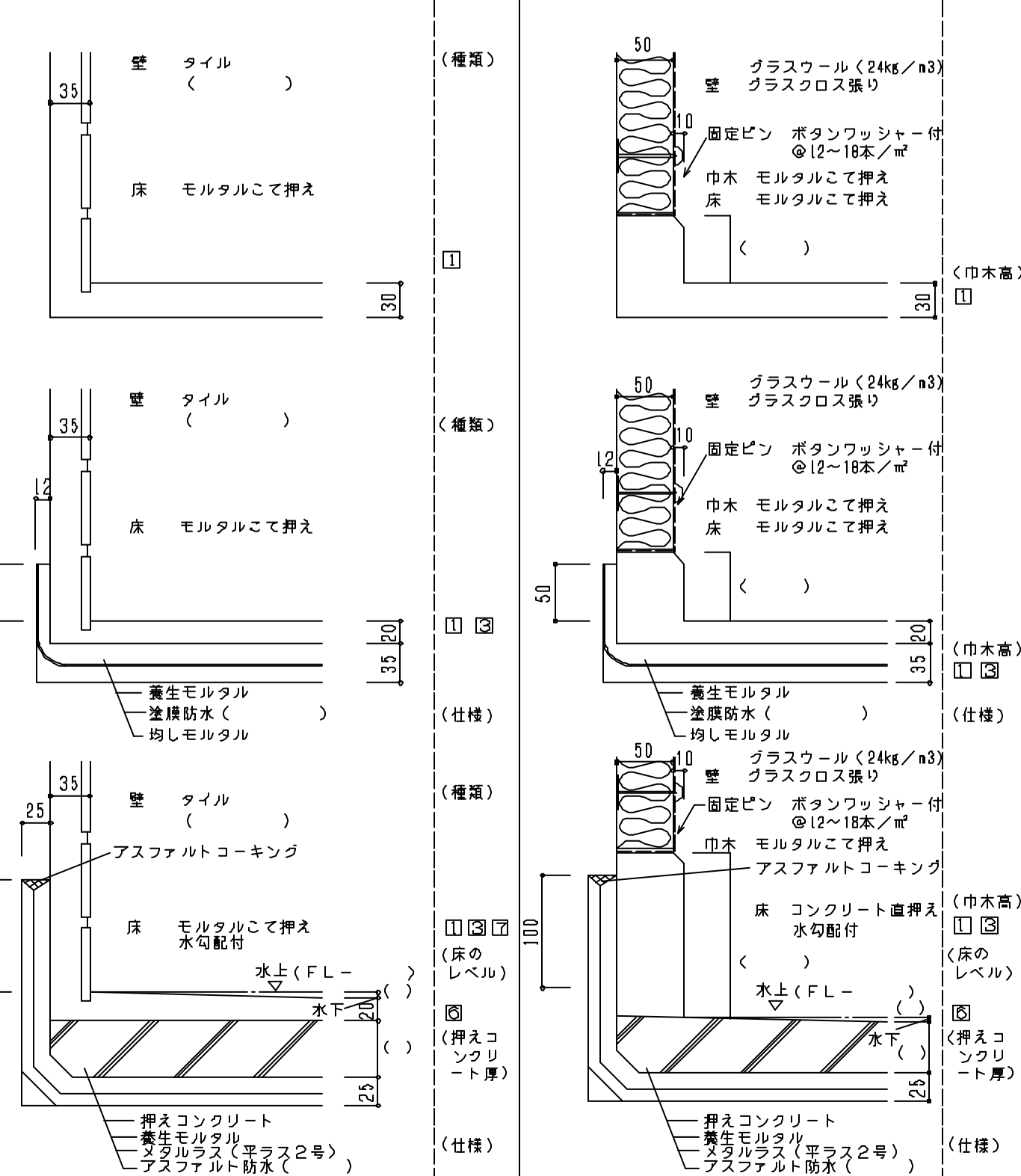
壁 モルタルこて押え 石こうボード（LGS下地）



- ① 防塵、耐摩耗クッション等の目的で樹脂塗床を施す場合は、その種類を明記する。また塗厚が厚い場合は塗厚を表現する。
- ② 土間コンクリートの場合は増打10mmをしない。
- ③ 防水立上りの切欠きは、構造上主要な部分（柱、耐震壁等）については増打とする。
- ④ 石こうボードが床の湿気を吸う恐れのある場合は、石こうボード下端を10mm程度透かせる。
- ⑤ 遮音を必要とする場合は、共通事項・壁下地の項（共通1）参照のこと。

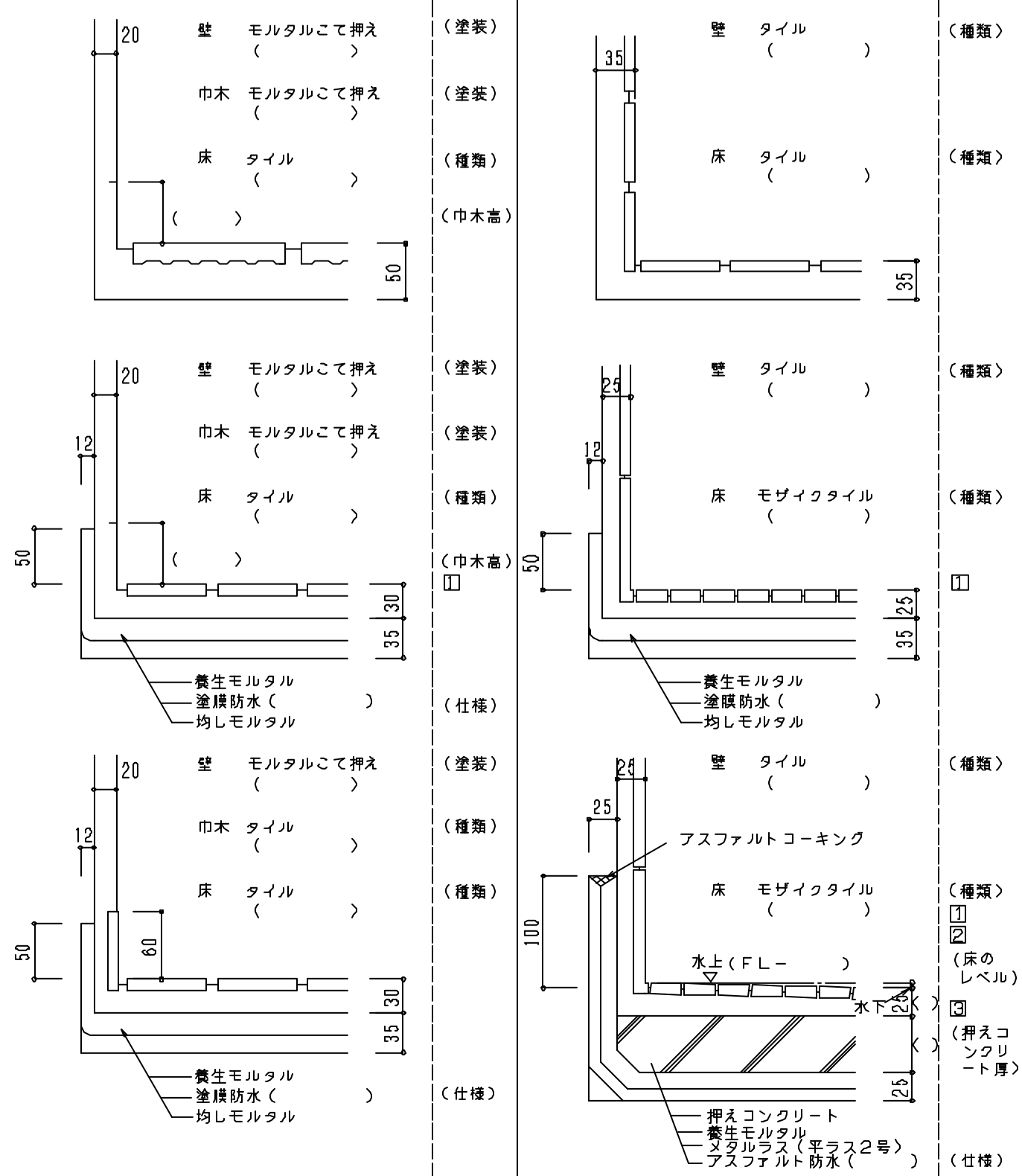
床 タイル グラスウール（吸音）

壁 タイル（ ） グラスウール（吸音）



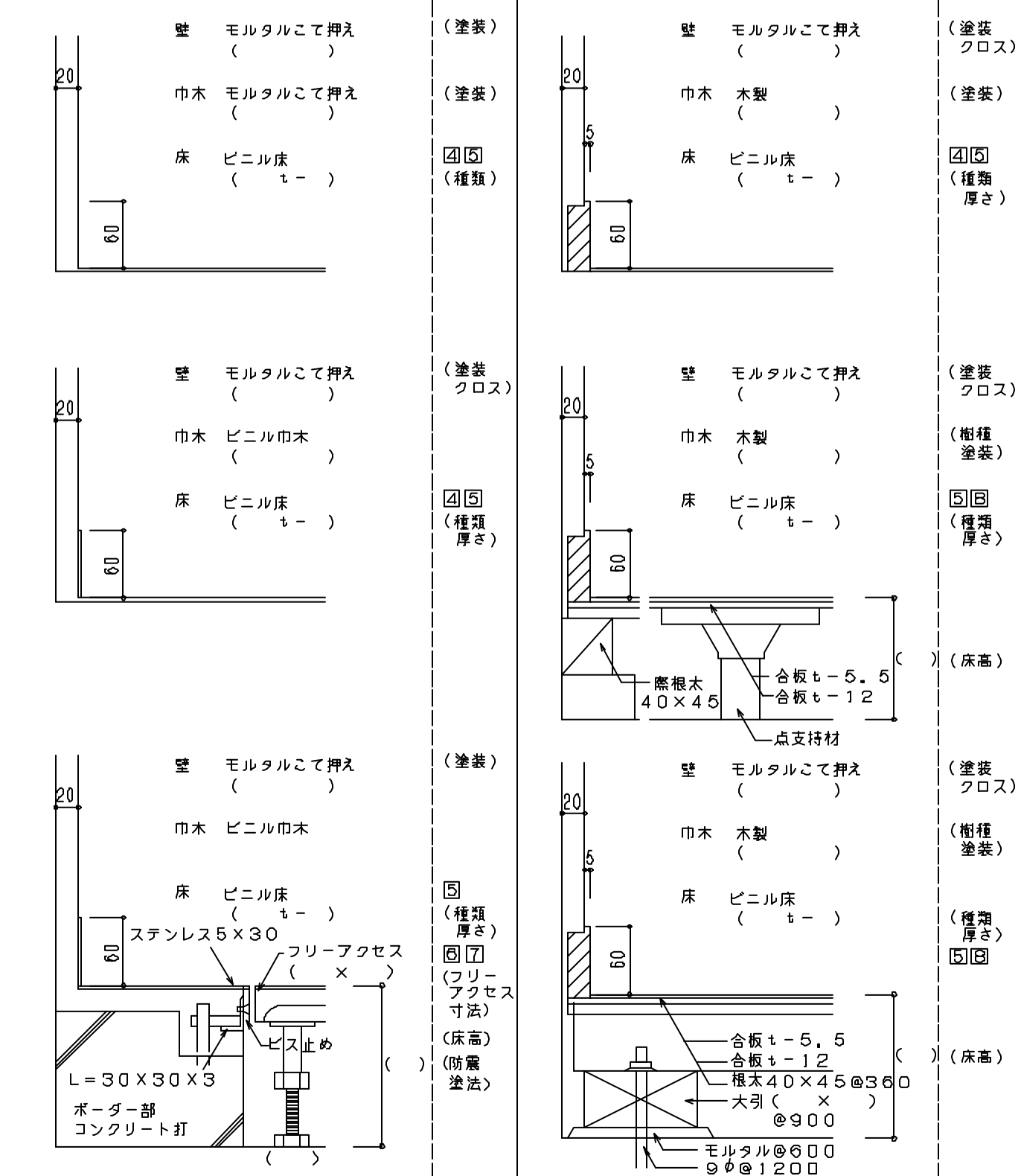
- ⑦ 押えコンクリートの厚さは水下で80mmを原則とするが、埋設配管を考慮すること。又大面積の場合は伸縮目地を50㎡内外ごとに設ける。
- ⑧ 厨房、浴室の防水立上り寸法は使用条件を考慮して決める。（100を最小とし300をこえる場合は端部を金物押えとする）

床	タイル
壁	モルタルこて押え



- ① 防水立上りの切欠きは、構造上主要な部分（柱、耐震壁等）については増打とする。
- ② 厨房、浴室の防水立上り寸法は使用条件を考慮して決める。＜100を最小とし300を越える場合は端部を金物押えとする。＞
- ③ 押えコンクリートの厚さは水下で60mmを原則とするが、埋設配管を考慮すること。又大面積の場合は伸縮目地を50㎡内外ごとに設ける。
- ④ コンクリート直押えの場合は、スラブを10mm増打する。モルタルこて押えとする場合は塗厚を明記する。

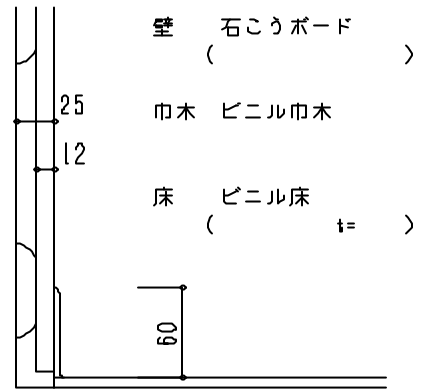
ビニル床（ビニル床タイル・ビニル床シート）	
床	モルタルこて押え



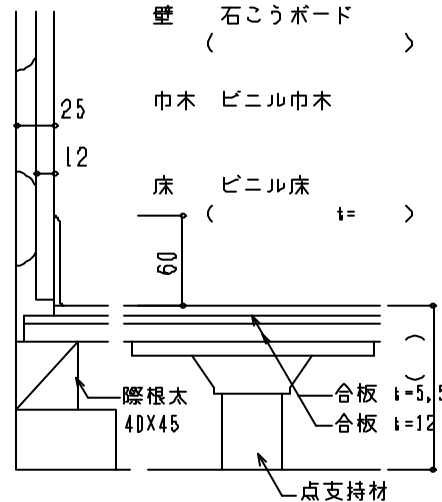
- ⑤ ビニル床タイル（ノンアスベストタイル、塩ビタイル等）及びビニル床シートの種類、厚さを明記する。（特にビニル床シート類は種類も多く単価も大きいので、メーカー・品名等も〇〇程度と明記する）なお土間コンクリートの場合は、湿気による床材剥離防止のため「エポキシ系接着剤使用」と明記する。
- ⑥ フリーアクセスフロアの仕様・寸法・許容可重及び静電防止タイル・免震・防振仕様の要否について明記する。
- ⑦ 周辺固定床の見切縁の位置は、フリーアクセスの温度による伸びを考慮して決定する。
- ⑧ 下地の合板は、小規模で目地の恐れのない場合は上張合板（ $t=5.5$ ）をやめることができる。



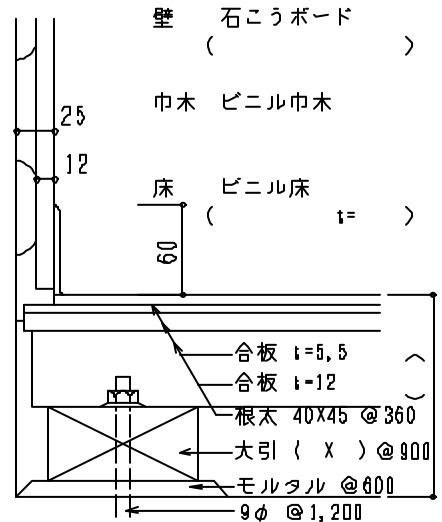
床	ビニル床 (ビニル床タイル・ビニル床シート)	
壁	石こうボード (直張り工法)	石こうボード (LGS下地)



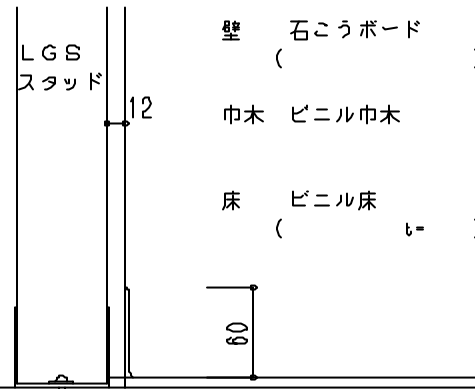
③ (塗装 フロス)  
(種類 厚さ) ①②④



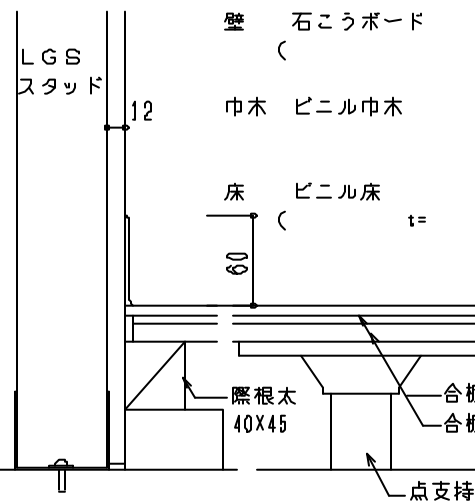
③ (塗装 フロス)  
(種類 厚さ) ②  
⑥ (床高)



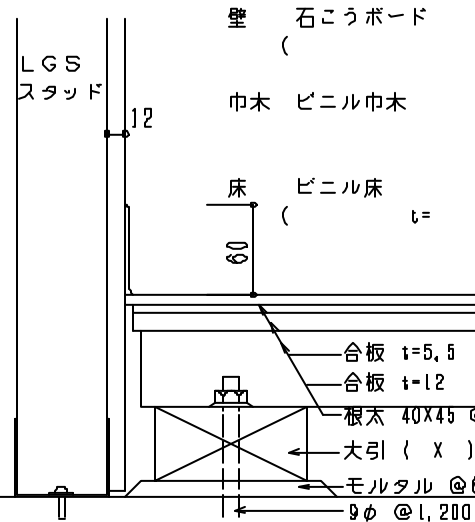
③ (塗装 フロス)  
(種類 厚さ) ②  
⑥ (床高) ⑤



③ (塗装 フロス)  
(種類 厚さ) ①②④

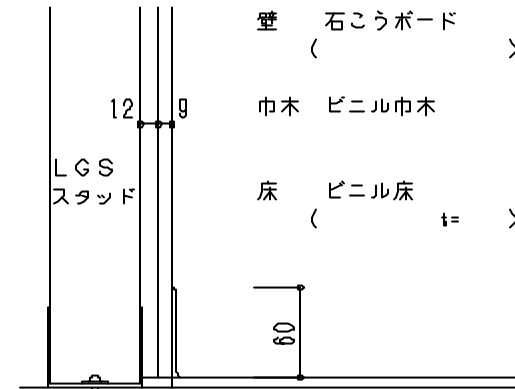


③ (塗装 フロス)  
(種類 厚さ) ②  
⑥ (床高) ④

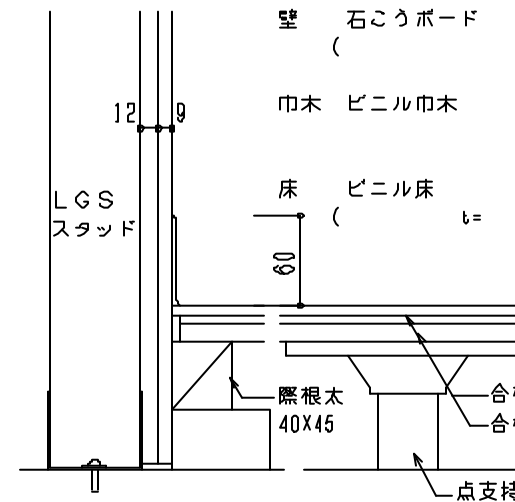


③ (塗装 フロス)  
(種類 厚さ) ②  
⑥ (床高) ⑤ ④

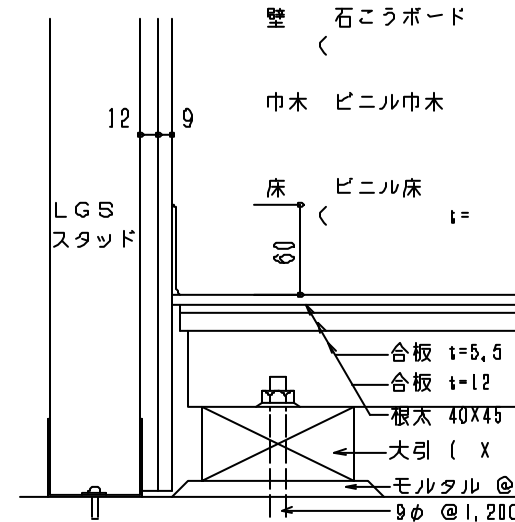
石こうボード (LGS下地二重張り)



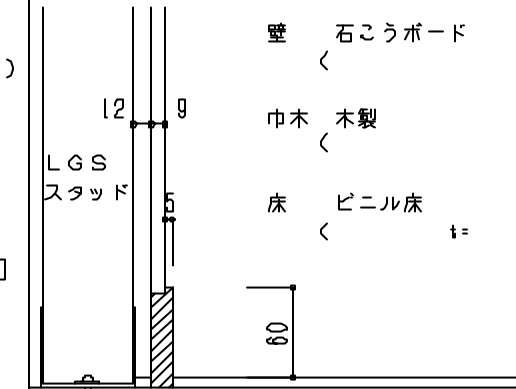
③⑦ (塗装 フロス)  
(種類 厚さ) ①②④



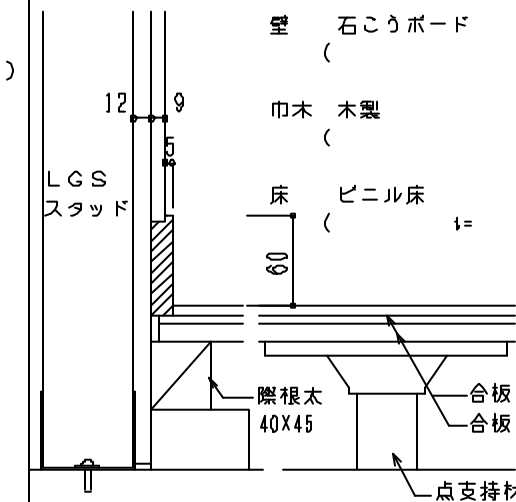
③⑦ (塗装 フロス)  
(種類 厚さ) ②  
⑥ (床高) ④



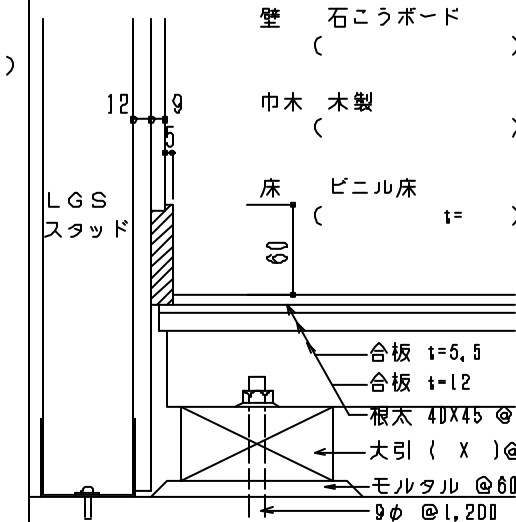
③⑦ (塗装 フロス)  
(種類 厚さ) ②  
⑥ (床高) ⑤ ④



③⑦ (塗装 フロス)  
(樹種 塗装)  
(種類 厚さ) ①②④



③⑦ (塗装 フロス)  
(樹種 塗装)  
(種類 厚さ) ②  
⑥ (床高) ④



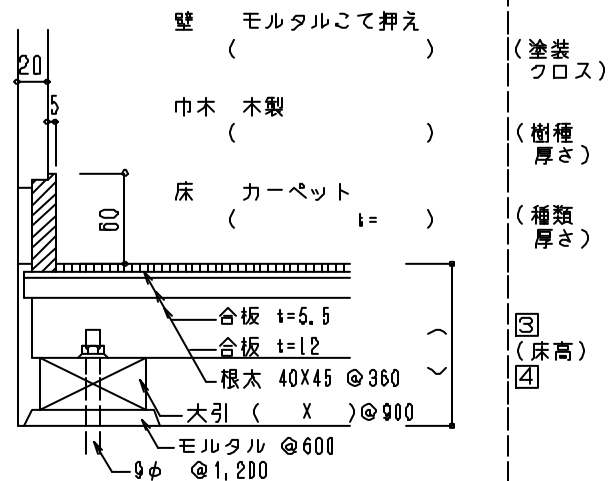
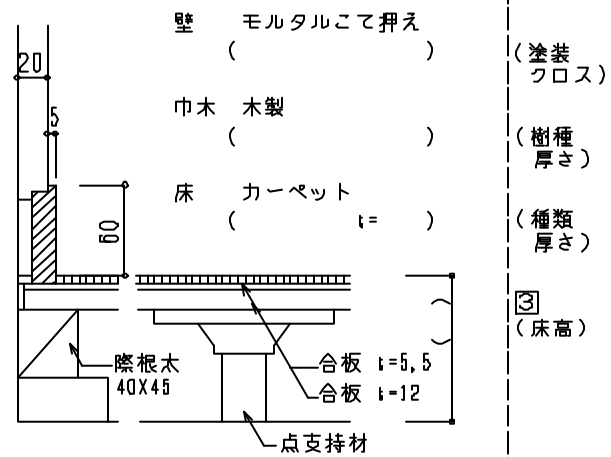
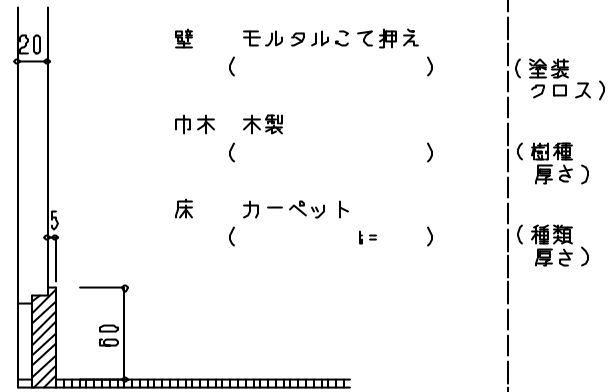
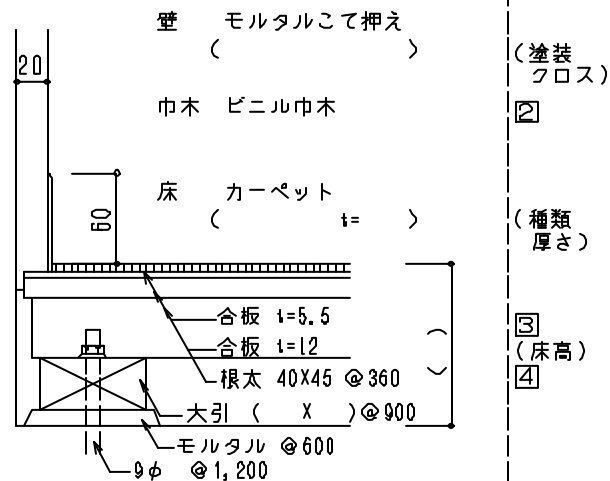
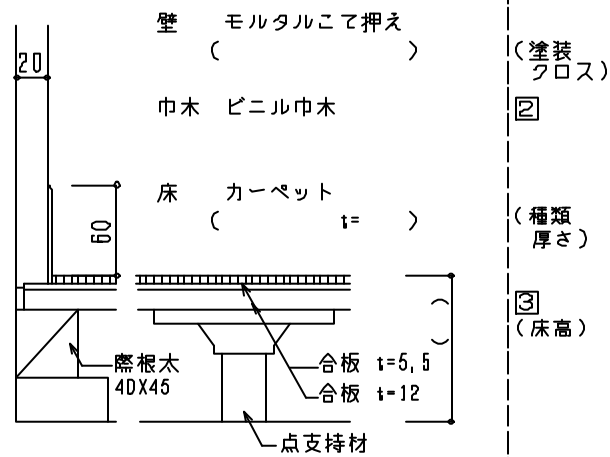
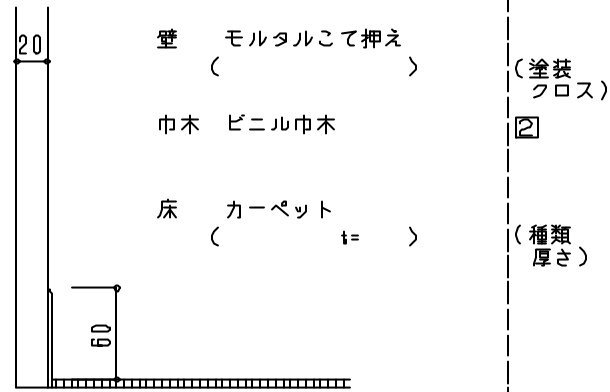
③⑦ (塗装 フロス)  
(樹種 塗装)  
(種類 厚さ) ②  
⑥ (床高) ⑤ ④

- ① コンクリート直押えの場合は、スラブを10mm増打する。モルタルこて押えの場合は塗厚を明記する。
- ② ビニル床タイル (ビニルアスベストタイル・塩ビタイル等) 及びビニル床シートの種類、厚さを明記する。(特にビニル床シート類は種類も多く単価の幅も大きいので、メーカー・品名等も〇〇程度と明記する) なお土間コンクリートの場合は湿気による床材剥離防止のため「エポキシ系接着剤」と明記する。
- ③ 内装制限で不燃の場合は、石こうボードを不燃石こうボードとする。

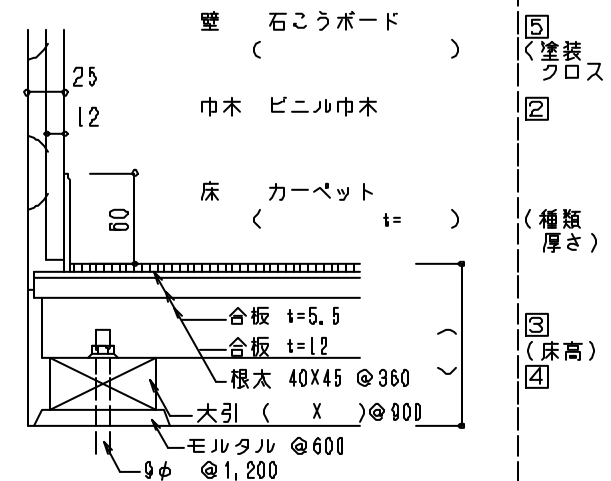
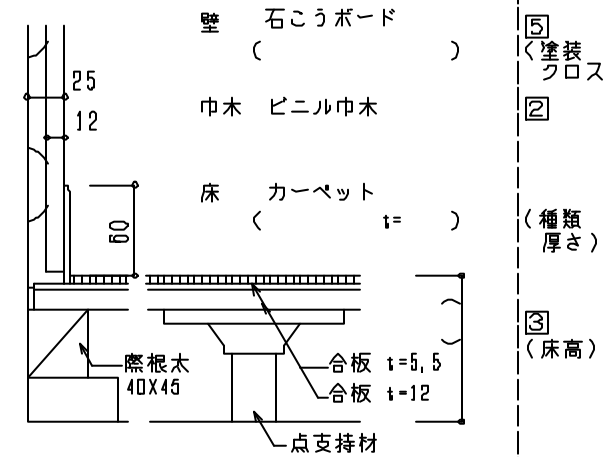
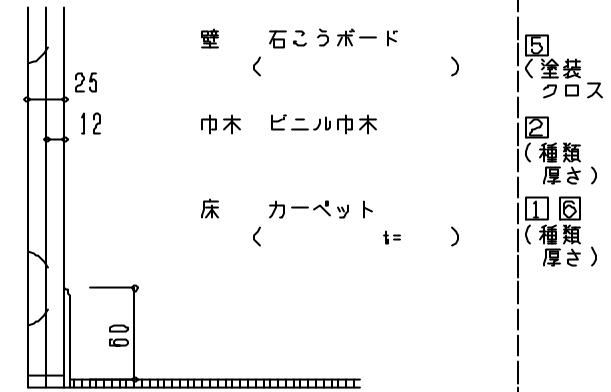
- ④ 石こうボードが床の湿気を吸う恐れのある場合は、石こうボード下端を10mm程度透かせる。
- ⑤ 大引は床高さにより大引寸法 (45X90・90X90等) を明記する。
- ⑥ 下地の合板は、小規模で目違いの恐れが少ない場合は上張合板 (t=5.5) をやめることができる。
- ⑦ 遮音を必要とする場合は、共用事項・壁下地の項 (共通1) 参照のこと。

床 カーペット (直張り)

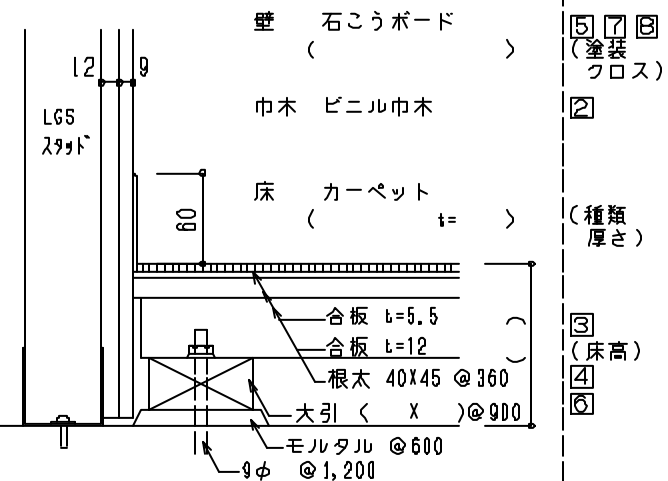
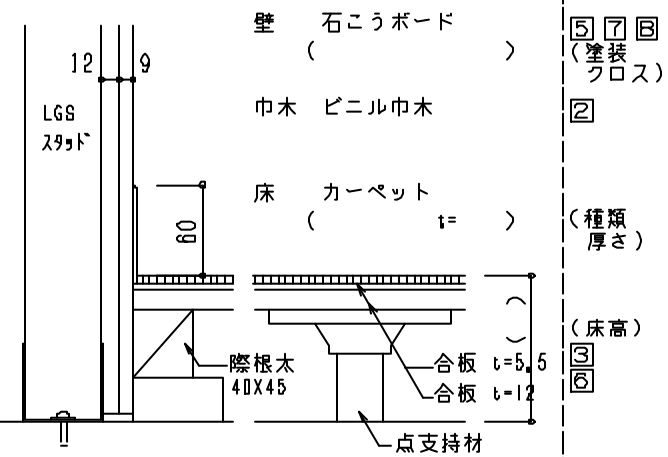
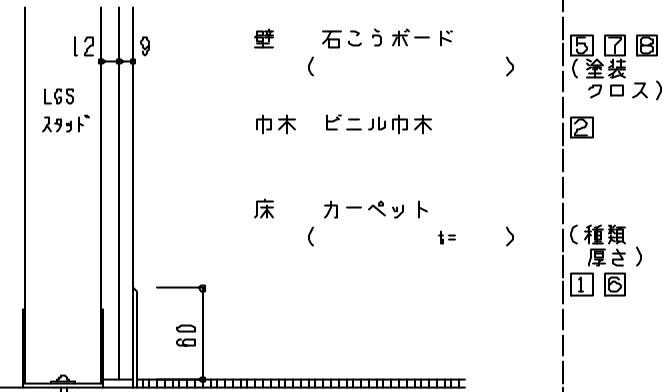
壁 モルタルこて押え



石こうボード (直張り工法)



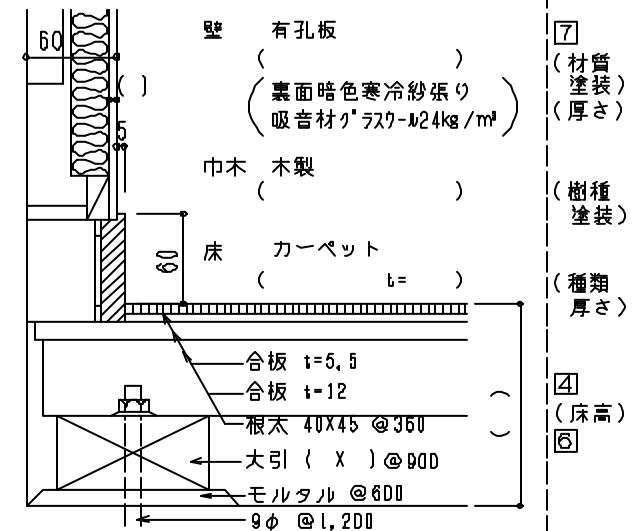
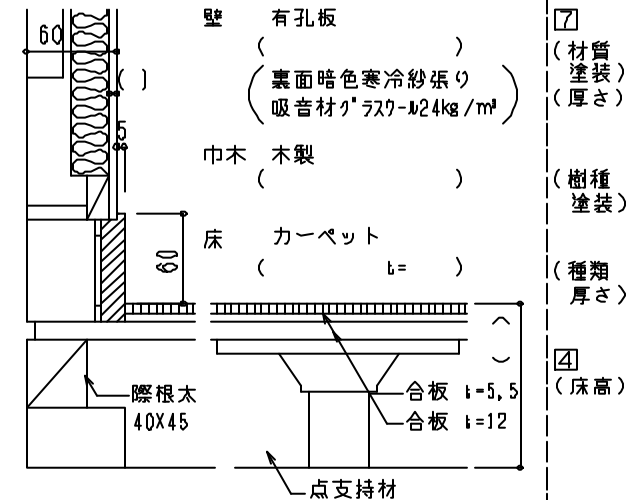
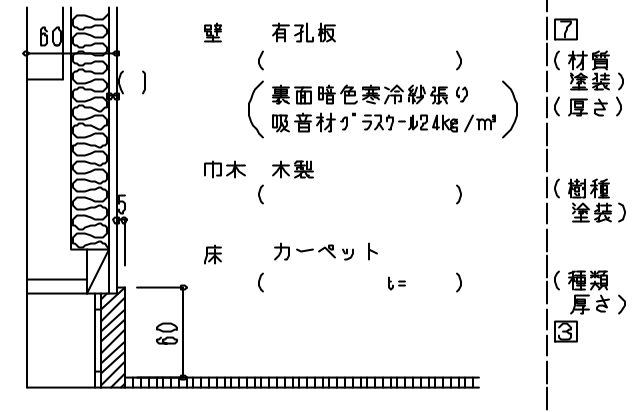
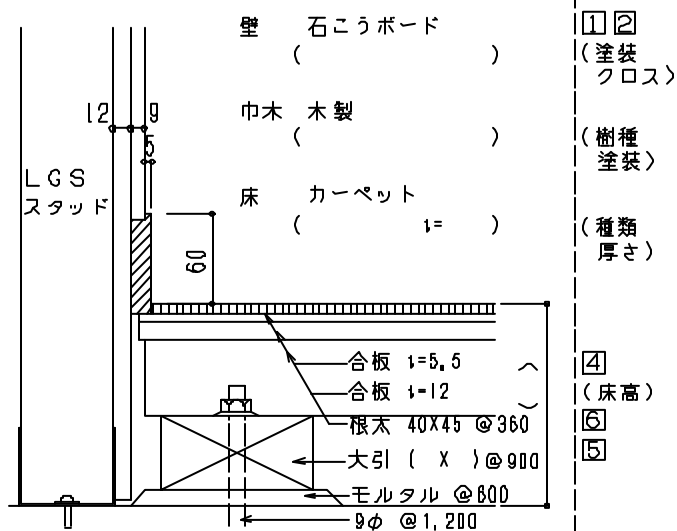
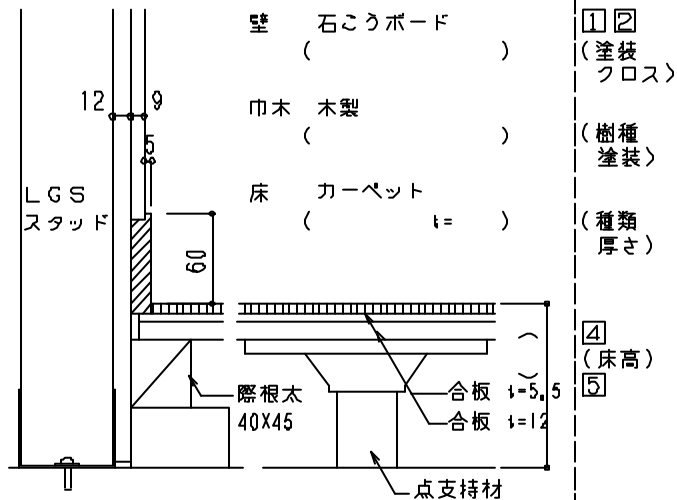
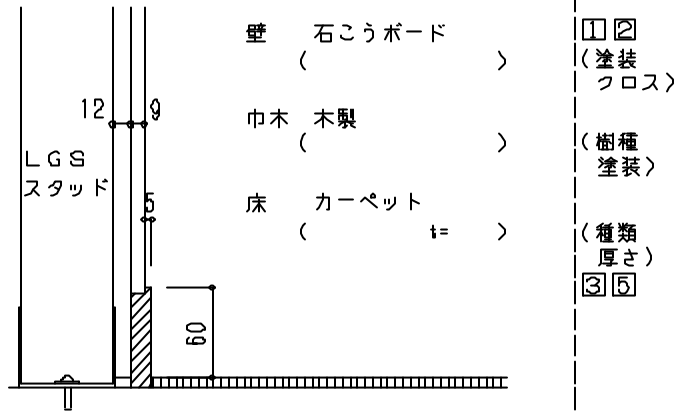
石こうボード (LGS下地二重張り)



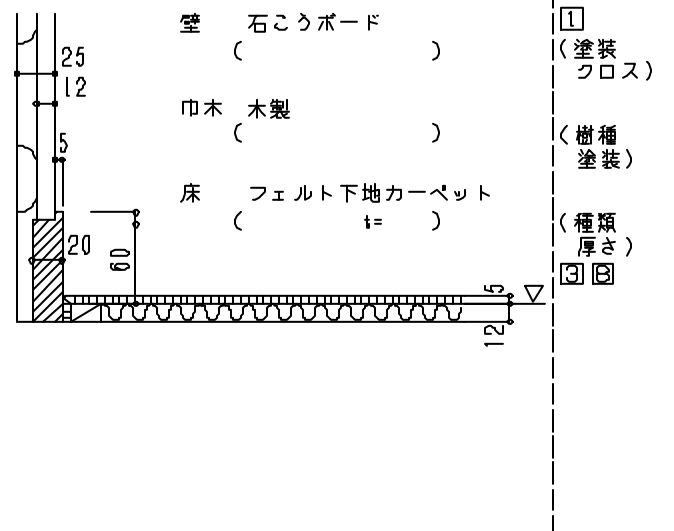
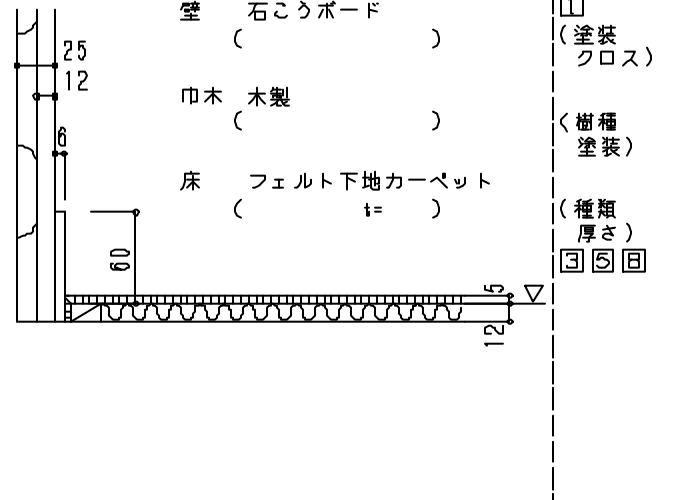
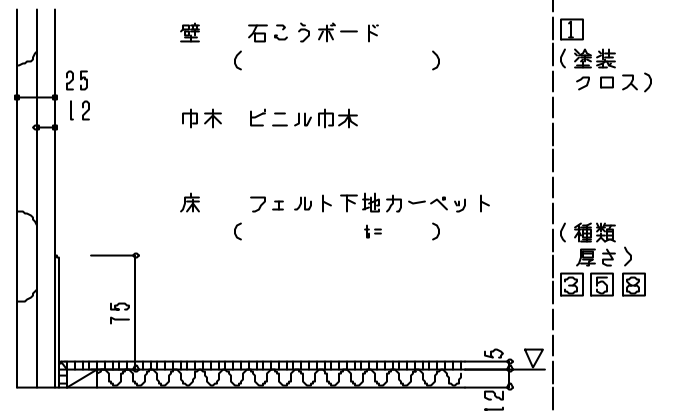
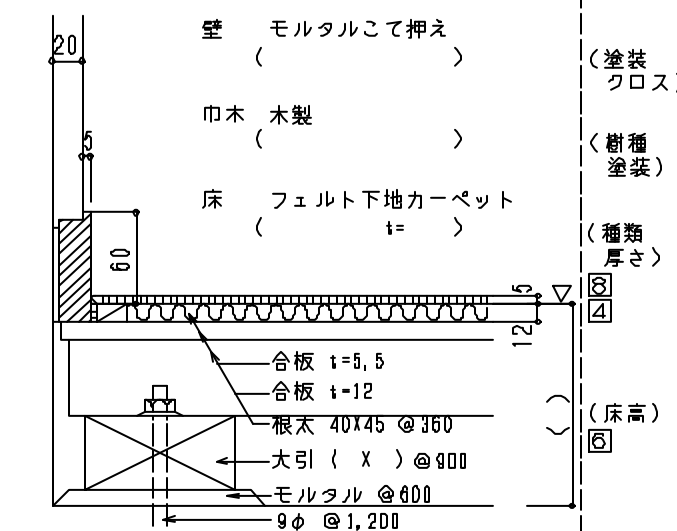
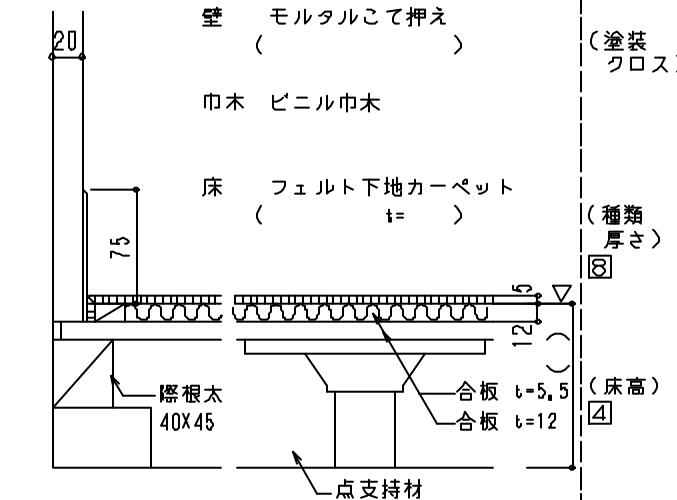
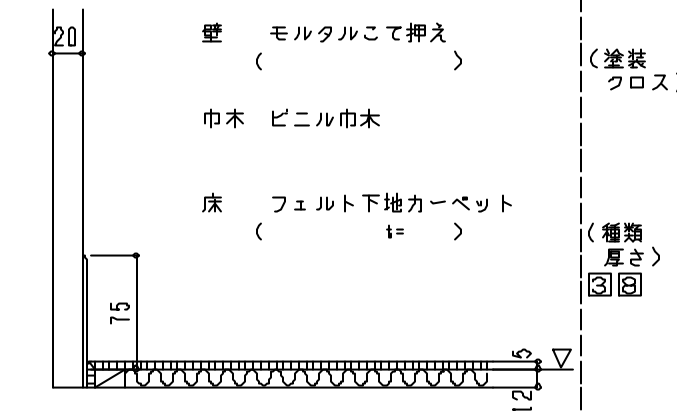
- ① コンクリート直押えの場合は、スラブを10mm増打する。モルタルこて押えの場合は塗厚を明記する。
- ② ビニル巾木はサイタリーののないものを使用する。
- ③ 下地の合板は、小規模で目違いの恐れが少ない場合は上張合板 (t=5.5) をやめることができる。
- ④ 大引は床高さにより大引寸法 (40X45・90X90等) を明記する。
- ⑤ 内装制限で不燃の場合は、石こうボードを不燃石こうボードとする。

- ⑥ 石こうボードが床の湿気を吸う恐れのある場合は、石こうボード下端を10mm程度透かせる。
- ⑦ 遮音を必要とする場合は、共通事項・壁下地の項(共通)参照のこと。
- ⑧ 石こうボードを一重張りとする場合は、上層の9mmボードを削除する。

床	カーペット (直張り)
壁	石こうボード (LGS下地二重張り) 有孔板



床	カーペット (フェルト下地)
壁	モルタルこて押し 石こうボード (直張り工法)



① 内装制限で不燃の場合は、石こうボードを不燃石こうボードとする。

② 遮音を必要とする場合は、共通事項・壁下地(共通1)参照のこと。

③ コンクリート直押えの場合は、スラブを10mm増打する。モルタルこて押えの場合は塗厚を明記する。

④ 下地の合板は、小規模で目違いの恐れが少ない場合は上張合板 (t=5.5) をやめることができる。

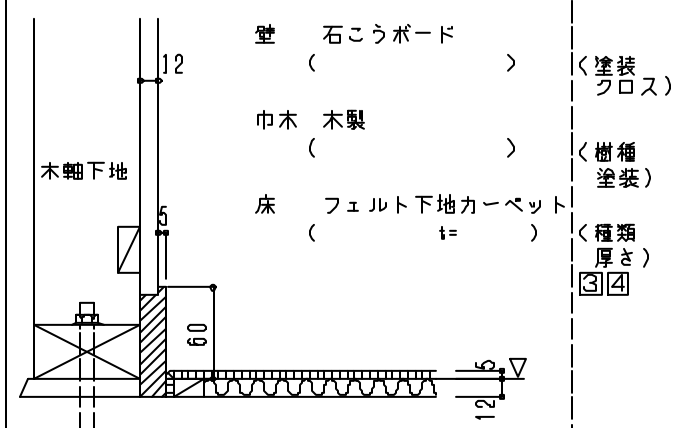
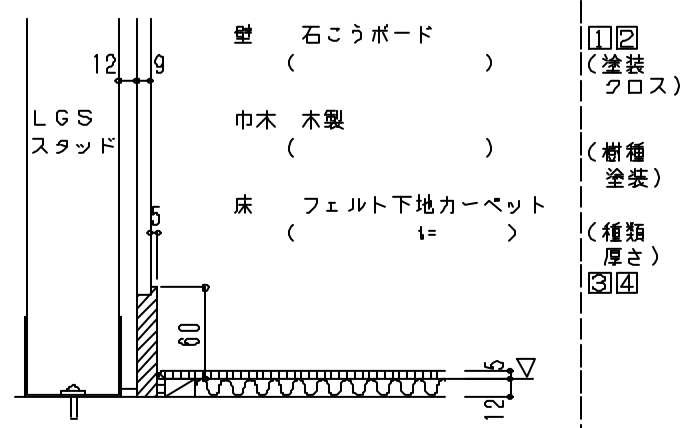
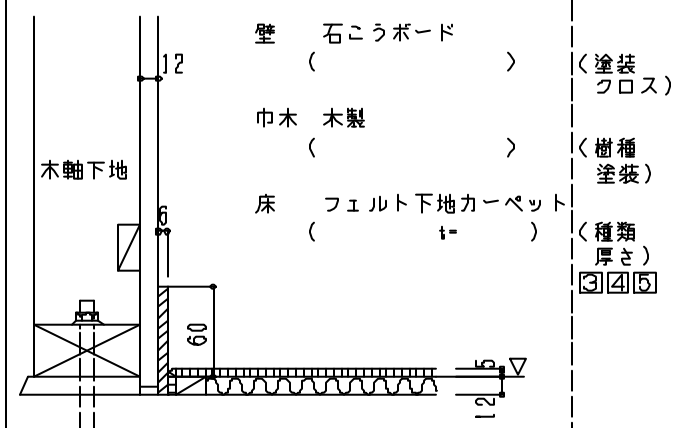
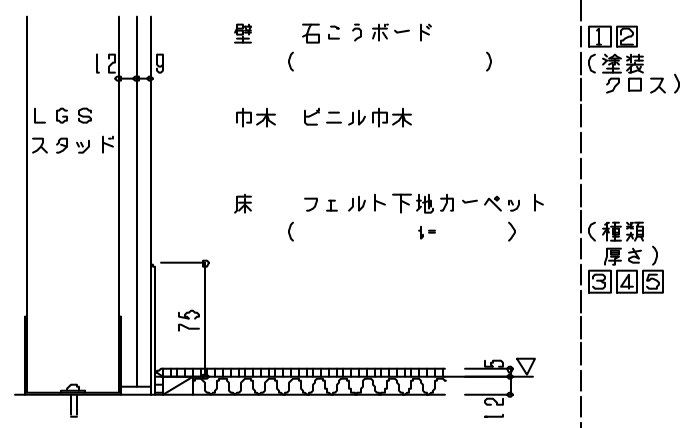
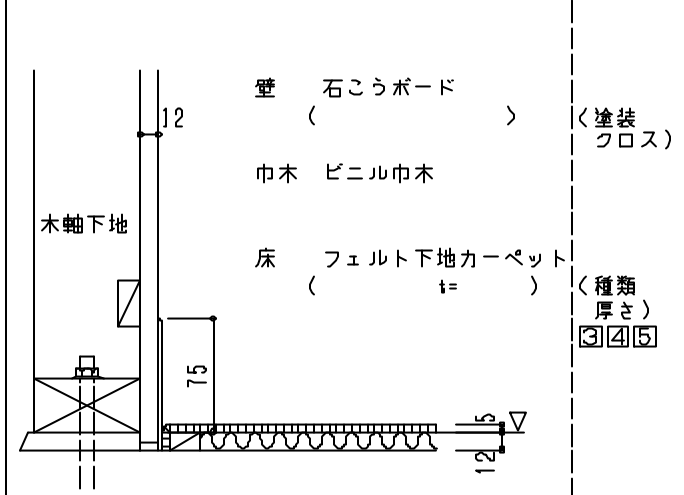
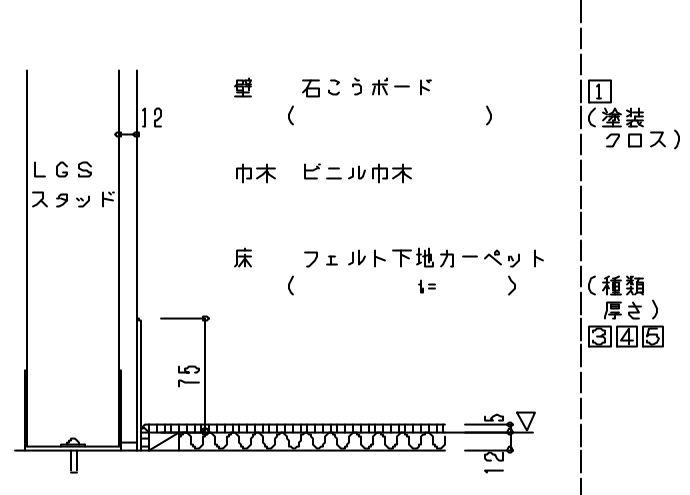
⑤ 石こうボードが床の湿気を吸う恐れのある場合は、石こうボード下端を10mm程度透かせる。

⑥ 大引は床高さにより大引寸法 (45X90・90X90等) を明記する。

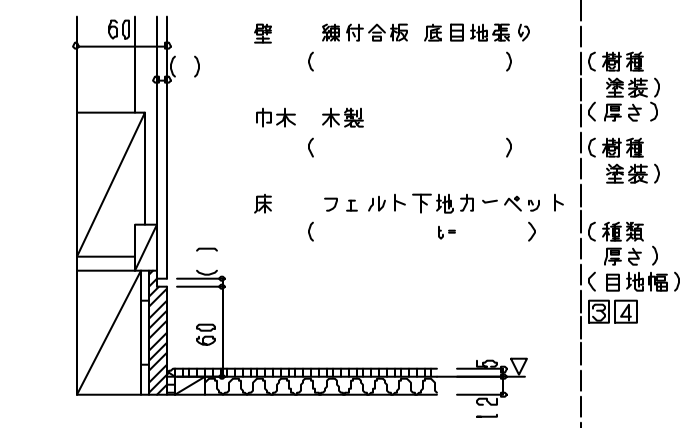
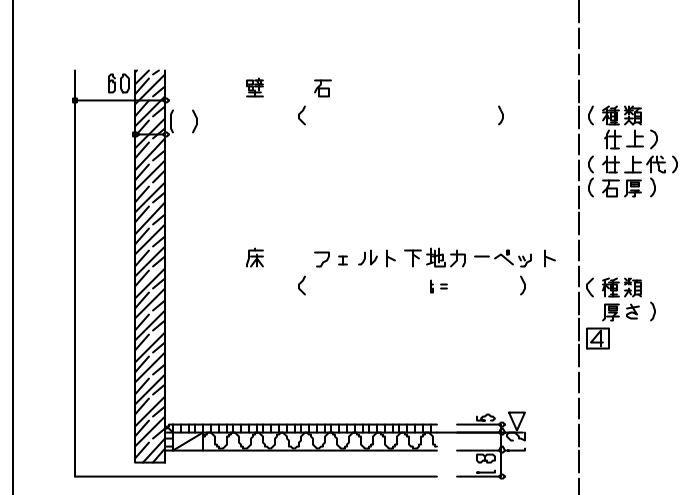
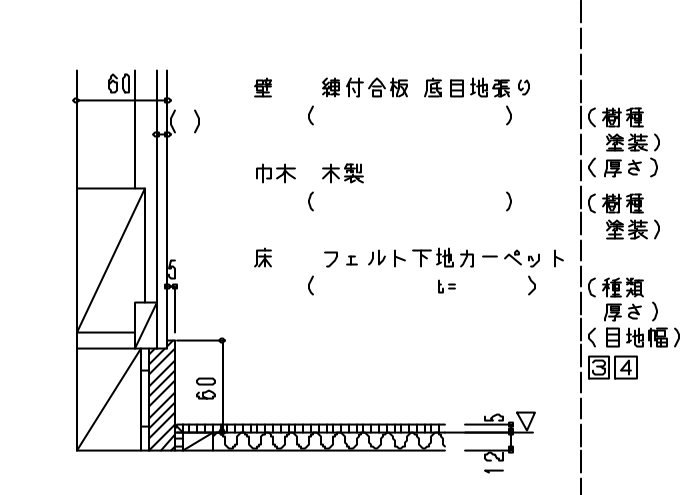
⑦ 有孔板には繊維混入セメント珪酸カルシウム板 t=8、合板 t=6がある。有孔板の孔の有孔率は8% (6φ@20程度) 以上とし、孔径、ピッチを明記する。内装制限のある場合は、下地、寒冷紗、表面材に注意する。

⑧ カーペットの仕上天端は、原則として床仕上面+5mmとする。カーペットの仕上代はフェルト10mm+カーペット7mm、合計17mmを標準とする。

床	カーペット (フェルト下地)	
壁	石こうボード (LGS下地)	石こうボード (木軸下地)



練付合板	石・テラゾブロック
------	-----------



① 内装制限で不燃の場合は、石こうボードを不燃石こうボードとする。  
 ② 遮音を必要とする場合は、共通事項・壁下地の項(共通)参照のこと。  
 ③ コンクリート直押えの場合は、スラブを10mm増打する。モルタルこて押えとする場合は塗厚を明記する。  
 ④ カーペットの仕上天端は、原則として床仕上面+5mmとする。カーペットの仕上代はフェルト10mm+カーペット7mm、合計17mmを標準とする。

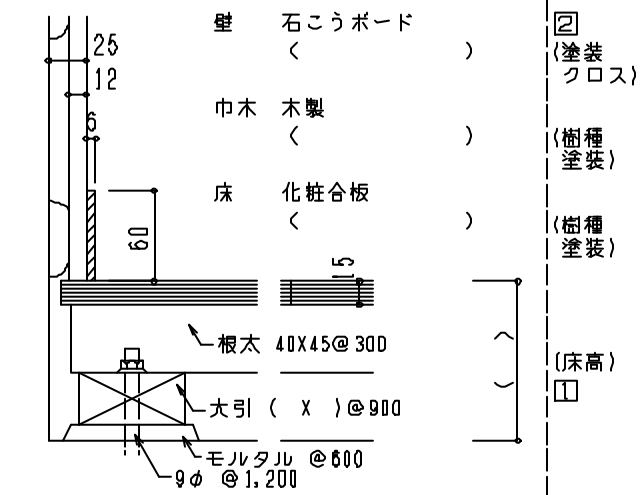
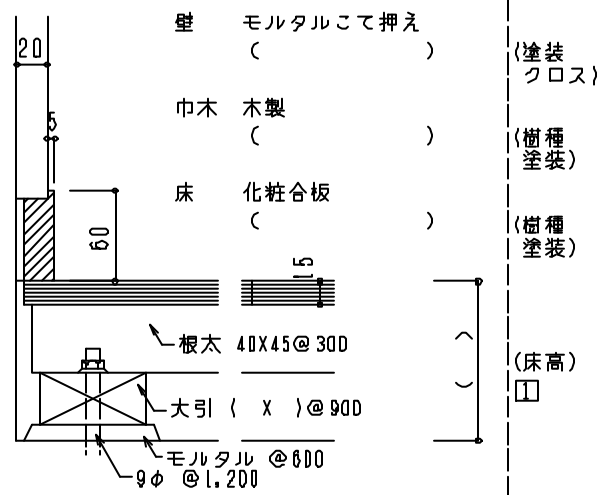
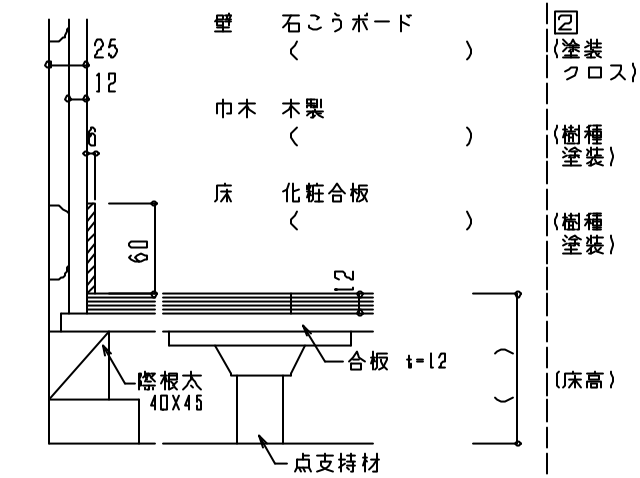
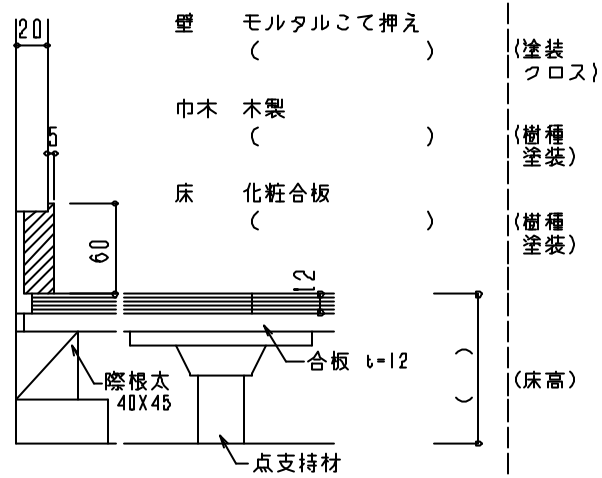
⑤ 石こうボードが床の湿気を吸う恐れのある場合は、石こうボード下端を10mm程度透かせる。

床	畳	石こうボード (直張り工法)	石こうボード (LGS下地二重張り)	石こうボード (木軸下地)
壁	モルタルこて押え	石こうボード (直張り工法)	石こうボード (LGS下地二重張り)	石こうボード (木軸下地)
	<p>壁 モルタルこて押え ( ) (塗装 フロス)</p> <p>畳寄せ木製 ( ) (樹種)</p> <p>床 畳 ( ) (仕様)</p> <p>防湿紙</p> <p>①②</p>	<p>壁 石こうボード ( ) (塗装 フロス)</p> <p>畳寄せ木製 ( ) (樹種)</p> <p>床 畳 ( ) (仕様)</p> <p>防湿紙</p> <p>①②⑤</p>	<p>壁 石こうボード ( ) (塗装 フロス)</p> <p>畳寄せ木製 ( ) (樹種)</p> <p>床 畳 ( ) (仕様)</p> <p>防湿紙</p> <p>LGS スラット</p> <p>④⑥⑦</p> <p>①②⑤</p>	<p>壁 石こうボード ( ) (塗装 フロス)</p> <p>畳寄せ木製 ( ) (樹種)</p> <p>床 畳 ( ) (仕様)</p> <p>防湿紙</p> <p>木軸下地</p> <p>①②</p>
	<p>壁 モルタルこて押え ( ) (塗装 フロス)</p> <p>畳寄せ木製 ( ) (樹種)</p> <p>床 畳 ( ) (仕様)</p> <p>防湿紙</p> <p>ハ・テイクボード t=20</p> <p>弾性パッキン 点支持材</p> <p>(床高)</p>	<p>壁 石こうボード ( ) (塗装 フロス)</p> <p>畳寄せ木製 ( ) (樹種)</p> <p>床 畳 ( ) (仕様)</p> <p>防湿紙</p> <p>ハ・テイクボード t=20</p> <p>弾性パッキン 点支持材</p> <p>(床高)</p>	<p>壁 石こうボード ( ) (塗装 フロス)</p> <p>畳寄せ木製 ( ) (樹種)</p> <p>床 畳 ( ) (仕様)</p> <p>防湿紙</p> <p>LGS スラット</p> <p>ハ・テイクボード t=20</p> <p>弾性パッキン 点支持材</p> <p>(床高)</p> <p>⑤</p>	<p>壁 石こうボード ( ) (塗装 フロス)</p> <p>畳寄せ木製 ( ) (樹種)</p> <p>床 畳 ( ) (仕様)</p> <p>防湿紙</p> <p>木軸下地</p> <p>ハ・テイクボード t=20</p> <p>弾性パッキン 点支持材</p> <p>(床高)</p> <p>⑤</p>
	<p>壁 モルタルこて押え ( ) (塗装 フロス)</p> <p>畳寄せ木製 ( ) (樹種)</p> <p>床 畳 ( ) (仕様)</p> <p>防湿紙</p> <p>合板 t=12</p> <p>根太 40X45@450</p> <p>大引 (X) @900</p> <p>Ekgll @600</p> <p>9φ@1,200</p> <p>(床高)</p> <p>③</p>	<p>壁 石こうボード ( ) (塗装 フロス)</p> <p>畳寄せ木製 ( ) (樹種)</p> <p>床 畳 ( ) (仕様)</p> <p>防湿紙</p> <p>合板 t=12</p> <p>根太 40X45@450</p> <p>大引 (X) @900</p> <p>Ekgll @600</p> <p>9φ@1,200</p> <p>(床高)</p> <p>③</p>	<p>壁 石こうボード ( ) (塗装 フロス)</p> <p>畳寄せ木製 ( ) (樹種)</p> <p>床 畳 ( ) (仕様)</p> <p>防湿紙</p> <p>LGS スラット</p> <p>合板 t=12</p> <p>根太 40X45@450</p> <p>大引 (X) @900</p> <p>Ekgll @600</p> <p>9φ@1,200</p> <p>(床高)</p> <p>③</p> <p>⑤</p>	<p>壁 石こうボード ( ) (塗装 フロス)</p> <p>畳寄せ木製 ( ) (樹種)</p> <p>床 畳 ( ) (仕様)</p> <p>防湿紙</p> <p>木軸下地</p> <p>合板 t=12</p> <p>根太 40X45@450</p> <p>大引 (X) @900</p> <p>Ekgll @600</p> <p>9φ@1,200</p> <p>(床高)</p> <p>③</p>

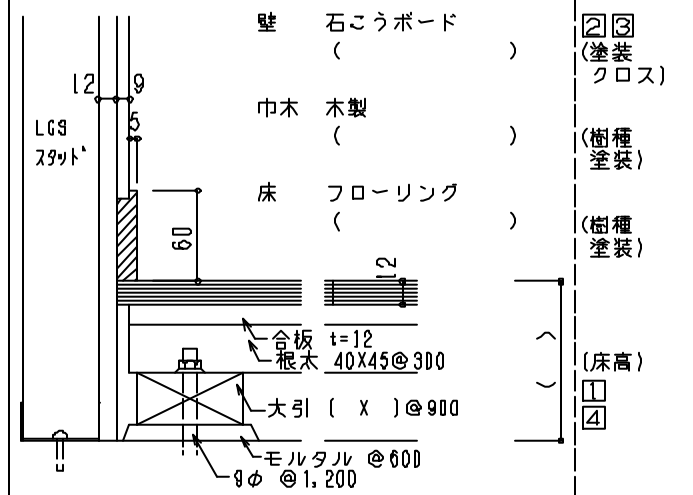
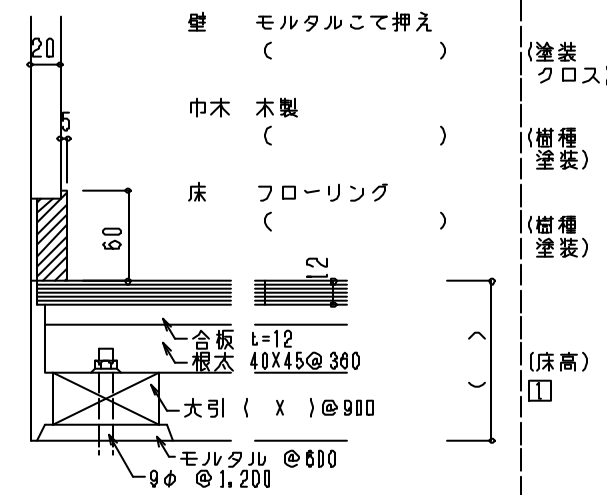
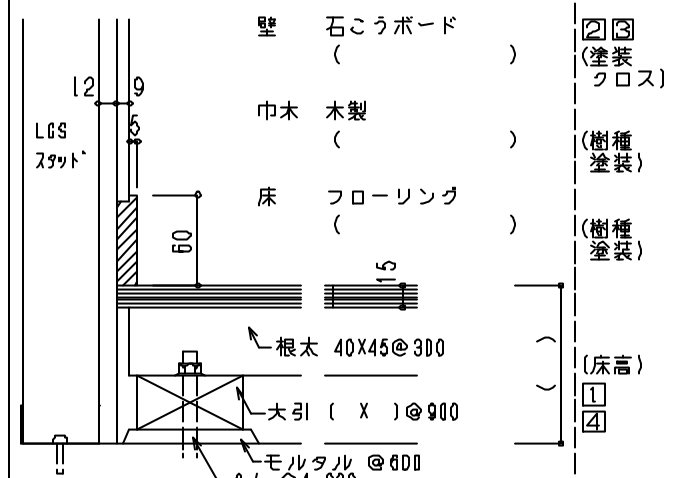
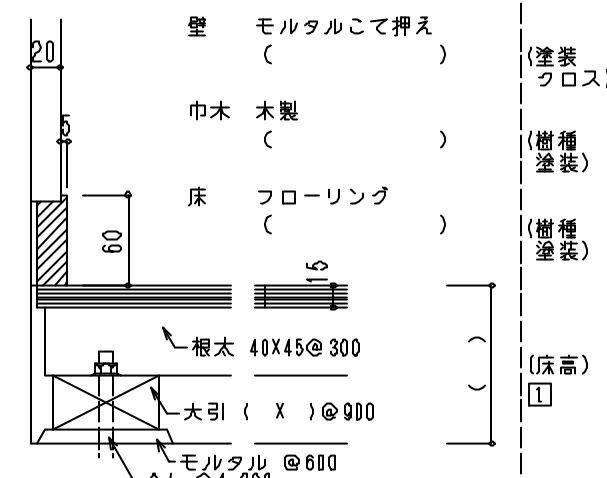
① コンクリート直押えの場合は、スラブを10mm増打する。モルタルこて押えをする場合は塗厚を明記する。  
 ② 防湿紙はアスファルト15kg品程度とする。  
 ③ 大引は床高さにより大引寸法(45X90・90X90等)を明記する。  
 ④ 内装制限で不燃の場合は、石こうボードを不燃石こうボードとする。  
 ⑤ 石こうボードが床の湿気を吸う恐れのある場合は、石こうボード下端を10mm程度透かす。

⑥ 遮音を必要とする場合は、共通事項・壁下地の項(共通1)参照のこと。  
 ⑦ 石こうボードを一重張りとする場合は、上層の9mmボードを削除する。

床	化粧合板	
壁	モルタルこて押え	石こうボード(直張り工法)



	フローリング	
壁	モルタルこて押え	石こうボード(LGS下地二重張り)



- ① 大引は床高さにより大引寸法(45X90・90X90等)を明記する。
- ② 内装制限で不燃の場合は、石こうボードを不燃石こうボードとする。
- ③ 遮音を必要とする場合は、共通事項・壁下地の項(共通)参照のこと。
- ④ 石こうボードが床の湿気を吸う恐れのある場合は、石こうボード下端を10mm程度透かせる。

床	縁甲板	石こうボード (直張り工法)	石こうボード (LGS下地二重張り)	石こうボード (木軸下地)
壁	モルタルこて押え	石こうボード (直張り工法)	石こうボード (LGS下地二重張り)	石こうボード (木軸下地)
	<p>壁 モルタルこて押え (塗装 フロス)</p> <p>雑布掛 木製 (樹種 塗装)</p> <p>床 縁甲板 (樹種 塗装)</p> <p>(床高) ①</p>	<p>壁 石こうボード (塗装 フロス)</p> <p>雑布掛 木製 (樹種 塗装)</p> <p>床 縁甲板 (樹種 塗装)</p> <p>(床高) ①</p>	<p>壁 石こうボード (塗装 フロス)</p> <p>雑布掛 木製 (樹種 塗装)</p> <p>床 縁甲板 (樹種 塗装)</p> <p>(床高) ① ④</p>	<p>壁 石こうボード (塗装 フロス)</p> <p>雑布掛 木製 (樹種 塗装)</p> <p>床 縁甲板 (樹種 塗装)</p> <p>(床高) ①</p>
	<p>壁 モルタルこて押え (塗装 フロス)</p> <p>巾木 木製 (樹種 塗装)</p> <p>床 縁甲板 (樹種 塗装)</p> <p>(床高) ①</p>	<p>壁 石こうボード (塗装 フロス)</p> <p>雑布掛 木製 (樹種 塗装)</p> <p>床 縁甲板 (樹種 塗装)</p> <p>(床高) ①</p>	<p>壁 石こうボード (塗装 フロス)</p> <p>巾木 木製 (樹種 塗装)</p> <p>床 フローリング (樹種 塗装)</p> <p>(床高) ① ④</p>	<p>壁 石こうボード (塗装 フロス)</p> <p>巾木 木製 (樹種 塗装)</p> <p>床 縁甲板 (樹種 塗装)</p> <p>(床高) ①</p>

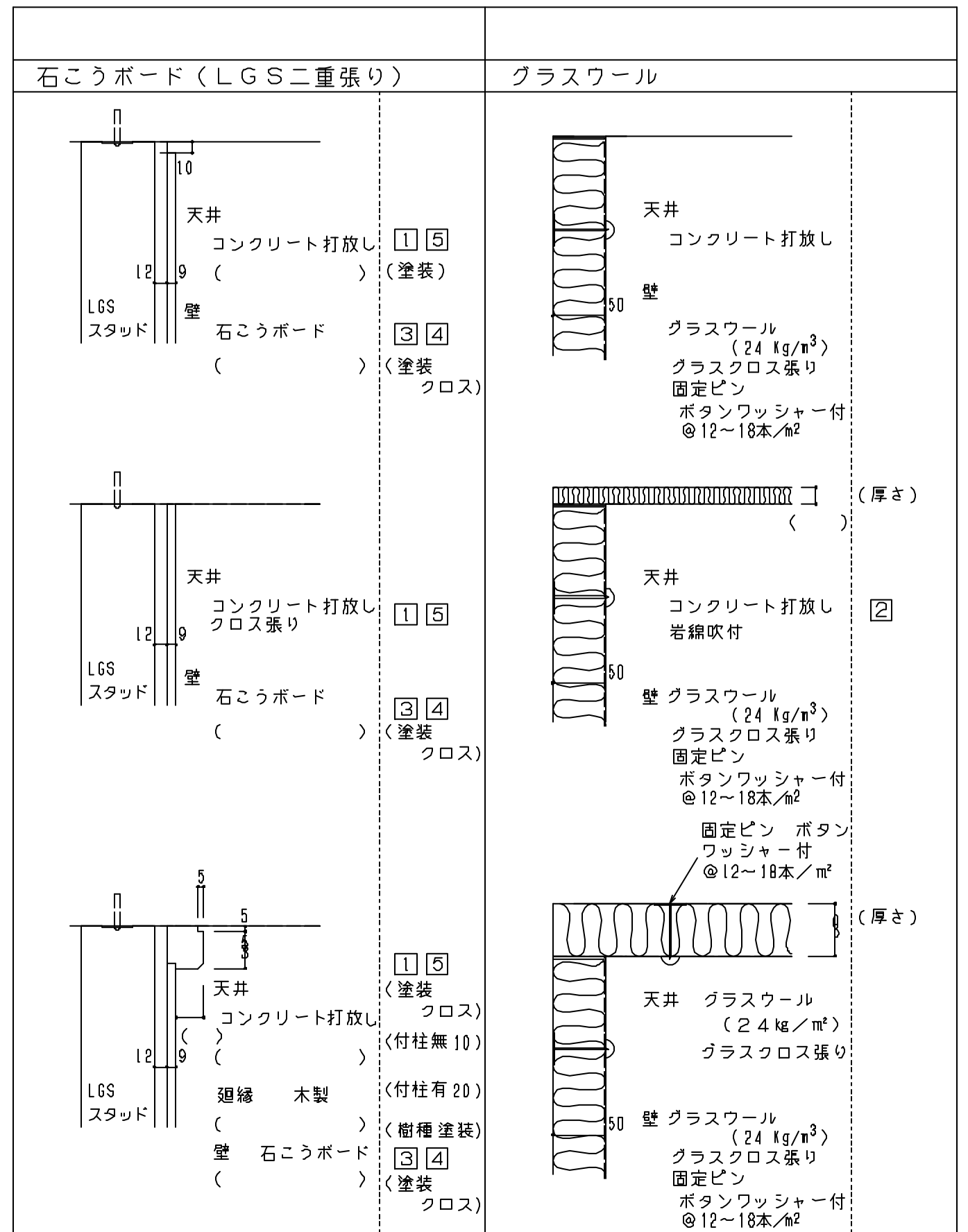
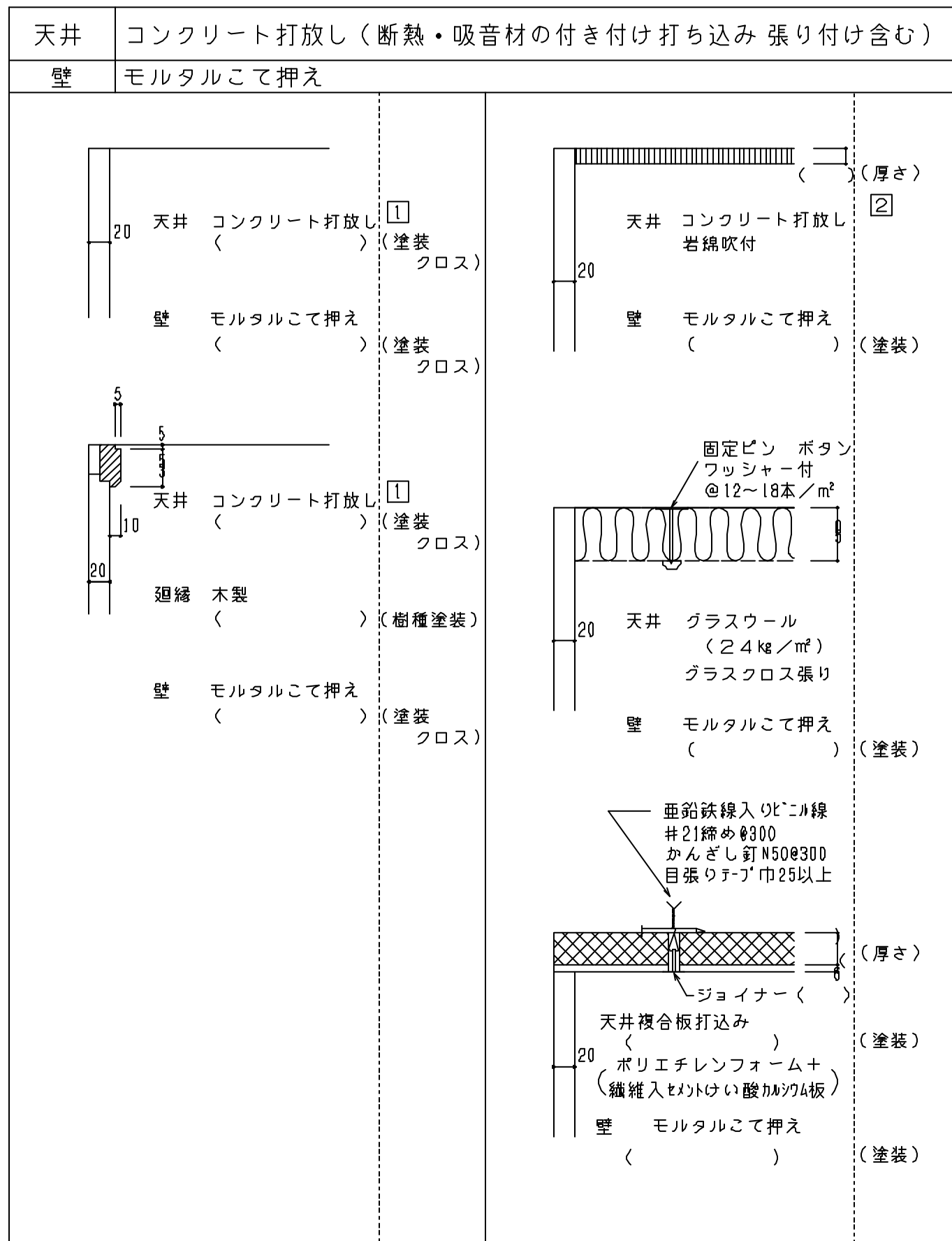
① 大引は床高きにより大引寸法(45×90・90×90等)を明記する。  
 ② 内装制限で不燃の場合は、石こうボードを不燃石こうボードとする。  
 ③ 遮音を必要とする場合は、共通事項・壁下地の項(共通1)参照のこと。  
 ④ 石こうボードが床の湿気を吸う恐れのある場合は、石こうボード下端を10mm程度透かせる。

床	パーケット	石・テラゾブロック
壁	モルタルこて押え	
壁	モルタルこて押え (塗装クロス)	壁 モルタルこて押え (塗装クロス)
巾木	木製 (樹種塗装)	巾木 ( ) (樹種塗装)
床	弾性モザイクパーケット (樹種塗装)	床 ( ) ① (種類 仕上) (目地幅) ② (石厚)
		壁 モルタルこて押え (塗装クロス)
		巾木 ( )
		床 ( ) ① (種類 仕上) (目地幅) ② (石厚)
		養生モルタル 塗膜防水 ( ) 均しモルタル
		アスファルトコーキング
		壁 モルタルこて押え (塗装クロス)
		巾木 ( ) (種類 仕上)
		床 ( ) ① (種類 仕上) (目地幅) ② (石厚) ③ (押えコンクリート厚) (仕様)
		押えコンクリート 養生モルタル メタルラス(平ラス2号) アスファルト防水 ( )

床	石・テラゾブロック	石・テラゾブロック
壁	タイル	石・テラゾブロック
壁	タイル (種類)	壁 石 (種類 仕上)
巾木		巾木 ( ) (仕上代) (石厚)
床	床 ( ) (種類 仕上) ① (目地幅) (石厚)	床 ( ) (種類 仕上) ① (目地幅) (石厚)
	壁 タイル (種類)	壁 石 (種類) (仕上代) (石厚)
	巾木 ( )	巾木 ( ) (種類 仕上)
	床 ( ) ① (種類 仕上) (目地幅) ② (石厚)	床 ( ) ① (種類 仕上) (目地幅) ② (石厚)
	養生モルタル 塗膜防水 ( ) 均しモルタル	養生モルタル 塗膜防水 ( ) 均しモルタル
	アスファルトコーキング	アスファルトコーキング
	壁 タイル (種類)	壁 石 (種類 仕上) (仕上代) (石厚)
	巾木 ( ) (種類 仕上)	巾木 ( ) (種類 仕上)
	床 ( ) ① (種類 仕上) (目地幅) ② (石厚) ③ (押えコンクリート厚) (仕様)	床 ( ) ① (種類 仕上) (目地幅) ② (石厚) ③ (押えコンクリート厚) (仕様)
	押えコンクリート 養生モルタル メタルラス(平ラス2号) アスファルト防水 ( )	押えコンクリート 養生モルタル メタルラス(平ラス2号) アスファルト防水 ( )

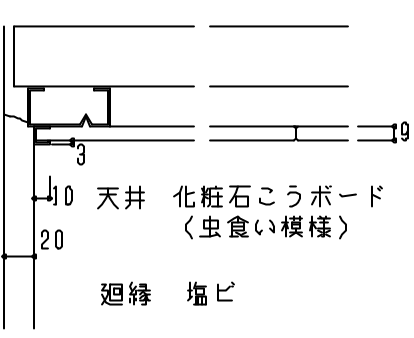
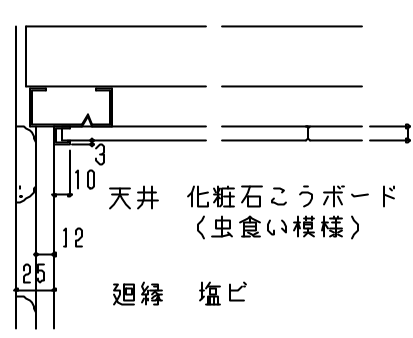
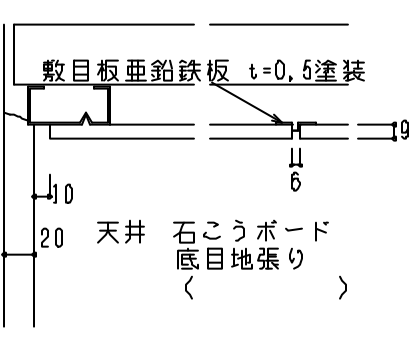
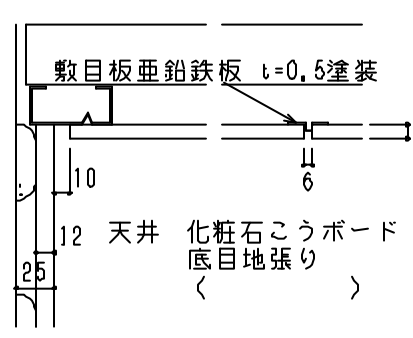
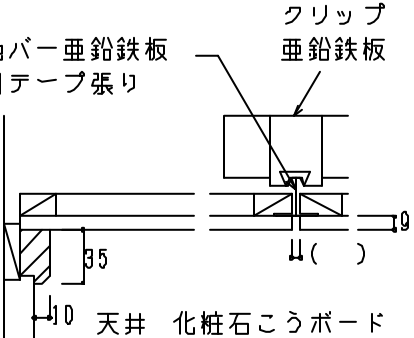
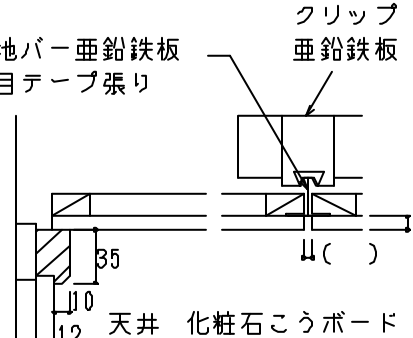
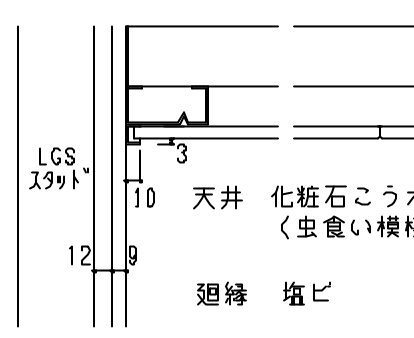
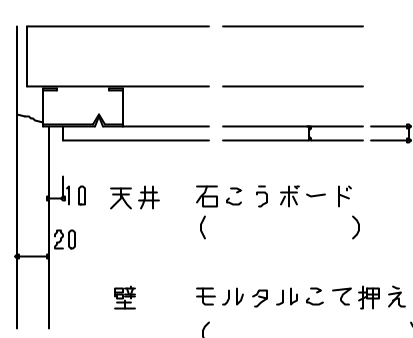
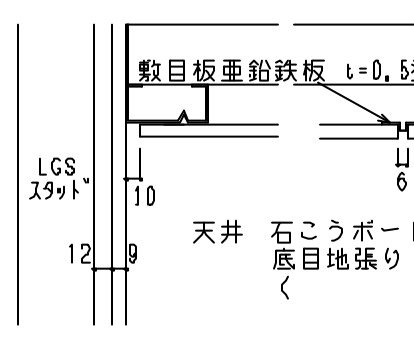
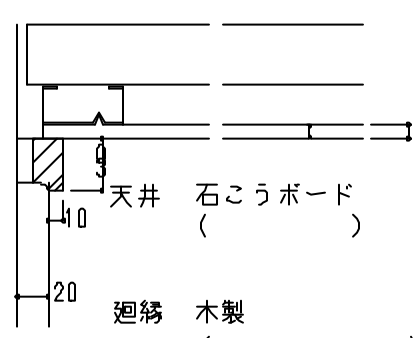
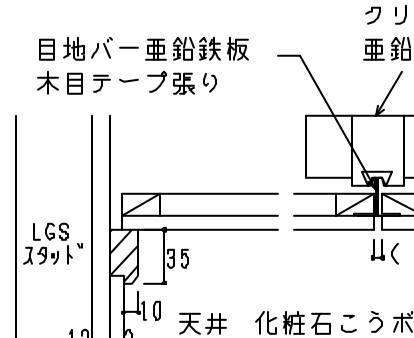
- ① 床用石材の仕上は、ボーダーなど小幅のものを除き本磨きとしてはならない。  
 ② 防水立上りの切欠きは、構造上必要な部分(柱、耐震壁等)については増打とする。  
 ③ 押えコンクリートの厚さは水下で60mmを原則とするが、埋設配管を考慮すること。  
 又大面積の場合は伸縮目地を50㎡内外ごとに設ける。





- ① コンクリート打放しに塗装又はクロス仕上を行う場合は下地調整を行う。
- ② 岩綿の吹付厚さは20mm以下とし、こて押えの要・不要、及び飛散防止削吹付の要・不要を明記する。
- ③ 内装制限で不燃の場合は、表面仕上の石こうボードを不燃石こうボードとする。
- ④ 遮音を必要とする場合は、共通事項・壁下地の項(共通)参照のこと。

- ⑤ 石こうボードを一重張りとする場合は、上層の9mmボードを削除する。

天井	化粧石こうボード・石こうボード（目地付き）	
壁	モルタルこて押え	石こうボード（直張り工法）
	 <p>天井 化粧石こうボード （虫食い模様）</p> <p>廻縁 塩ビ</p> <p>壁 モルタルこて押え （ ）</p> <p>③</p>	 <p>天井 化粧石こうボード （虫食い模様）</p> <p>廻縁 塩ビ</p> <p>壁 石こうボード （ ）</p> <p>③</p> <p>①</p>
	 <p>敷目板垂鉛鉄板 t=0.5塗装</p> <p>天井 石こうボード 底目地張り （ ）</p> <p>壁 モルタルこて押え （ ）</p> <p>①</p>	 <p>敷目板垂鉛鉄板 t=0.5塗装</p> <p>天井 化粧石こうボード 底目地張り （ ）</p> <p>壁 石こうボード （ ）</p> <p>①</p>
	 <p>目地バー垂鉛鉄板 木目テープ張り</p> <p>クリップ 垂鉛鉄板</p> <p>天井 化粧石こうボード （和室用木目）</p> <p>廻縁 木製 （ ）</p> <p>壁 モルタルこて押え （ ）</p> <p>③</p> <p>（目地幅）</p> <p>（樹種）</p> <p>①</p>	 <p>目地バー垂鉛鉄板 木目テープ張り</p> <p>クリップ 垂鉛鉄板</p> <p>天井 化粧石こうボード （和室用木目）</p> <p>廻縁 木製 （ ）</p> <p>壁 石こうボード （ ）</p> <p>③</p> <p>（目地幅）</p> <p>（樹種）</p> <p>①</p>
	 <p>LGS スタッド</p> <p>天井 化粧石こうボード （虫食い模様）</p> <p>廻縁 塩ビ</p> <p>壁 石こうボード （ ）</p> <p>③</p> <p>①②④</p>	 <p>天井 石こうボード （ ）</p> <p>壁 モルタルこて押え （ ）</p> <p>①⑤</p> <p>（塗装）</p> <p>（塗装 クロス）</p>
	 <p>LGS スタッド</p> <p>敷目板垂鉛鉄板 t=0.5塗装</p> <p>天井 石こうボード 底目地張り （ ）</p> <p>壁 石こうボード （ ）</p> <p>③</p> <p>①</p> <p>①②④</p>	 <p>天井 石こうボード （ ）</p> <p>廻縁 木製 （ ）</p> <p>壁 モルタルこて押え （ ）</p> <p>①⑤</p> <p>（塗装）</p> <p>（樹種塗装）</p> <p>（塗装 クロス）</p>
	 <p>LGS スタッド</p> <p>目地バー垂鉛鉄板 木目テープ張り</p> <p>クリップ 垂鉛鉄板</p> <p>天井 化粧石こうボード （和室用木目）</p> <p>廻縁 木製 （ ）</p> <p>壁 石こうボード （ ）</p> <p>③</p> <p>（目地幅）</p> <p>（樹種）</p> <p>①④</p>	

① 内装制限で不燃の場合は、表面仕上の石こうボードを不燃石こうボードとする。又、厨房等湿気のある室には石こうボードは使用しない。

② 遮音を必要とする場合は、共通事項・壁下地の項（共通1）参照のこと。

③ 廻縁は「L」型「T」型を適宜選定して図を修正する。

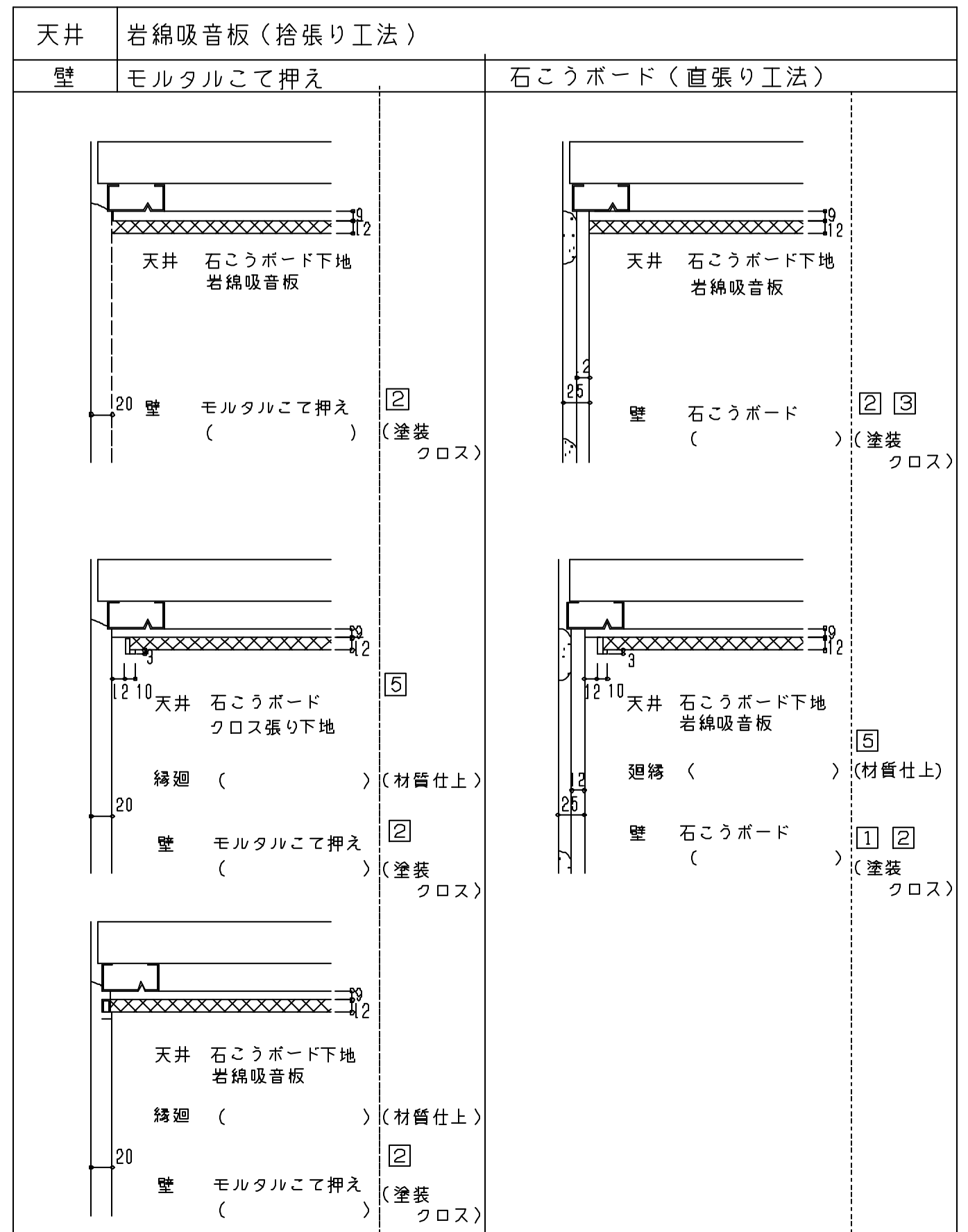
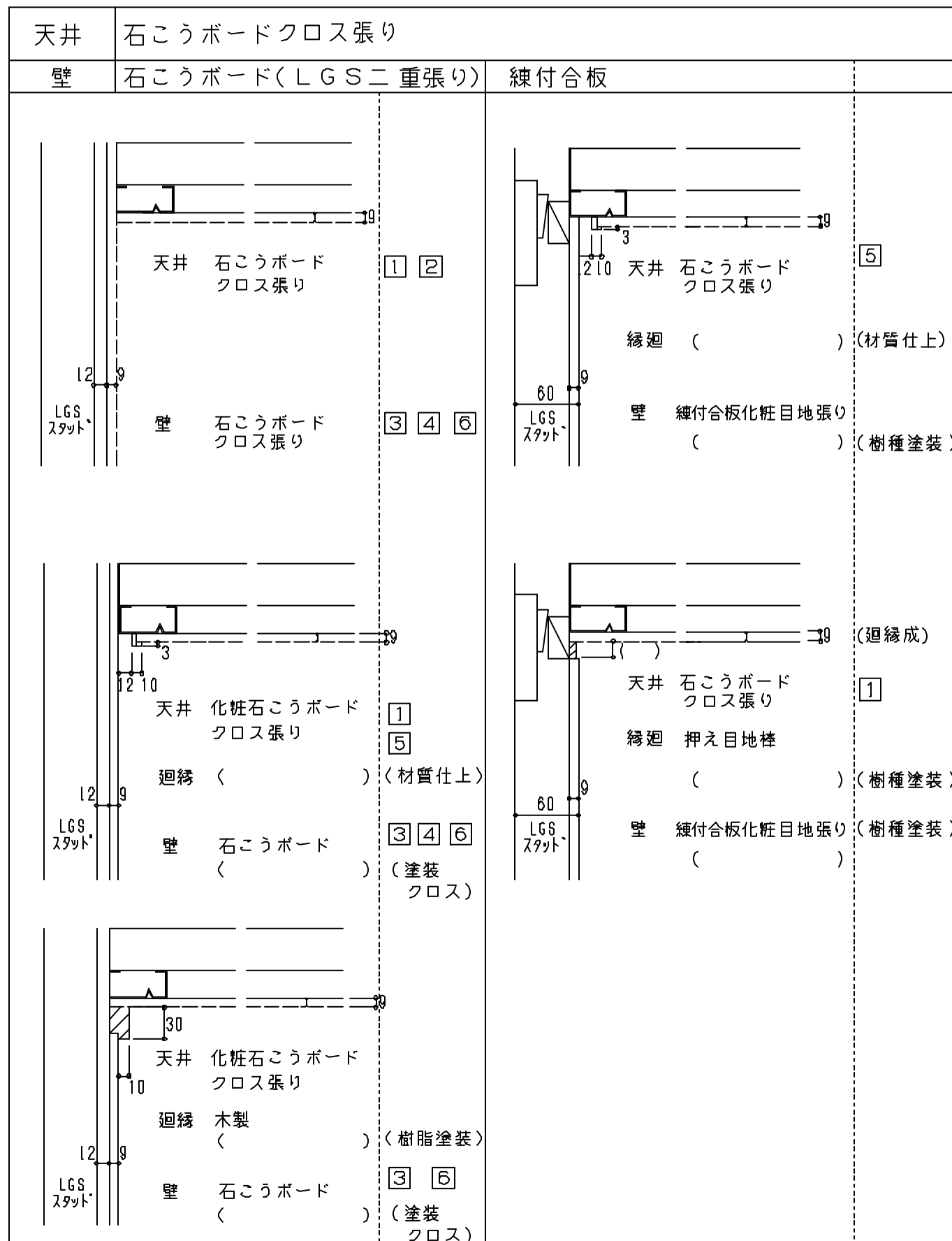
④ 石こうボードを一重張りとする場合は上層の石膏ボードを削除し、壁と天井の接点納りは直張り工法に準ずる。

⑤ 100㎡内外、又は15㎡内外にボードに目地を設ける。

天井	石こうボード（目地なし）	
壁	石こうボード（直張り工法）	石こうボード（LGS下地）
	天井 石こうボード ( ) (塗装) ① ②	天井 石こうボード ( ) (塗装) ① ②
	天井 化粧石こうボード ( ) (塗装) ① ②	天井 化粧石こうボード ( ) (塗装) ① ②
	天井 化粧石こうボード ( ) (塗装) ① ②	天井 化粧石こうボード ( ) (塗装) ① ②
	廻縁 木縁 ( ) (樹種塗装)	廻縁 木縁 ( ) (樹種塗装)
	壁 石こうボード ( ) (塗装 クロス) ①	壁 石こうボード ( ) (塗装 クロス) ①
	天井 化粧石こうボード ( ) (塗装) ① ②	天井 化粧石こうボード ( ) (塗装) ① ②
	廻縁 木製 ( ) (材質仕上)	廻縁 木縁 ( ) (樹種塗装)
	壁 石こうボード ( ) (塗装 クロス) ① ②	壁 石こうボード ( ) (塗装 クロス) ①

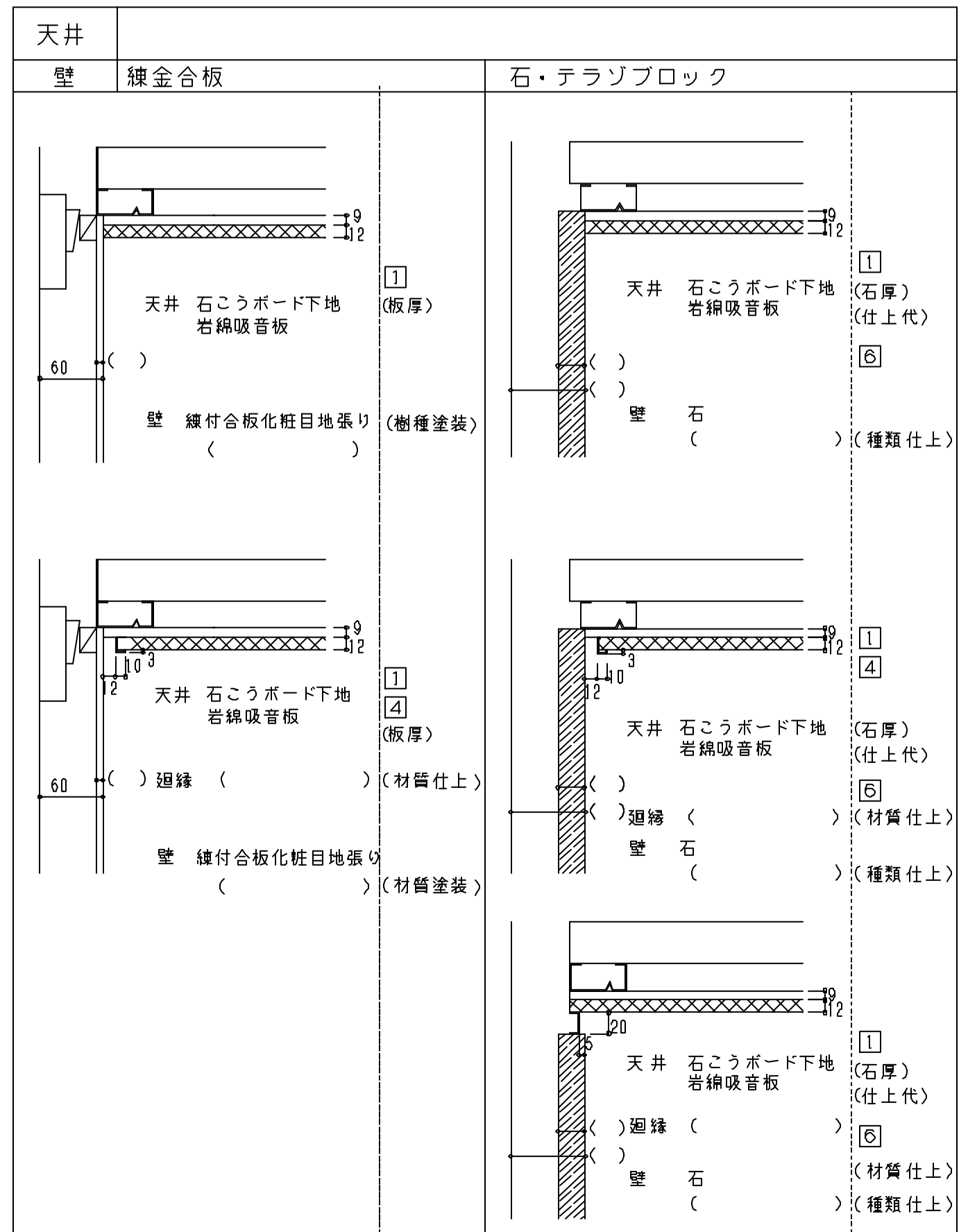
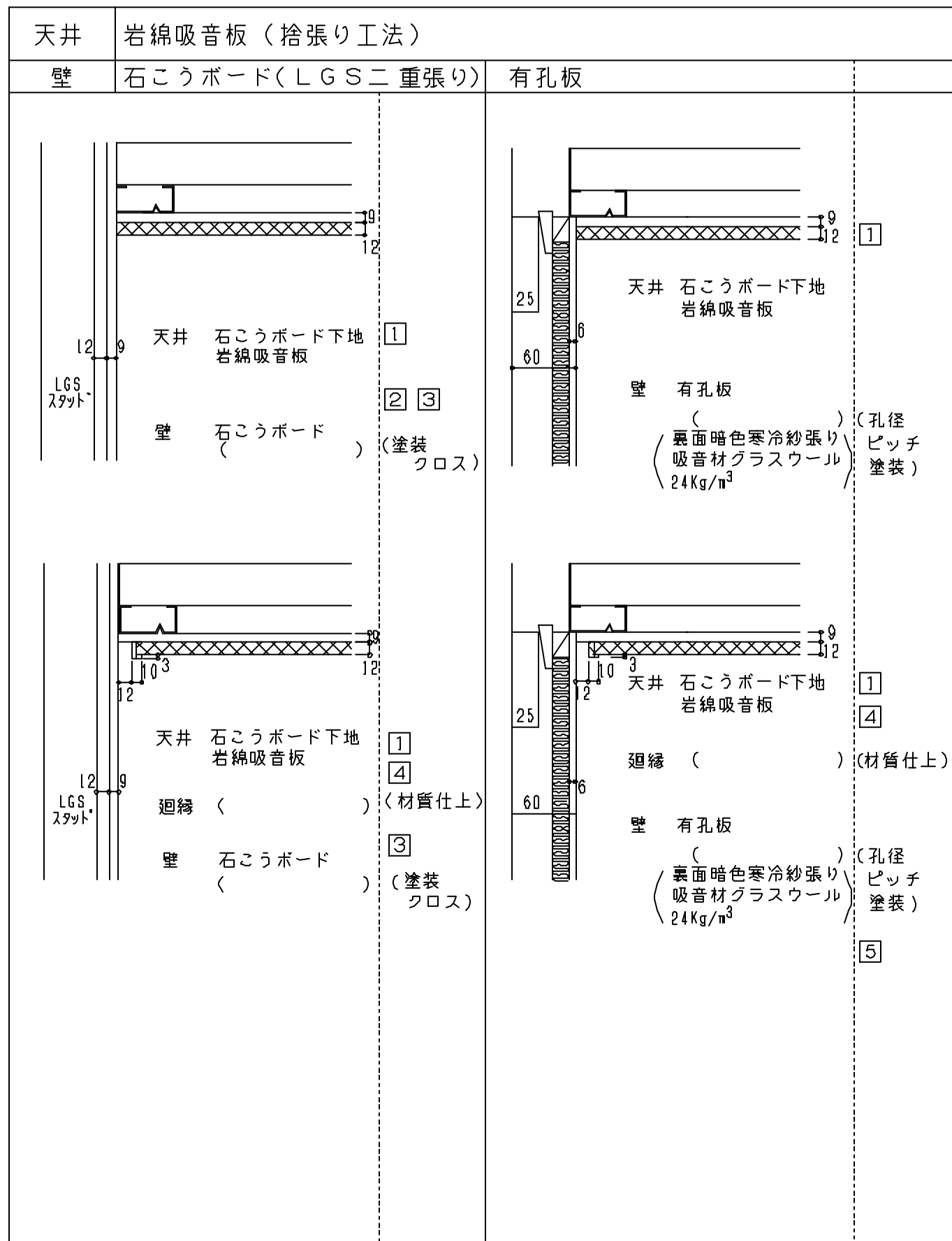
天井	石こうボードクロス張り	
壁	モルタルこて押え	石こうボード（直張り工法）
	天井 石こうボード クロス張り ( ) (塗装 クロス) ① ② ③	天井 石こうボード ( ) (塗装 クロス) ① ② ③
	天井 石こうボード クロス張り ( ) (材質仕上)	天井 石こうボード クロス張り ( ) (材質仕上)
	廻縁 ( ) (材質仕上)	廻縁 ( ) (材質仕上)
	壁 モルタルこて押え ( ) (塗装 クロス)	壁 石こうボード ( ) (塗装 クロス) ①
	天井 石こうボード クロス張り ( ) (材質仕上)	天井 化粧石こうボード クロス張り ( ) (樹種塗装)
	廻縁 木製 ( ) (材質仕上)	廻縁 木縁 ( ) (樹種塗装)
	壁 モルタルこて押え ( ) (塗装 クロス)	壁 石こうボード ( ) (塗装 クロス) ①

- ① 内装制限下地共不燃の場合は、表面仕上の石こうボードを不燃石こうボードとする。又、厨房等湿気のある室には石こうボードは  
 ② 100m<sup>2</sup> 内外、又は15m内外にボードに目地を設ける。  
 ③ ほつれやすいクロス、厚手のクロス等には廻縁のある納りとする。  
 ④ 廻縁は「L」型「C」型「□」型を適宜測定して図を修正する。



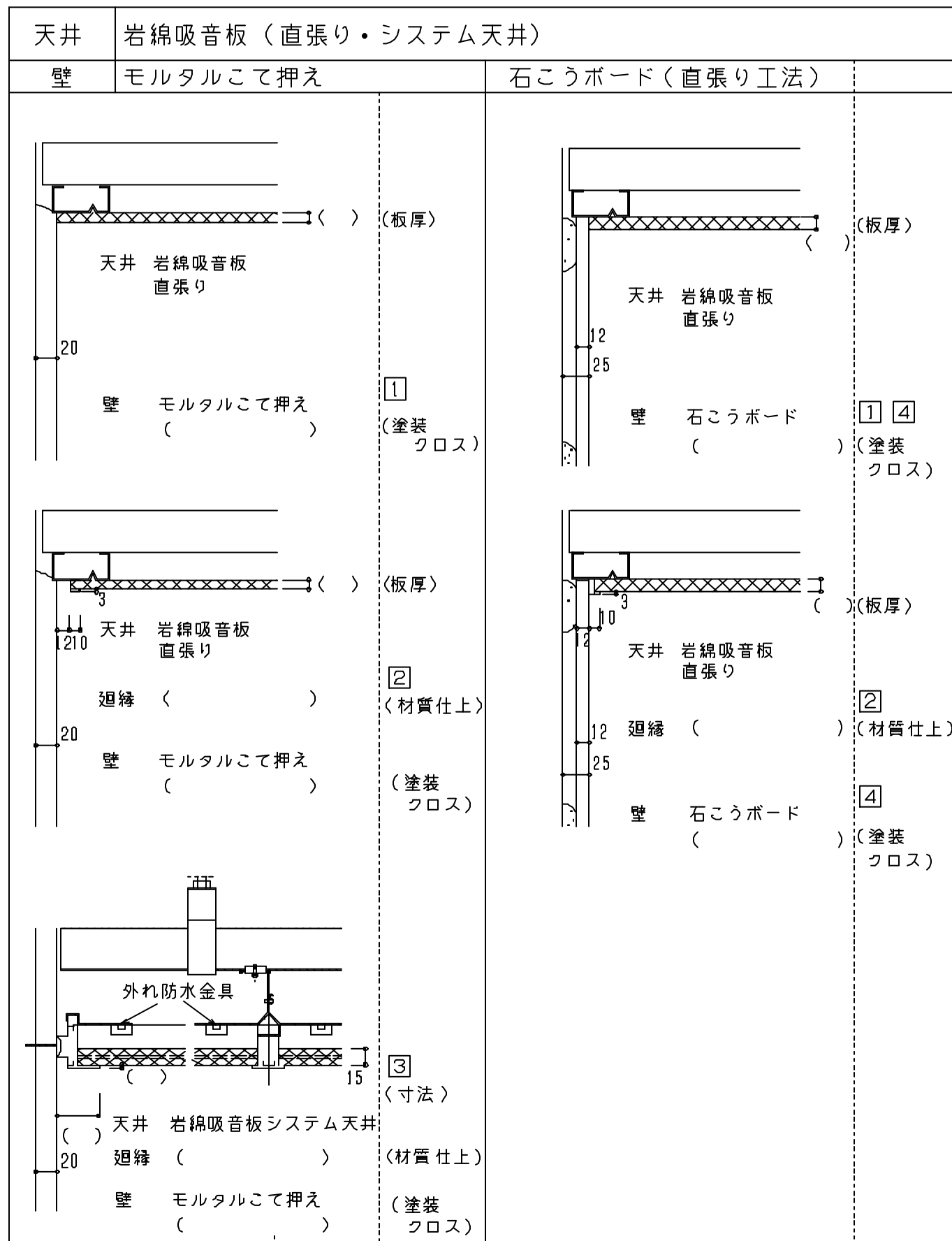
- ① 目地無しの場合は100mm内外,又は15㎡内外にボードに目地を設ける。
- ② ほつれやすいクロス,厚手のクロス等には廻縁のある納りとする。
- ③ 内装制限で不燃の場合は,表面上の石こうボードを不燃石こうボードとする。
- ④ 遮音を必要とする場合は,共通事項・壁下地の項(共通1)参照の

- ⑤ 廻縁は「L」型「T」型「□」型を適宜選定して図を修正する。
- ⑥ 石こうボードを一重張りとする場合は上層の9mmボードを削除し,壁と天井の接点納りは直張り工法に準ずる。

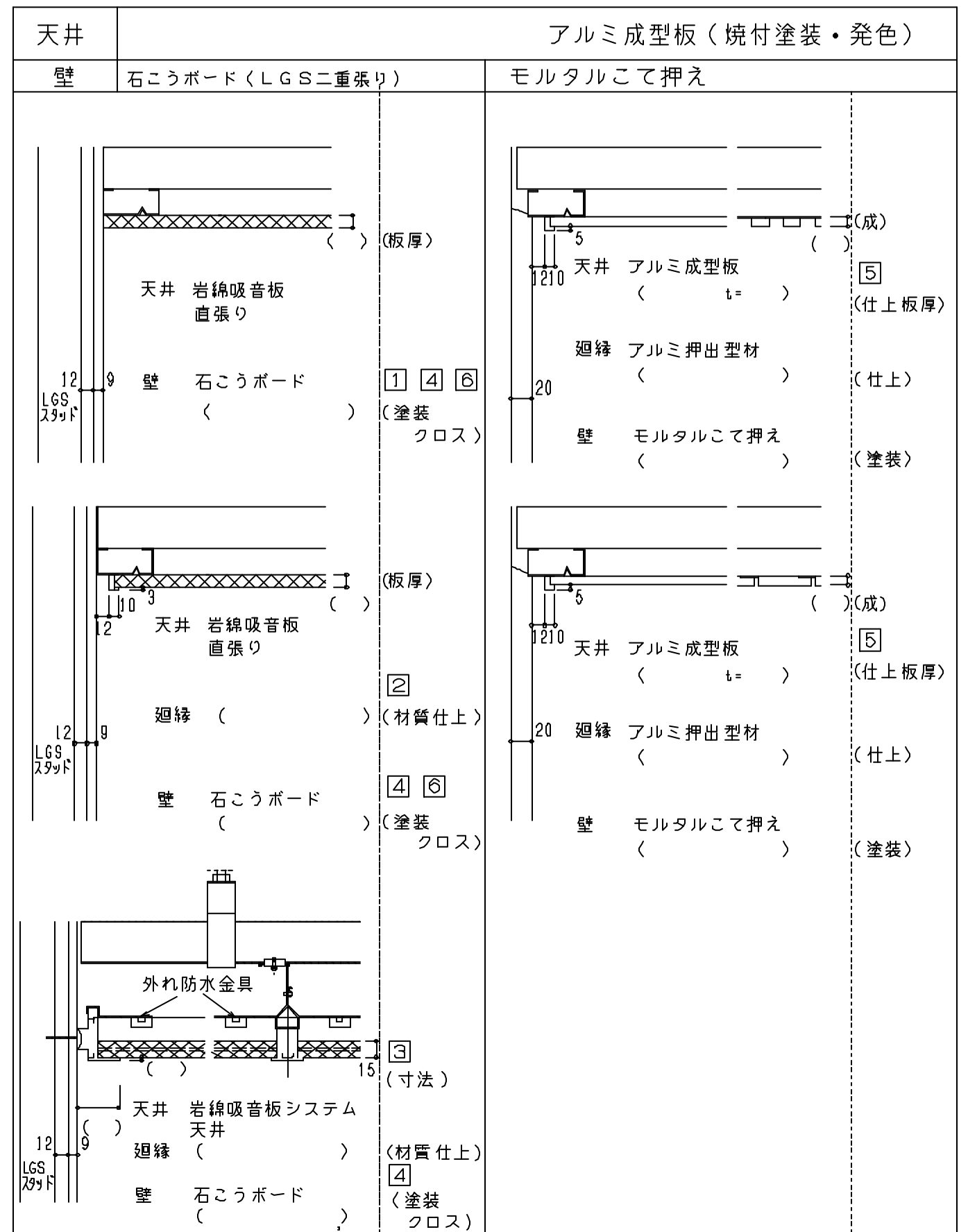


- ① 内装制限下地共不燃の場合、石こうボード下地を不燃石こうボードとする。
- ② ほつれやすいクロス、厚手のクロス等には廻縁のある納りとする。
- ③ 内装制限で不燃の場合は、表面上の石こうボードを不燃石こうボードとする。
- ④ 石こうボードを一重張りとする場合は上層の9mmボードを削除し、壁と天井の接点納りは直張り工法に準ずる。廻縁は「L型」「U型」「I型」型を適宜選定して図を修正する。

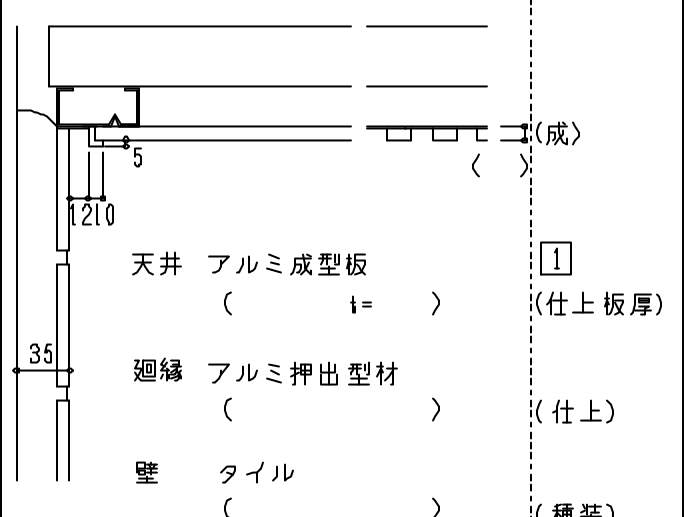
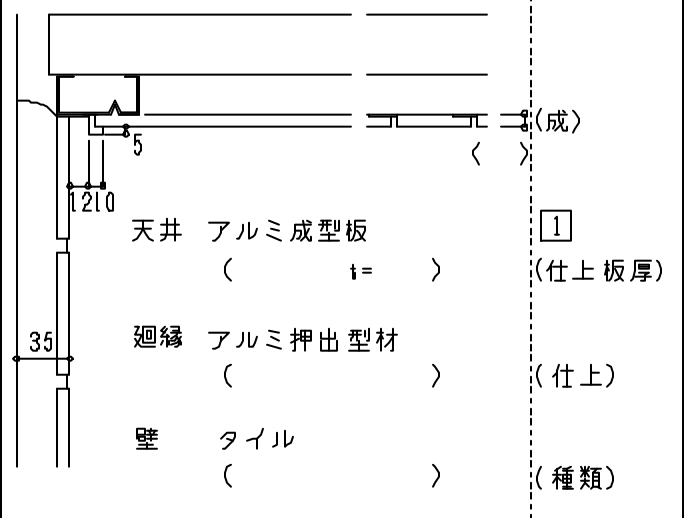
- ⑤ 有孔板には有孔繊維混入セメント珪酸カルシウム板t=8がある。孔の有孔率は8%（φ20程度）以下とする。内装制限のある場合は、下地、寒冷紗、表面材に注意する。
- ⑥ 石厚、仕上代は、共通事項・石の項（共通6）参照のこと。

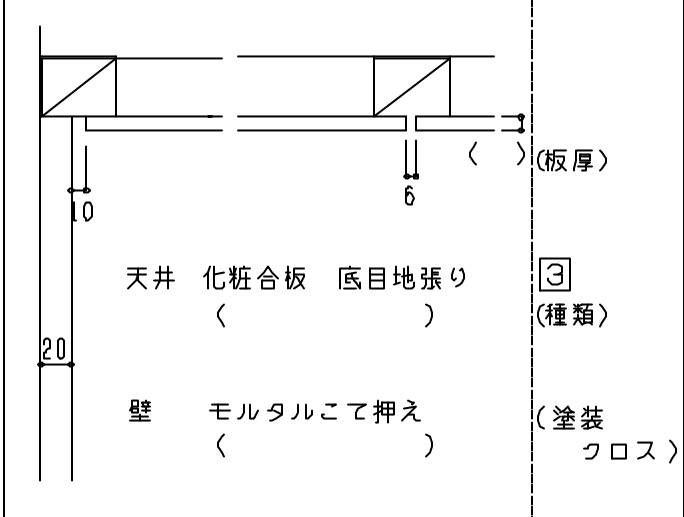
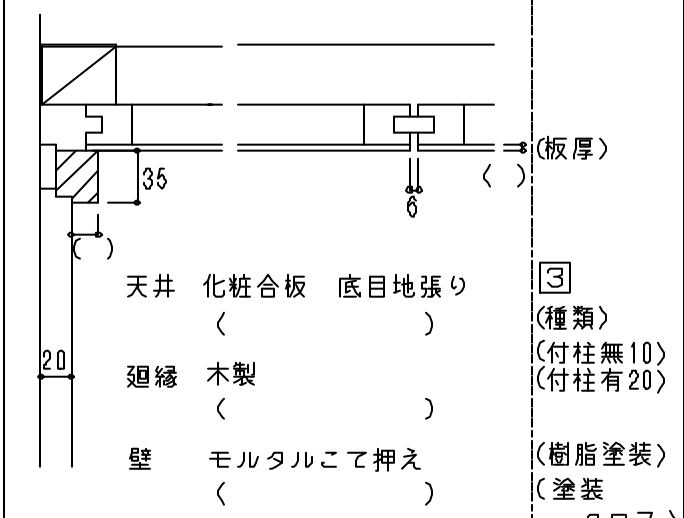



- ① ぼつれやすいクロス，厚手のクロスには廻縁のある納りとする。
- ② 廻縁は「L」型「U」型「□」型を適宜選定して図を修正する。
- ③ 地震時の落下防止は上記の他，廻縁を壁に固定せず野縁に止める方法もある。
- ④ 内装制限で不燃の場合は，表面仕上の石こうボードとする。



- ⑤ 成型板の形状，板厚，表面仕上，加工の程度（ロールホーミング成型，プレス成型，押出成型）及び定尺寸法によるジョイント方法を明記する。
- ⑥ 石こうボード一重張りとする場合は上層の9mmボードを削除し，壁と天井の接点納りは直張り工法に準ずる。

天井	アルミ成型板（焼付塗装・発色）	
壁	タイル	石・テラゾブロック
	天井 アルミ成型板 ( t= ) (成) (仕上板厚)	天井 アルミ成型板 ( t= ) (成) (仕上板厚)
廻縁 アルミ押出型材 ( ) (仕上)	廻縁 アルミ押出型材 ( ) (仕上)	廻縁 アルミ押出型材 ( ) (仕上)
壁 タイル ( ) (種装)	壁 タイル ( ) (種装)	壁 石 ( ) (石厚) (仕上代) (種類仕上)
	天井 アルミ成型板 ( t= ) (成) (仕上板厚)	天井 アルミ成型板 ( t= ) (成) (仕上板厚)
廻縁 アルミ押出型材 ( ) (仕上)	廻縁 アルミ押出型材 ( ) (仕上)	廻縁 アルミ押出型材 ( ) (仕上)
壁 タイル ( ) (種類)	壁 タイル ( ) (種類)	壁 石 ( ) (石厚) (仕上代) (種類仕上)

天井	合板（化粧板・練付合板）	
壁	モルタルこて押え	石こうボード（直張り工法）
	天井 化粧合板 底目地張り ( ) (板厚)	天井 化粧合板 底目地張り ( ) (板厚)
壁 モルタルこて押え ( ) (塗装クロス)	壁 モルタルこて押え ( ) (塗装クロス)	壁 石こうボード ( ) (塗装クロス)
	天井 化粧合板 底目地張り ( ) (板厚)	天井 化粧合板 底目地張り ( ) (板厚)
廻縁 木製 ( ) (付柱無10) (付柱有20)	廻縁 木製 ( ) (付柱無10) (付柱有20)	廻縁 木製 ( ) (付柱無10) (付柱有20)
壁 モルタルこて押え ( ) (樹脂塗装) (塗装クロス)	壁 モルタルこて押え ( ) (樹脂塗装) (塗装クロス)	壁 モルタルこて押え ( ) (塗装クロス)
	天井 化粧合板 ( ) (板厚)	天井 化粧合板 ( ) (板厚)
廻縁 さお縁製木製 ( ) (樹脂)	廻縁 さお縁製木製 ( ) (樹脂)	廻縁 さお縁製木製 ( ) (樹脂)
壁 モルタルこて押え ( ) (塗装クロス)	壁 モルタルこて押え ( ) (塗装クロス)	壁 石こうボード ( ) (塗装クロス)

- ① 成型板形状、板厚、表面仕上、加工の程度（ロールホーミン成型、プレス成型、押出成型）及び定尺寸法によるジョイント方法を明記する。
- ② 石厚、仕上代は、共通事項の石の項（共通6）参照のこと。
- ③ 化粧合板には、天然木化粧合板、オーバーレイ加工合板等がある。

天井	合板・(化粧合板・練付合板)	
壁	石こうボード (LGS二重張り)	練付合板
<p>天井 化粧合板 底目地張り (板厚) (種類)</p> <p>壁 石こうボード (塗装クロス)</p> <p>12 LGS スタッド 9</p>	<p>天井 化粧合板底目地張り (板厚) (樹種 塗装)</p> <p>壁 練付合板 化粧目地張り (樹種 塗装)</p> <p>10 60 6</p>	
<p>天井 化粧合板 底目地張り (板厚) (種類)</p> <p>廻縁 木縁 (付柱無10) (付柱有20)</p> <p>壁 石こうボード (樹種 塗装) (塗装クロス)</p> <p>12 LGS スタッド 9 35 6</p>	<p>天井 化粧合板底目地張り (板厚) (樹種 塗装)</p> <p>壁 練付合板 化粧目地張り (樹種 塗装)</p> <p>10 60 6</p>	
<p>天井 化粧合板底目地張り (板厚) (種類)</p> <p>廻縁 木製 (付柱無10) (付柱有20)</p> <p>壁 石こうボード (樹種 塗装) (塗装クロス)</p> <p>12 LGS スタッド 9 35 30 25 6</p>	<p>天井 化粧合板底目地張り (板厚) (種類)</p> <p>壁 練付合板 化粧目地張り (樹種 塗装)</p> <p>10 60 6</p>	

① 化粧合板には、天然木化粧合板、プリント合板、オーバーレイ加工等がある。

② 特に遮音が要求される場合は天井裏まで二重張りとする。

③ 天井裏に他の室と区画された壁がない場合は、耐水合板 (t=5.5) の捨張りを行う。

天井	プラスチック成型品	
壁	モルタルこて押え	タイル
<p>木製下地 ③300防腐剤塗布 (成)</p> <p>天井 プラスチック成型品 (仕様)</p> <p>20 廻縁 プラスチック成型品 (塗装)</p> <p>壁 モルタルこて押え (種類)</p>	<p>木製下地 ③300防腐剤塗布 (成)</p> <p>天井 プラスチック成型品 (仕様)</p> <p>25 廻縁 プラスチック成型品 (種類)</p> <p>壁 タイル (種類)</p>	
<p>木製下地 ③300防腐剤塗布 (成)</p> <p>天井 耐水合板下地 プラスチック成型品 (仕様)</p> <p>20 廻縁 プラスチック成型品 (塗装)</p> <p>壁 モルタルこて押え (種類)</p>	<p>木製下地 ③300防腐剤塗布 (成)</p> <p>天井 耐水合板下地 プラスチック成型品 (仕様)</p> <p>25 廻縁 プラスチック成型品 (種類)</p> <p>壁 タイル (種類)</p>	